

令和元年度

(2019年度)

社会福祉法人 鈴鹿聖十字会

事業報告書

(社会福祉事業・公益事業)

社会福祉法人 鈴鹿聖十字会
特別養護老人ホーム 鈴鹿聖十字の家
障害者支援施設 菰野聖十字の家
特別養護老人ホーム 菰野聖十字の家
介護老人保健施設 聖十字ハイツ
ケアハウス 白百合ハイツ
聖マリアこども園
聖十字四日市老人福祉施設
菰野聖十字の家診療所

目 次

《社会福祉事業の部》

- 社会福祉法人 鈴鹿聖十字会・・・ p1～4
- 特別養護老人ホーム 鈴鹿聖十字の家・・・ p5～28
- 障害者支援施設 菰野聖十字の家・・・ p29～39
- 特別養護老人ホーム 菰野聖十字の家・・・ p40～51
- 介護老人保健施設 聖十字ハイツ・・・ p52～60
- ケアハウス 白百合ハイツ・・・ p61～64
- 聖マリアこども園・・・ p65～72
- 聖十字四日市老人福祉施設・・・ p73～88

《公益事業の部》

- 菰野聖十字の家診療所・・・ p89

令和元年度 社会福祉法人 鈴鹿聖十字会 事業報告書

I. はじめに

社会福祉法人鈴鹿聖十字会は、福祉や医療サービスを必要とする方々に寄り添い、その声に耳を傾け、人間性、尊厳、さらにはその方の生きる権利を最大限に尊重する医療・保健・福祉サービスを総合的に提供できる体制を整備し、地域住民の安心を生み出す福祉医療の拠点となることを目標とし、令和元年度は以下のことを実施した。

II. 令和元年度実施事業

1. 社会福祉事業

(1) 第1種社会福祉事業

- ・特別養護老人ホームの経営
(鈴鹿聖十字の家、菰野聖十字の家、聖十字四日市老人福祉施設)
- ・障害者支援施設の経営
(障害者支援施設 菰野聖十字の家)
- ・ケアハウスの経営
(ケアハウス 白百合ハイツ)

(2) 第2種社会福祉事業

- ・認定こども園の経営 (聖マリアこども園)
- ・介護老人保健施設の経営 (聖十字ハイツ)
- ・老人居宅介護等事業の経営 (鈴鹿聖十字の家)
- ・老人短期入所事業の経営 (鈴鹿聖十字の家・菰野聖十字の家・聖十字四日市老人福祉施設)
- ・障害福祉サービス事業の経営 (菰野聖十字の家)
- ・老人デイサービスセンターの経営 (聖十字四日市老人福祉施設)
- ・老人介護支援センターの経営 (聖十字四日市老人福祉施設)
- ・病児保育事業の経営 (聖マリアこども園)
- ・特定相談支援事業の経営 (障害者相談支援事業所菰野聖十字の家)
- ・障害児相談支援事業の経営 (障害者相談支援事業所菰野聖十字の家)

2. 公益事業

- ・診療所の経営 (菰野聖十字の家診療所)
- ・居宅介護支援事業 (聖十字四日市老人福祉施設)
- ・訪問看護事業・介護予防訪問看護事業 (事業休止中)

Ⅲ. 事業の主な動き

1. 法人全体の主な動き

① 特別養護老人ホーム・障害者支援施設「菰野聖十字の家」の個室ユニット化改築工事

昭和 54 年に建築された「菰野聖十字の家」は、利用者様へのより快適な生活環境と最新のサービス提供の実現を目指し、新たに 6 階建ての個室ユニット型施設（特別養護老人ホーム 60 床、障害者支援施設 60 床）の増改築工事が完了し、令和元年 12 月 1 日より、新しい建物での事業を開始した。この変更に伴い、特別養護老人ホーム「菰野聖十字の家」は、60 床の個室ユニット型施設と、30 床の従来型個室・多床室施設の 2 つの事業体系となり、障害者支援施設「菰野聖十字の家」は、定員 60 名すべて個室ユニット型での事業となることにより、地域住民のより幅広いニーズに対応できる体制となった。



6 階居室からの眺望

② 地域リハビリテーション推進事業 認知症ケア研修「認知症の方の見える世界」の開催

法人の地域貢献活動の一環として、地域の医療福祉関係者を対象に、地域の医療、福祉、リハビリ関係者に対し、菰野町ならびに菰野町社会福祉協議会の後援のもと、「認知症の方の見える世界ー認知症に伴う大脳皮質機能障害の理解とリハビリテーションー」というテーマで、研修会を実施した。今回の講演会の講師である木原幹洋先生は、日本神経学会専門医および指導医として国内外でご活躍されており、講義内容も非常にわかりやすく、かつ内容豊かなものであった。実際に、日頃より診察されている認知症患者様や、そのご家族様とのかかわりの中での具体的な取り組み内容や、「凍りつき症候群」、「保続」から引き起こされるさまざまな症状への対応方法等や、最新かつ具体的な情報が満載で、非常に興味深い講演であった。実際に参加者からは、「とても分かりや



研修会の様子

すく、実際のケアの場面ですぐに導入できる話であった」との声も多く聞かれた。

また、参加者の状況については、町内の社会福祉法人、各医療機関、福祉事業所で活躍されている専門職が多数集まったこともあり、貴重な意見交換や情報交換の場ともなり、大変有意義で、効果的な講演会であった。

研修名：第4回 地域リハビリテーション推進事業

認知症ケア研修「認知症の方の見える世界」

－ 認知症に伴う大脳皮質機能障害の理解とリハビリテーション －

講師：木原 幹洋 先生（医師、日本神経学会専門医および指導医）

日時：令和元年12月3日（火）午後5時～午後6時30分

会場：介護老人保健施設聖十字ハイツ 1Fホール

参加者：38名（参加者37名、講師1名）

参加者内訳：近隣施設・医療機関の理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、看護師、介護支援専門員、介護福祉士、社会福祉士、精神保健福祉士、他

③ 法人内マネジメントシステムを活用した客観的根拠に基づく事業経営の実施

- (1) 施設整備・サービスの充実
- (2) 教育・研修の充実と職員のレベルアップ
- (3) 人材の確保と施設間人事管理の統一
- (4) リスクマネジメントの強化
- (5) 財務・経理管理の改善
- (6) 給食センター運営体制の充実
- (7) 広報活動（ホームページ、広報誌など）の充実

上記の項目について、法人および各施設で具体的な取り組みを進めた。

④ 専門職の確保、教育の充実・経営基盤及び各施設間連携の強化

従来の採用活動では、十分な専門職の確保が難しい状況となっているため、今年度より採用活動に関する専門のコンサルティング会社の活用や、大学、専門学校との連携をより緊密なものにすることで、質の高い職員の確保に努めた。さらに法人全体で実施する研修、そしてその具体的な展開のための各施設での教育訓練を計画的に実施し、社会福祉法人職員として、利用者の人権を守り、地域でのより良い生活を実現できる知識・技術の獲得を目指した。また各施設間の人事管理方法の統一、向上を図るとともに、職員間において技術の研鑽や相互牽制が可能となるシステムの構築について検討を進めていった。

経営基盤の強化については、理事長、各施設長による「施設長会議」を毎月開催し、各施設の課題や利用者の満足度向上、職員の教育方法、さらには稼働率アップのための具体的方法について検討するとともに、各施設での取り組み内容や、成功事例等を積極的に共有し、的確な事務処理、稼働率の管理を行うための協議を実施し、利用者に対する具体的なサービスの資質向上と、コンプライアンスの徹底を図った。

2. 会議

当法人の適切な運営のために次の会議を開催した。

- (1) 理事会 年4回(6月3日、6月19日、12月18日、3月25日)
- (2) 評議員会 年1回(6月19日)

3. 教育・研究

- (1) 施設長等を対象に、マネジメント能力向上を図るための研修会議を毎月開催した。
- (2) 職員の資質向上をめざし、各施設でテーマ別に専門研修を実施した。

4. 監査

定款・諸規定等・県の指導に従い以下のとおり監査を実施した。

- (1) 監事監査(5月30日)、税理士監査(5月13日)
- (2) 三重県指導監査(2月27日～28日)

5. 広報

機関紙およびインターネット等を活用して、情報公開を行うとともに、福祉・医療に関する理解と参加を促進する広報活動を行った。(菰野聖十字の家『そよ風』・鈴鹿聖十字の家『すばる』・聖十字ハイツ『もみの木』の発行、法人ホームページなど)

6. 地域との連携・交流・ボランティアの受け入れ

地域包括ケアの具体的な推進を目指し、菰野町で開催される「地域ケア会議」に参加し、地域での情報共有および連携を図った。さらに、地域の中では、地域住民の方々やボランティアの方とともに支え合いの仕組みを構築することができるよう、以下のことを実施した。

- ① 5月家族交流会 (5月3日)
- ② 盆踊り (7月20日)
- ③ 9月家族交流会 (9月15日、16日)
- ④ こども園・施設・地域合同運動会 (10月14日)
- ⑤ ホーム喫茶 (毎月1回)

IV. 新規事業の展開

法人が持つ様々な社会資源や人的資源を有効活用し、地域での住みよい生活の実現に向けて、今年度は(株)富士通フィールドイノベーション本部と連携を取り、森林セラピー基地の設置や会場整備、さらに新しいヘルスケアを都市機能として組み込んだ、健康で安心・安全に生活できる「スーパーシティー構想」を目指して様々な協議や、諸準備を実施した。

令和元年度 特別養護老人ホーム 鈴鹿聖十字の家 事業報告書

事業内容：特別養護老人ホーム（ユニット型介護老人福祉施設）定員 60 名
短期入所生活介護（空床利用型）
居宅介護支援

I. 施設運営全般

「施設を利用される皆様が安全に、安心して、楽しく生活していただくために、優しく、親切で丁寧なサービスを提供する」ことを基本方針として、事業を行った。

① 「安全」について

- ・感染症予防委員会が策定した予防計画を全職員が再確認し、継続的に実行することにより、利用者様の感染症をゼロにすることができた。
- ・事故の発見から報告、発生状況と再発防止策を全職員で共有し、介護事故予防委員会を中心に取り組んだ。介護ロボット（センサーベッド）、センサーマット等の利用により軽微なものまですべて報告・共有できる仕組みが定着した。

② 「安心」について

- ・入居者の皆様に安心して生活していただくために、各ユニットにおいて様々な取り組みを計画し、実践していった。その実施状況に関しては、各ユニットの事業報告に記載あり。また職員の資質向上のため毎月内部研修を実施した。外部研修についても例年以上に参加することができた。
- ・「身体拘束の全廃」を目指し、身体拘束廃止委員会を中心として取り組んだ。常に身体拘束を解除できるように検討し、拘束時間の短縮や解除を実施した。
※令和2年3月31日現在、身体拘束ゼロ。

③ 「楽しく」について

- ・ユニット内における季節の催しや食事会、お菓子作り、誕生会などを行った。
- ・ユニット間の交流行事として、各職種連携のもと、喫茶行事を2階共用部にて毎月実施した。
- ・お花見、喫茶店、「いきいき介護フェスタ」、鈴鹿老協交流会等の外出行事を行った。もう少し頻繁に外出行事を実施したかったが、職員不足によりなかなか実施できなかった。
- ・施設敷地内の菜園にて野菜作りや花の栽培、近隣の散策などを行い、入居者の方々が自然と触れ合える機会を提供した。

II. 運営上の目標の達成状況

1. 運営安定化のための稼働率向上・維持

年間稼働率目標を 98%と定め、受け入れ促進を行った。

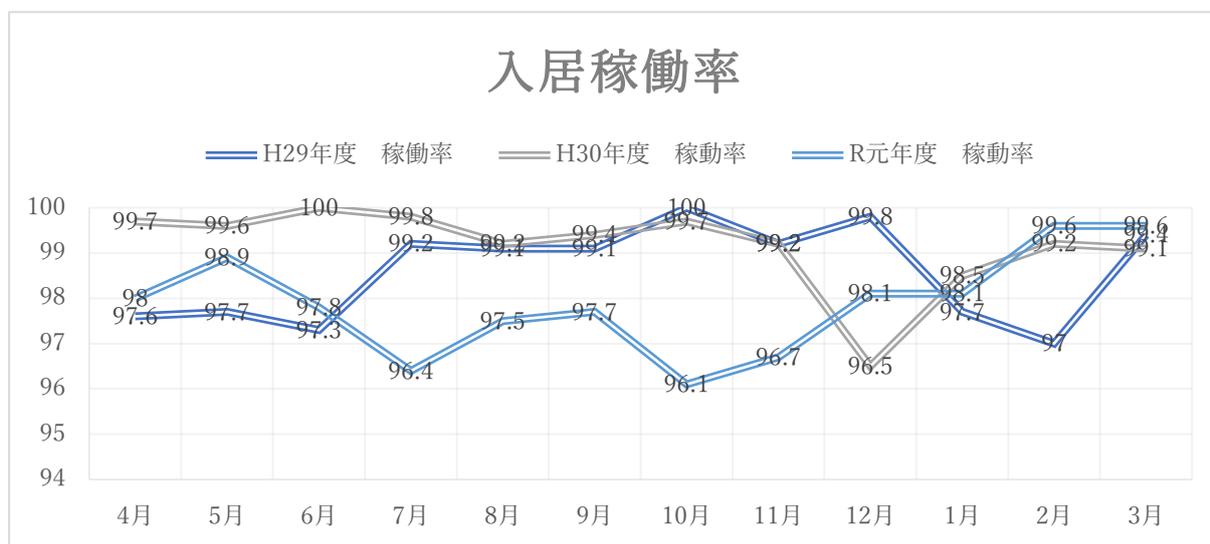
年間稼働率実績は 97.87%となり、目標には 0.13%足りなかった。

退所の数は昨年度 17 名、本年度は 18 名とほぼ変わりはないが、入院数が昨年度の 3 名から 10 名に増加しており、入院ベッドの空床が多く見られた。

入居者様の日々の健康管理に努め、入院延べ人数の減少に努めていく。また入院時の空床ベッドは短期入所生活介護を積極的に利用し稼働率を上げていきたい。

鈴鹿聖十字の家 令和元年度 稼働率の状況 (単位：%)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
稼働率	98.0	98.9	97.8	96.4	97.5	97.7	96.1	96.7	98.1	98.1	99.6	99.6



2. 職員の資質向上のための取り組み

施設内研修 (伝達研修) を毎月実施した。(講師：施設長)

4月： ①高齢者虐待防止について

②高齢者の事故防止について

5月： 介護職員が実施する吸痰について

6月： ①身体拘束等の排除のための取り組みに関して

②感染症等について

7月： 医療に関する知識・褥瘡予防について

8月： 権利擁護について

9月： 利用者のプライバシー保護の取り組みについて

10月： 身体拘束について

- 11月： 感染症の発症及び食中毒の予防及び蔓延の防止について
- 12月： 認知症に関する知識及び認知症ケアについて
- 1月： 事故の発生予防・事故の発生等緊急時の対応について
- 2月： 看取りについて
- 3月： ①ハラスメントについて
②倫理及び法令遵守について

施設外研修への参加状況は以下の通りであった。

- ①平成31年4月16日 介護職のための接遇マナー
介護職員1名 於：三重県勤労者福祉会館
- ②令和元年5月20日～22日 6月11日～14日 ユニットリーダー研修
ユニットリーダー1名 於：imy(講習) 特別養護老人ホームうねめの里 (実地研修)
- ③令和元年5月28日 鈴鹿北部地域包括圏域ケアマネージャー支援会議
居宅ケアマネージャー1名 於：ケアサービス矢橋
- ④令和元年6月4日、6月11日 介護現場の接遇研修
介護職員4名、施設長1名 於：老人保健施設 聖十字ハイツ
- ⑤令和元年6月6日 事例検討会
居宅ケアマネージャー1名 於：ケアサービス矢橋
- ⑥令和元年6月12日 令和元年度第1回雇用管理改善啓発セミナー
施設長1名 於：三重県教育文化会館
- ⑦令和元年6月15日 経営戦略トップセミナー
施設長1名 於：三重県総合文化センター
- ⑧令和元年6月18日 安全運転管理者講習
介護主任1名 於：鈴鹿地域職業訓練センター
- ⑨令和元年7月18日～19日 令和元年度東海北陸ブロック老人福祉施設研究大会
施設長1名 於：フェニックス・プラザ
- ⑩令和元年7月22日 令和元年度第一回健康確保セミナー
施設長1名 於：三重県勤労者福祉会館
- ⑪令和元年7月23日 令和元年度地域権利擁護支援研修(権利擁護普及啓発研修会)
施設長1名 於：三重県総合文化センター
- ⑫令和元年7月30日～31日 キャリアパス対応生涯研修「チームリーダーコース」
ユニットリーダー1名 於：三重県社会福祉会館
- ⑬令和元年8月21日～22日 キャリアパス対応生涯研修「チームリーダーコース」
ユニットリーダー1名 於：三重県社会福祉会館
- ⑭令和元年9月4日～5日 キャリアパス対応生涯研修「中堅職員コース」
介護職員1名 於：三重県社会福祉会館
- ⑮令和元年9月6日 認定調査員現任研修会
居宅ケアマネージャー1名 於：三重県総合文化センター

- ⑩令和元年9月10日 特養部会研修会
生活相談員1名 於：三重県総合文化センター
- ⑪令和元年10月2日～3日 キャリアパス対応生涯研修「中堅職員コース」
介護職員1名 於：三重県社会福祉会館
- ⑫令和元年10月8日 人材育成に関する研修会
介護主任1名 於：三重県総合文化センター
- ⑬令和元年10月9日 鈴鹿地区老施協職員研修会
介護職員1名 於：鈴鹿市文化会館
- ⑭令和元年10月10日 第一回豊かな介護人材が揃う魅力ある職場づくりセミナー
施設長1名 於：じばさん三重
- ⑮令和元年10月28日、11月25日 介護施設等における権利擁護推進員養成研修
生活相談員 於：三重県社会福祉会館
- ⑯令和元年10月29日 外国人介護人材の確保に関する研修会
施設長1名 於：三重県社会福祉会館
- ⑰令和元年11月8日 利用者の安全に関するリスクマネジメント
施設長1名 於：三重県教育文化会館
- ⑱令和元年11月18日 令和元年度事業所一日消防訓練
介護職員1名 於：三重県消防学校
- ⑲令和元年12月23日 ストレス対処力を育む健康生成的な介護職場環境づくり
施設長1名 於：三重県勤労者福祉会館
- ⑳令和2年1月16日 令和元年度給食施設管理者研修会
管理栄養士2名 於：津リージョンプラザお城ホール
- ㉑令和2年1月21日 第4回豊かな介護人材が揃う魅力ある職場づくりセミナー
施設長1名 於：三重県勤労福祉会館
- ㉒令和2年2月13日 第5回豊かな介護人材が揃う魅力ある職場づくりセミナー
施設長1名 於：三重県勤労福祉会館
- ㉓令和2年3月11日 令和元年度給食従事者研修会
管理栄養士1名 於：三重県鈴鹿庁舎

3月中旬以降にも外部研修をいくつか予定していたが、新型コロナウイルス感染症の影響により主催者側からの中止で行くことができなかった。

3. 経費の節減

光熱費について

電気、ガス（使用料金）の累計前年比が98.2%となり1.8%の削減ができた。前年に比べ冬季が暖かったことと節電を実施した効果があらわれた。

4. 人材の育成・定着化

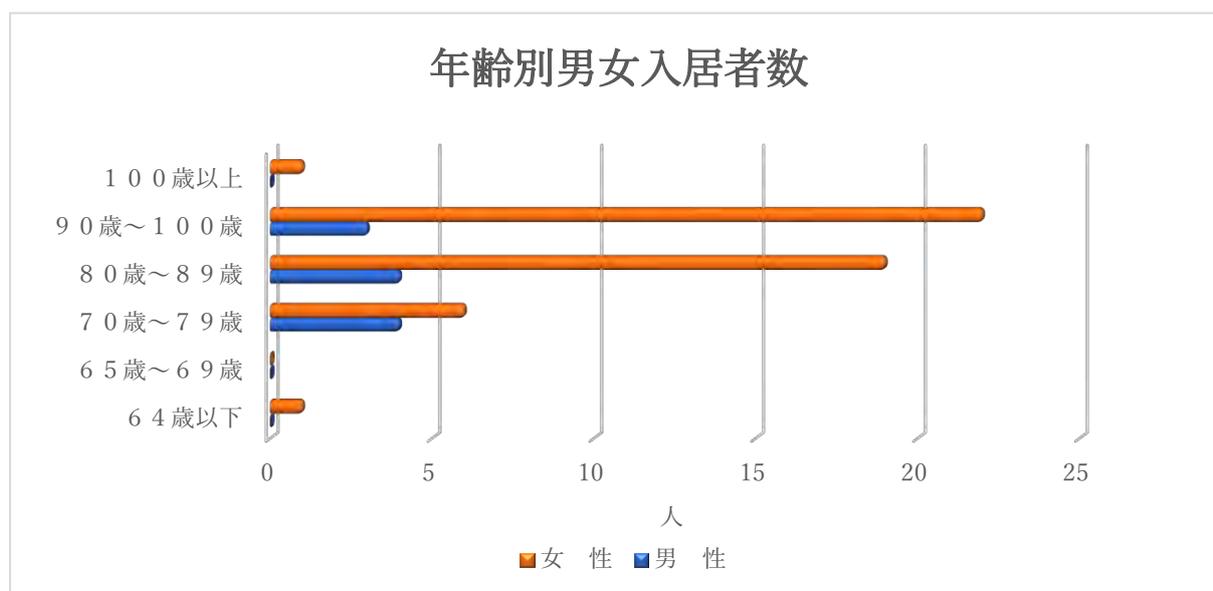
「アセッサー」資格を取得した職員を中心として、そのノウハウを新入職員の教育訓練に活用した。また既存の職員については内部研修・外部研修等を通じて意欲向上を図るとともに、働きやすい職場環境づくりを進めた。

Ⅲ. 入居者の状況

1. 年齢別男女入居者数

令和2年3月31日現在

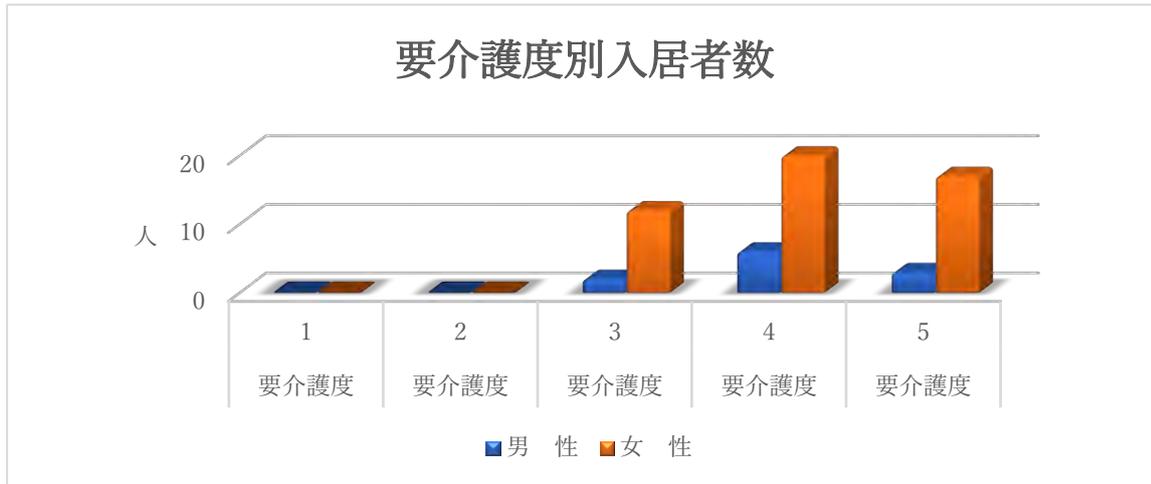
	64歳以下	65歳～69歳	70歳～79歳	80歳～89歳	90歳～100歳	100歳以上	合計
男性	-	-	4	4	3	-	11
女性	1	-	6	19	22	1	49
合計	1	-	10	23	25	1	60



2. 要介護度別入居者数

令和2年3月31日現在

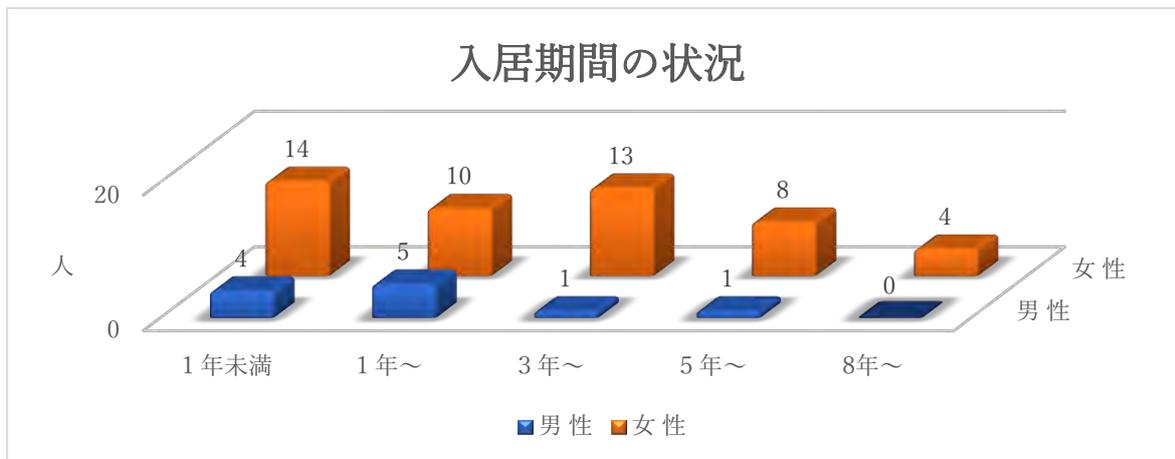
	要介護度1	要介護度2	要介護度3	要介護度4	要介護度5	合計
男性	-	-	2	6	3	11
女性	-	-	12	20	17	49
合計	-	-	14	26	20	60



3. 入居期間の状況

令和2年3月31日現在

	1年未満	1年～	3年～	5年～	8年～	合計	平均期間
男性	4	5	1	1	-	11	20ヶ月
女性	14	10	13	8	4	49	39.1ヶ月
合計	18	15	14	9	4	60	35.6ヶ月

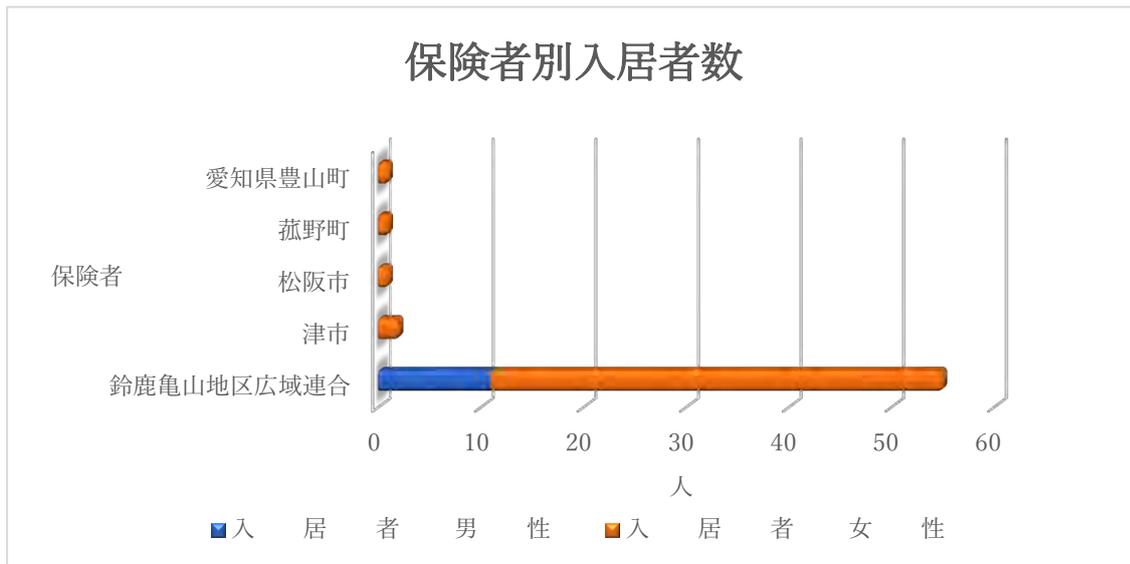


4.

保険者別入居者数

令和2年3月31日現在

保険者名	入居者数		合計
	男性	女性	
鈴鹿亀山地区広域連合	11	44	55
津市	-	2	2
松阪市	-	1	1
菰野町	-	1	1
愛知県豊山町	-	1	1
合計	11	49	60



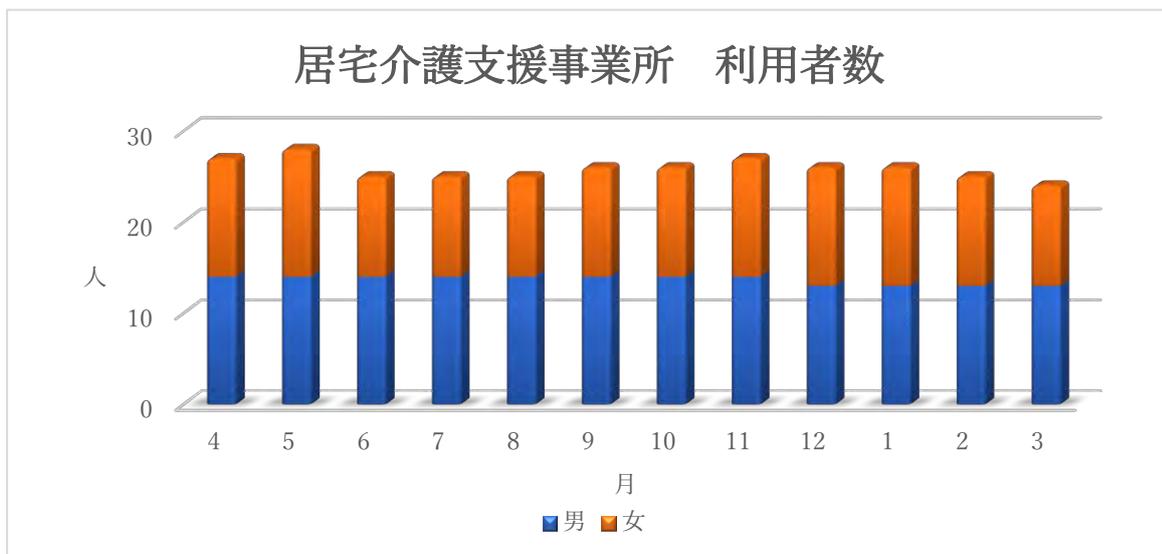
IV. 居宅介護支援事業の状況

資料3：居宅介護支援事業の状況

居宅介護支援事業の利用者数

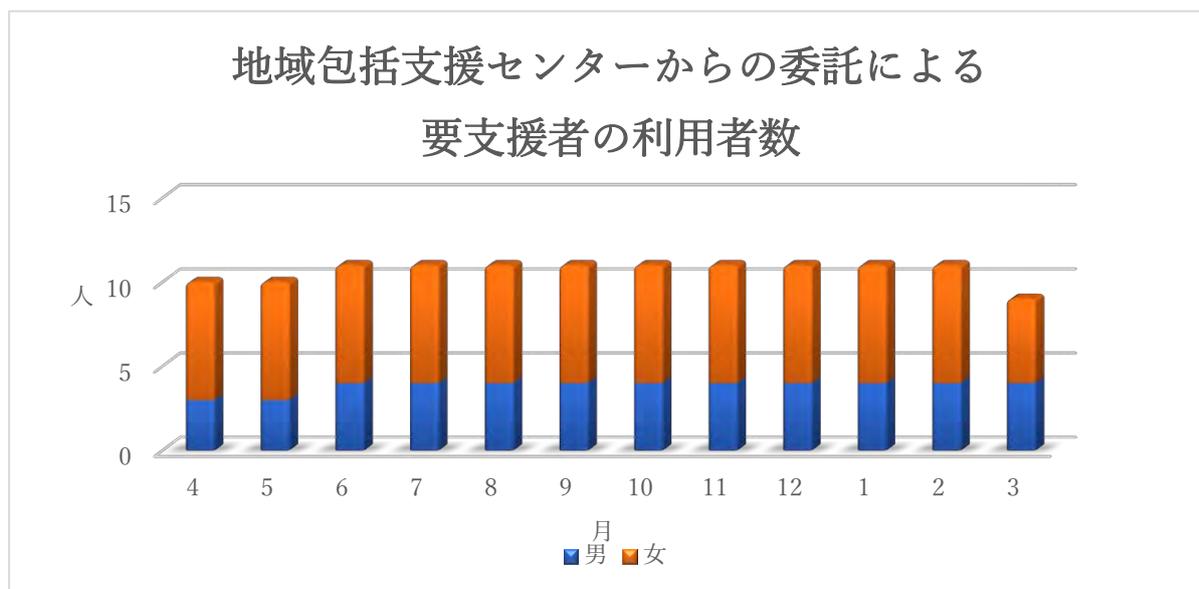
(令和元年度)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
男	14	14	14	14	14	14	14	14	13	13	13	13	164
女	13	14	11	11	11	12	12	13	13	13	12	11	146
計	27	28	25	25	25	26	26	27	26	26	25	24	310



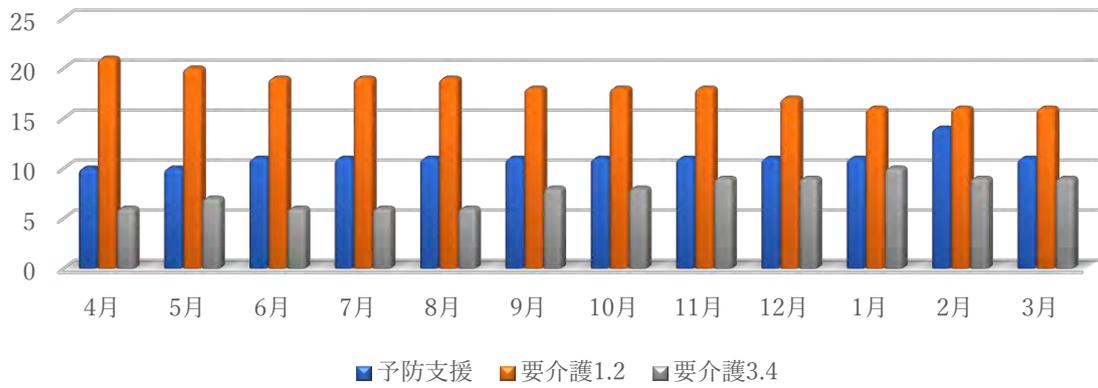
地域包括支援センターからの委託による要支援者の利用者数 (令和元年度)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
男	3	3	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	46
女	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	5	82
計	10	10	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	128

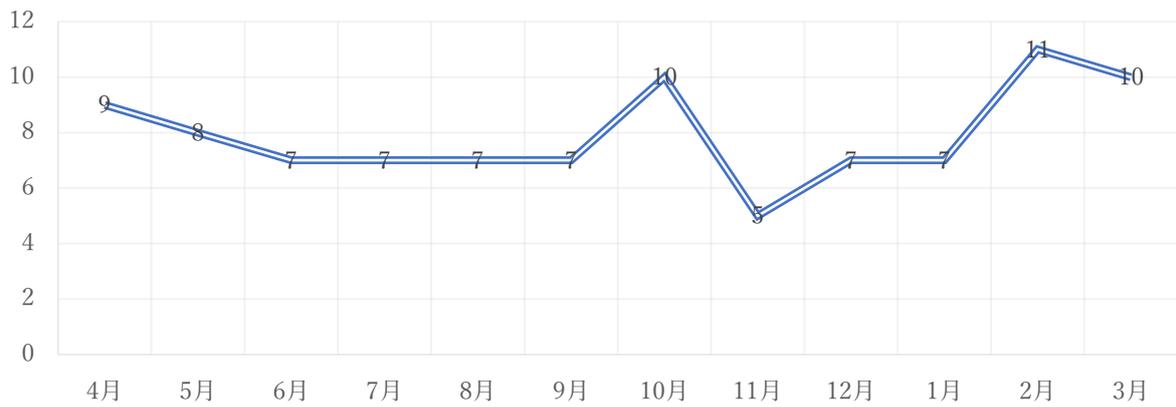


	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均
予防支援	10	10	11	11	11	11	11	11	11	11	14	11	133	11.1
要介護 1.2	21	20	19	19	19	18	18	18	17	16	16	16	217	18.1
要介護 3.4	6	7	6	6	6	8	8	9	9	10	9	9	93	7.8
認定調査	9	8	7	7	7	7	10	5	7	7	11	10	95	7.9

居宅介護支援 月別件数



認定調査委託件数



V. 各ユニットの事業報告

1. 「海」ユニット 令和元年度事業報告

項目	目的	具体的行動計画	計画事項の実施状況
ユニットMの実施	個別ケアカンファレンス。 意志統一。 伝達。	2カ月に1回おこなう。	ミーティングできない月もあった。その都度連絡帳や口頭により意思統一・伝達を行う。
行事の実施	入居者皆様に楽しみを持っていただく。	1階合同行事 (季節に応じたの行事の実施。	実施はできた。 人員や感染症等の影響あった期間は代替の行事を行った。
ユニット内の掃除	共同生活室の床などの掃除 空調関係等。	共同生活室の掃除各居室の空調関係等、実施表を確認して、掃き掃除などは毎日おこなう。	計画通りに実施出来ず。 実施表の見直しを行う。

2. 「大地」ユニット 令和元年度事業報告

項目	目的	具体的行動計画	計画事項の実施状況
リスクマネジメント	事故予防、誤薬予防を徹底し入居者の安全、健康維持を図る。	事故内容を分析し、その都度対応策を考え、実施する。 全体の事故報告書を確認して自ユニットにフィードバックする。	1年間トータルすると、主に皮下出血による事故が大半を占めていた。 アームウォーマーやレッグウォーマーなど使い、対応していたが介助者側の不注意による皮下出血も多くみられた。
ミーティングの実施	職員間の意見交換を行い、業務やサービスの改善、周知徹底を行う。	日々の意見交換や全体連絡を鑑みて実施した結果を定期的に話し合い、サービスの改善に繋げる。	約3か月に1回のミーティングを行っていたが、情報共有や個人の意識の確認なども含めると、もう少しミーティングの実施回数を増やした方が良いと感じた。
行事の実施	利用者に生活感や季節感を感じていただく。	年間計画を作成し、担当職員を設定して随時実施していく。	年間の行事としては、計画通り行えていたが、やはり外出行事においては天候や気候により中止をせざるを得ない時もあり、今後の課題である。
環境整備の実施	安心して、楽しく生活できる環境を提供する。	温度、湿度管理の徹底、感染症発症時の対応準備、また、室内の装飾を四季に合わせ、レクと連動しながら実施していく。	年間を通しての掃除関連については、各職員計画以上に注意しながら行っていたように感じた。 ただし、ユニット内の飾りについては、年間通して季節感があまり無いように感じた。

3. 「空」ユニット 令和元年度事業報告

項目	目的	具体的行動計画	計画事項の実施状況
ユニットミーティングの実施	意見交換 意識の統一を図る	ユニット内での問題点、改善点等について話し合い支援方法の決定、見直しを実施する。また、支援の統一も図る。	4, 7, 1月にミーティングを行い改善点について話し合いを行った。ミーティング間において上手く伝えられておらず支援の統一がなされていないケースもみられた為、連絡ノートの活用をユニット職員全員に徹底させていく。
環境整備	感染症の蔓延予防 生活環境を整える	生活室・各居室の温度・湿度を管理し換気を日常的に行う。 生活室・各居室の清掃を行い快適に生活できるよう努める。	日常的に換気を行いユニット内で感染症は起こらなかった。居室の清掃に関しては家族様より注意を受ける事もあり明確に曜日を決めて行っていく。
共同生活室の飾り付け	季節を感じていただく	季節にあった飾りつけを実施していく。	季節によって壁等に飾り付けを行えた。
行事の実施	季節感とともに楽しさを感じていただく	季節にあった行事を企画し、他部署と連携を取りながら実施していく。	予定通り行事を行えた。
介護事故・ヒヤリハットについて	事故の再発防止	事故等、発生時には原因究明・防止策を医務・相談員と連携をとり介護職員に口頭・連絡ノートで防止策を徹底していく。	防止策の連絡はとれたが原因が判明しない、上手く対策できない打撲跡等は引き続き追っていく。

4. 「太陽」ユニット 令和元年度事業報告

項目	目的	具体的行動計画	計画事項の実施状況
レクリエーション	楽しさを持っていただく。	誕生日会 ・誕生日当日におやつを用意して誕生日のお祝いを行う。	概ね実施できた。
		外出行事 ・季節感を感じていただけるように春、秋（気候の	実施回数少なかった。計画する事に加え、園庭など事前の計画に依らないものは普段か

		よい時期)に外出行こう。 車で等遠出に拘らず施設園庭や近隣の散歩でもかまわない。	ら意識していく。
介護事故	事故防止	事故になっていないヒヤリハットを意識してヒヤリハットの情報を報告書及びユニット連絡ノートにて共有する。	連絡ノートは活用出来ていたが同じ事故が続く事あった。より細かい情報共有が必要。
ユニットミーティング	情報共有 意見交換	意見交換により情報を共有し、意識の統一、サービスの見直しを行い、サービス向上を図る。	ミーティング実施出来ていない。 計画を持って実施していく。

5. 「星」ユニット 令和元年度事業報告

項目	目的	具体的行動計画	計画事項の実施状況
ユニットミーティングの開催	・意見交換を行いサービスの向上を目指す	ユニット内での問題点、改善点等について話し合い支援方法の決定、見直しを実施する。また、支援の統一も図る。	二か月に一度の開催を予定していたが、前半行えず11月、2月のみの開催となった。支援の統一を図る為に定期的ミーティングの開催と共に連絡ノートを活用しながらサービスの向上を目指す
行事 お茶会の開催 (催し物)	・季節を感じて頂く。 ・楽しみをもって頂く	・他職種と連携をとり季節にあった催し物を実施する。場合によっては月ユニットと共に実施していく。 ・季節感のある食べ物の提供を計画する ・誕生会の実施	年間行事計画通り行えた。また週1、2回おやつの提供と共に小規模な交流を図る事ができた。
介護事故、ヒヤリハットについて	・事故防止 ・再発防止	・3F 全職員で意見交換を行い事故に関する意識を高めリスクの共有化を図る。 ・他職種と連携を図り原因究明、防止策を考えてい	意見交換や連絡ノートを活用することにより、事故に関するリスクの共有化を図る事は出来た。ただし同様の事故も再度確認されている為、繰り返し注意喚起を行っていく。

		<p>く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・随時、注意喚起を連絡ノートにて行う。 	
環境整備	ご本人の生活または、ADLにあった環境をつくる	<ul style="list-style-type: none"> ・生活スペースの整理または清掃を実施し個々にあった快適な生活環境を目指す。 ・必要物品の依頼 	生活スペースの整理は行う事ができたが、定期的な清掃は行う事ができなかった。空き時間を活用し清掃を意識していく。(掃除表を活用していく)

6. 「月」ユニット 令和元年度事業報告

項目	目的	具体的行動計画	計画事項の実施状況
ユニット ミーティング 開催	意見交換 サービス向上	ユニット内における問題点・改善点について検討 日課表・24Hワークシートの更新	できていない月もあったため意見交換を行い問題点を解決していく。
環境整備 について	快適に過ごして頂くため	必要な物品について検討・家族様相談	必要な物品は家族様相談を行い購入できているため継続していく。
事故検討について	事故防止	ヒヤリハット報告書の報告について危険と感じたことに関してもあげていく。再発防止のため、3階職員で情報を共有していく	同様の事故が何度かみられているため、再発予防策をしっかりと考えていく。
行事開催について	楽しみを持っていただくため	月に一度行事企画検討を行い、交流の機会を増やす。	年間の行事としては、計画通り行っていたが、やはり外出行事においては天候や気候により中止をせざるを得ない時もあり、今後の課題である。

VI. 各職種の事業計画

1. 栄養・調理 令和元年度事業報告

項目	目的	具体的行動計画	計画事項の実施状況
衛生	食中毒0件	<ul style="list-style-type: none"> ・手洗い励行 ・衛生点検実施 ・水質検査実施 ・食材器具、設備を清潔に保つ。 ・温度管理を徹底し2時間以内に喫食していただく。 	毎日、実施できた。
		<ul style="list-style-type: none"> ・検便の実施 	月1回、実施できた。
安全	異物混入0件	<ul style="list-style-type: none"> ・清潔な白衣、帽子、マスクを着用する。 ・異物に注視する。 ・調理場内に不要物を置かない。 ・必要時以外、部外者を調理場内に立ち入らせない。 	毎日、実施できた。
ソフト食導入	摂食状態に応じた食提供	<ul style="list-style-type: none"> ・食事形態の見直し ・ソフト食研究 	昼食・夕食の主食・副食に導入することができた。麺、御飯もの等は、未導入なので研究し、R2年度は開始できるようにする。
献立	栄養素量充実	<ul style="list-style-type: none"> ・食品構成表を基に献立作成を行う。 	ビタミンB1・B2・繊維は充足できなかったが、昨年度より、充足率は上がってきてる。引き続き、これらの栄養素を意識した献立作成を行い、毎月充足率をチェックしていく。
行事食	サービス向上	<ul style="list-style-type: none"> ・旬の食材を使用したイベント実施 	月1回、実施できた。
調査		<ul style="list-style-type: none"> ・嗜好調査の実施 	7月に実施できた。

喫茶	サービス向上 交流の場作り	<ul style="list-style-type: none"> 案内表の作成 手作りのお菓子、飲み物 を提供 	月1回、実施できた。
ミーティ ング	サービスの改善 仕事効率向上	<ul style="list-style-type: none"> 多職種で意見交換 問題点の改善 	月1回、実施できた。
栄養ケア マネジメント	低栄養の予防 栄養改善	<ul style="list-style-type: none"> 栄養ケアプランの作成 モニタリングの実施 	年4回、ケアプランの作成をし、 栄養ケアマネジメントできた。
教育	知識向上	<ul style="list-style-type: none"> 研修に参加 	1/16、給食施設管理者研修会に 参加した。 2月の研修は、中止された。 施設に送られてくる研修案内が 以前より減ってきているので積 極的に探して参加する。
報告	情報提供	<ul style="list-style-type: none"> 給食運営状況を 保健所へ報告 	11月に報告できた。

2. 生活相談員 令和元年度事業報告

項目	目的	具体的行動計画	計画事項の実施状況
入居調整	年間稼働率 98%	施設見学・入居相談がある ときは、優先的に対応する。	相談者が来訪されたときは、現 場業務の応援の時以外は、優先 的に対応した。また、事前に電 話での問い合わせがあったとき は、日時を約束して対応した。
		入居検討委員会を定期的に 開催し、入居候補者の調整 を行う。	入居検討委員会を毎月1回実施 し、入居候補者を選定した。
		施設のパンフレットを居宅 介護支援事業所、病院等に 配布する。	入居調整などでサービス事業所 や病院を訪問した際に、パンフ レット・入居申込書を持参した。 次年度は、交流のある居宅介護 支援事業所等を中心に訪問す る。

入居者様、家族様との面談	満足度の向上	入居者様、家族様とのコミュニケーションを図り、施設生活に対しての感想、要望を確認する。ご質問、ご相談がある時は、迅速に対応する。	来訪された家族様に入居者様の様子を報告、また、体調不良時は電話にて連絡した。特定の家族様からの相談が多い傾向があるので、他の家族様にも積極的にご相談事がないか声掛けをしていく
職員教育	介護職員のスキルアップ	各職員の課題を把握し指導・助言する。	ユニットリーダーからの相談は多く、その時々助言したが、他の職員とのコミュニケーションは不足していた。リーダー以外の職員の個々の課題を把握し、少しずつ指導していく。
		介護主任・介護副主任と協力し、職員の業務に対する意欲向上に取り組む。	主任・副主任ともユニットリーダー兼務であったため、ユニットの課題としての職員教育は相談しながら実施できたが、個々の職員の意欲向上に向けての取り組みはできなかった。次年度は具体的な目標を設けて職員指導にあたる。
ボランティアの活用	施設行事の充実	ボランティアセンターなどを活用し、入居者様が喜ばれる行事を実施する。	新しいボランティア団体の慰問を調整して活動していただいた。次年度も受け入れを増やしたいが、新型コロナウイルス感染症の流行が収束する見通しが立ってから計画する。

3. 介護支援専門員 令和元年度事業報告

項目	目的	具体的行動計画	計画事項の実施状況
ケアプラン作成方法の変更	ユニットケアに則したプランの作成	作成方法変更後問題なく行っているか各ユニットリーダーと協議。	未達成。現状のケアプラン作成をスムーズに行うことで変更の段取りを行う。
ケース検討	課題解決に取り組む	サービス担当者会議を開催し、個別の課題の解決に取り組む。	個別の課題解決に深く話し合えていなかった。ケアプラン作成方法変更と併せて取り組んでいく。

サービス内容の充実	楽しく生活していただけるようなサービスを提供する。	入居者様、家族様とコミュニケーションを図り、要望を把握する。 ユニットリーダー、ユニット職員と連携し、要望を共有し余暇活動を充実させる。	余暇活動に取り組むようになったが個々の要望を把握し行う所まで出来なかった。 各ユニットとの連携を一層図る必要がある。
-----------	---------------------------	---	---

4. 看護 令和元年度事業報告

項目	目的	具体的行動計画	計画事項の実施状況
定期健診	健康管理	年/1回 胸部 X-P 採血等、検査を実施 ※要治療の方は医師の指示	嘱託医との連携において通年施行実施 二次検査は嘱託医指導の元を実施。
衛生管理	感染予防委員会	感染対策策定 予防接種の実施	年 4 回実施 インフルエンザの予防接種実施
カンファレンス	看護、介護の問題点を探る入居者の状態や情報の共有	ユニット又は個別のケースカンファレンス	相談員との連携により実施
研修会	入居者の状態把握 入退院時の医師との連携	薬剤による効用、及び副作用等の勉強会	嘱託医及び連携薬局（薬剤師との勉強会）にて実施

5. 事務 令和元年度事業報告

項目	目的	具体的行動計画	計画事項の実施状況
安定した運営	稼働率の向上を図る。	年間稼働率を 98%以上とする。	年間稼働率 97.9% 長期入院者と退所後の空きベッドの日数が影響している。

収支管理	適正な財務運営	物品在庫、使用状況を毎月事務Mにて確認し、管理を徹底する。 消耗品の節約、光熱費の削減を他部署に呼び掛ける。	毎月事務ミーティングにて物品価格、使用状況を確認し、変動のある時は各部署に確認、使い方や節約を呼び掛けた。
	徴収不能金ゼロ	入金状況を確認、確実に徴収する。	3月31日現在、退所者1名の未納金85,000円。 文書および電話にて催促し徐々に返済中である。
利用者満足度アンケート	家族および利用者が安心・満足されるサービスを提供する。	利用者満足度アンケートの実施および分析。	利用者満足度アンケートを実施、集計結果を分析し、家族様に配布した。
預り金の管理	施設の様子を利用者、家族にお知らせする。	利用者および家族への預り金の収支・残高の報告。	年4回預り金出納表にて収支・残高の報告し確認印をいただいた。
広報誌の発行	施設の様子を利用者、家族にお知らせする。	広報誌「すばる」の発行。	施設での利用者様の様子を写真を中心に掲載した「すばる」を年4回発行し、利用者様および家族様に配布した。
喫茶の開催	入居者への楽しみ、交流の場を提供する。	喫茶の実施。	毎月喫茶を開催し、メニューの中に季節を感じられるものを取り入れ、入居者の皆様に楽しんでいただいた。
職員研修会	知識・技術の習得のための研修計画と外部研修の情報提供をする。	内部研修会の計画、外部研修会の手続きと職員への報告書の周知。	内部伝達研修を年12回実施、外部研修を年32回参加し、職員へ研修報告書を周知、教育訓練をした。
職員の健康維持	長く元気に勤務できる職場作りを行う	健康診断・ストレスチェックを実施、結果を産業医・衛生委員会で確認、必要な対策を講じる。	健康診断（年2回）・ストレスチェック（年1回）を実施した。 結果は産業医にコメントをもらい職員に配布した。 2年度は衛生委員会で検討する。

災害への備え	災害時、適切に対応して被害を最小限にする。	緊急連絡網の整備、避難訓練、消火訓練、通報訓練の計画と実施。	緊急連絡網を整備し、消防訓練を年3回実施した。
設備の適切な使用と維持管理	機械設備の無駄な使用をなくす。	空調、照明、給湯の無駄な使用がないよう常時監視する。	空調、照明、給湯等設備の定期点検および自主点検を確実に実施した。また、故障等が起こった際は早急に修理を行い、利用者様に不便をお掛けしないようにした。 空調、照明、給湯等の無駄な使用がないよう監視し、事務Mでも検証、振り返りを毎月行った。
	機械設備を適切に維持管理する。	空調、電気製品、水道衛生設備の日常の点検や手入れを丁寧に行い、常により状態を使用する。	
敷地内の環境維持	庭を継続して美しく保つ。	芝生エリアの除草作業を丁寧に行う。 菜園、駐車場、貯留池等の除草作業を行う。 花壇や玄関前に花を植え景観を美しくする。	年間を通して園庭の除草作業を実施した。芝生に関しては、こまめな水やりと芝刈り機等にて敷地内の環境を維持した。

6. 居宅介護支援 令和元年度事業計画

項目	目的	具体的行動計画	計画事項の実施状況
利用者の確保	目標値：月30名	緊急ケース受け入れ等により地域の信頼を得る。	要介護の年間平均件数 25.9 件 要支援の年間平均件数 11.1 件 全体で年間平均約 37 件の受け入れを行っており、目標を達成した。 また認定調査の委託件数は年間 95 件、月平均 7.9 件。来年度も同程度の件数を受けていき、居宅介護支援事業の収益確保に貢献する。

VII. 各委員会の事業計画

1. 介護事故防止委員会 令和元年度事業報告

項目	目的	具体的行動計画	計画事項の実施状況
委員会の開催	事故発生予防のため	委員会を年4回開催。	6月、9月、12月、3月に委員会を実施。(3ヶ月に一回の開催)
事故事例の集計・分析の実施	事故防止対策の策定のため	前年度の事故事例を集計し、内容・時間・場所等分析して職員に公表。	6月、9月、12月、3月にそれまでに集計・分析したデータに基づき委員会を開催し協議した。 協議結果は分析データとともに全職員に周知した。
事故事例の検討	事故防止対策の策定と実施	上記実施後、ユニットごとの状況に応じた事故防止策を策定し、実施する。	上記実施後、ユニットごとの状況に応じた事故防止策を策定し、実施した。
施設内研修の実施	職員の意識向上	職員が事故を予防するための注意点等を具体的に学習できる研修を実施する。	4月に高齢者の事故防止について、1月に事故の発生予防・事故の発生等緊急時の対応について研修を行った。 (事故について年二回実施)

2. 感染症予防委員会 令和元年度事業報告

項目	目的	具体的行動計画	計画事項の実施状況
委員会を定期開催する。	感染予防のため	3ヶ月に1回の頻度で委員会を開催する。 参加者(委員)は施設長・看護職員・介護職員・栄養士・事務員の各職種より1名～2名。	6月、9月、12月、3月に委員会を実施。(3ヶ月に一回の開催)
感染症・食中毒予防対策の策定	予防対策の標準化	現行の予防策を見直し、全職員が実施できる予防対策・マニュアルを策定する。	委員を中心に施設内の感染症実施マニュアルを検証した。 感染症に対する研修を6月、11月と年二回実施した。
予防対策の実施管理	予防対策が確実に実施されるため	各委員が、自分の業務範囲において予防対策が確実に実施できているかフォローする。	委員を中心に不十分な対応を確認したら、即指導し正しい方法を伝えられるようにした。 令和元年度の感染症はゼロであった。

3. 身体拘束廃止委員会 令和元年度事業報告

項目	目的	具体的行動計画	計画事項の実施状況
委員会の開催	身体拘束廃止のため	年4回の委員会を開催する。	6月、9月、12月、3月に委員会を実施。(3ヶ月に一回の開催)
身体拘束実施事例の廃止検討	身体拘束ゼロを目指す	実際に行われている場合について、廃止を前提に具体的方法を協議する。	ユニット内及び身体拘束廃止委員会にて廃止を前提にした協議を重ねた。
施設内研修の実施	身体拘束廃止方針の周知徹底	介護・看護職員を対象に、その弊害や法的位置付け、廃止のための方法等を学ぶ。	年二回(6月、10月)の身体拘束廃止に関する施設内研修を行った。又中途採用の職員に関しては全て採用時に研修を行った。(新卒採用はゼロであった)
身体拘束に関する施設内監視	無断で安易な拘束をさせない	委員を中心に施設内監視を行い、無断での拘束行為があれば即刻停止させ、注意指導を行う。	ユニットリーダー、委員等を中心に監視を行った。無断での拘束やそれに準ずる行為は行われていなかった。

4. 衛生委員会 令和元年度事業報告

項目	目的	具体的行動計画	計画事項の実施状況
委員会の開催	職場内の衛生・安全環境を確立する。	年12回の委員会を開催する。	毎月実施し、職員のメンタルヘルス予防対策やハラスメント予防対策を実施した。
労働災害の未然防止やメンタルヘルス維持のための活動の計画・実施。		<ul style="list-style-type: none"> 各部署の現状把握 対応・予防策の協議 活動内容の計画、実施 	

5. 入居検討委員会 令和元年度事業報告

項目	目的	具体的行動計画	計画事項の実施状況
委員会の開催	適正な入居受け入れを行う。	年12回の委員会を開催する。	毎月実施し、入居順位決定を行った。
申込者の優先度の検討。		申し込み受付職員からの詳細な情報をもとに、入居基準に則って入居順位を決定する。	

令和元年度
鈴鹿聖十字の家 老人居宅介護等事業
事業報告書

I 事業内容

老人居宅介護等事業（訪問介護事業・総合事業訪問型）

II 事業内容全般

要介護状態となった場合においても、その利用者が可能な限りその居宅において、その有する能力に応じた日常生活を営むことができるよう、利用者個別の生活状況に応じて必要な支援を行うことに努めた。

III 具体的な事業実施内容

1. 事業収入の向上

（計画内容）

事業運営の安定化のため、月間の平均介護保険収入を、1,200,000円以上とする。

（実施状況）

今年度の介護保険収入は、月平均1,149,784円となった。前年度より上昇したが目標値にはいたらなかった。

1月から常勤の訪問介護員を非常勤に変更したことにより人件費は削減されている。来年度は人件費の削減と訪問実績のバランスをとって利益を確保していきたい。

2. 利用者の満足度の向上

（計画内容）

利用者満足度調査を年一回実施し、改善すべき点を明確にして取り組む。

（実施状況）

利用者満足度調査を実施し、ミーティング等により改善すべき点を明確にして取り組んだ。

3. 職員の資質向上

（計画内容）

年に4回、職員研修（内部研修）を行う。また外部研修についても参加する機会を設ける。

（実施状況）

年に4回、職員研修（内部研修）を行った。外部研修は以下のようなになった（前年度は外部研修には行けていなかった）

①令和元年8月29日 鈴鹿市ヘルパー協議会

訪問介護員1名 於：鈴鹿市医師会

②令和2年2月9日 三重県在宅褥瘡セミナー

訪問介護員1名 於：鈴鹿回生病院 臨床研修棟

IV 資料

1 訪問介護：サービス区分別年間延べ訪問回数（回）（令和元年度）

	30分未満	30分以上	1時間以上	1時間半以上	2時間以上	2時間半以上	4時間以上	合計
身体介護	533	850	437	-	-	-	-	1820
身体生活	-	66	866	107	-	-	-	1039
生活援助	36	271	152	-	-	-	-	459
合計	569	1187	1455	107	-	-	-	3318

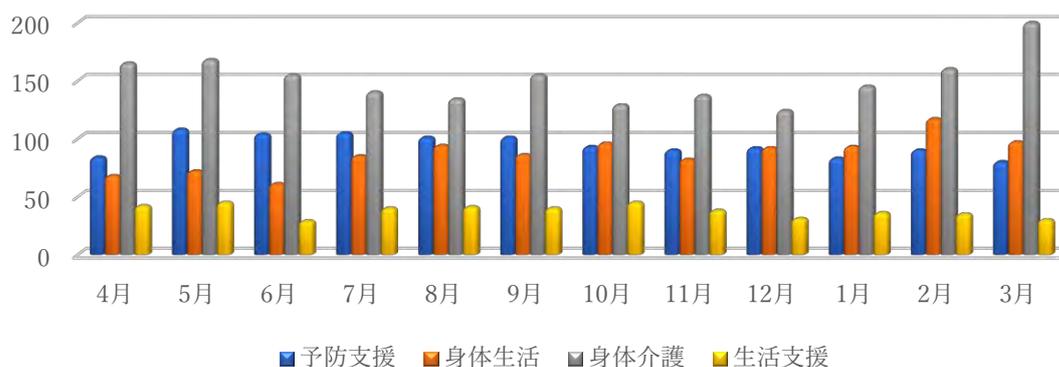
訪問介護：サービス区分別年間延べ訪問回数



2 訪問介護：月別訪問回数（回）（令和元年度）

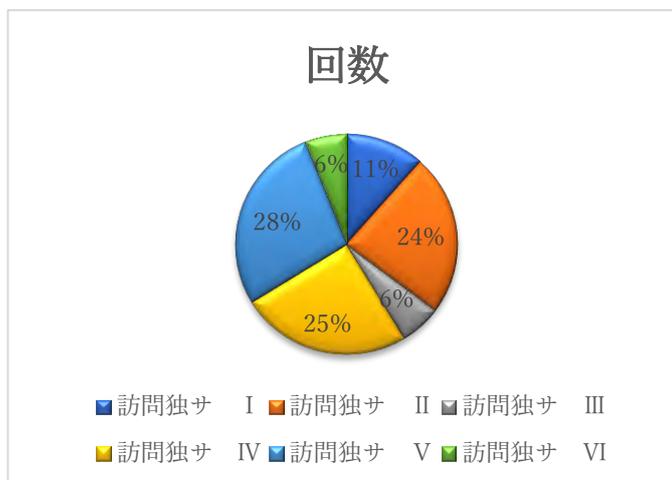
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
予防支援	84	108	104	105	101	101	93	90	92	83	90	80
身体生活	68	72	61	85	94	86	96	82	92	93	117	97
身体介護	165	168	155	140	134	155	129	137	124	145	160	200
生活支援	42	45	29	40	41	40	45	38	31	36	35	30

月別訪問回数



3 総合事業訪問型：サービス区分別年間延べ訪問回数（回）

3	回数
訪問独サ I	130
訪問独サ II	269
訪問独サ III	68
訪問独サ IV	282
訪問独サ V	313
訪問独サ VI	69
合 計	1131



令和元年度 障害者支援施設 菰野聖十字の家 事業報告書

【施設入居部門】

I. 事業内容

障害者支援施設（生活介護事業 定員 75 名、施設入所支援事業 定員 60 名）
障害者短期入所事業 : 5 床

II. 職員定数

看護職員、セラピストおよび生活支援員の配置数は、利用者の方に安心で、その人らしい意欲的な生活の実現を目指すため人員配置体制加算（I）基準数の配置を維持した。

III. 運営の基本方針および事業目標

「利用者と誠実に向き合い、その人とともに生き、感じ、その方が望む生活を実現していく」という目標のもと、施設を利用されている多様な障害をお持ちの方が、本当に安心して、その人らしい意欲的な生活の実現を目指した。その方の不安や混乱の内容を共感し、職員がその苦しみに誠実に寄り添い、ともに課題を乗り越え、自律した生活を送ることができるように、具体的な支援、サービス提供に対し、明確なプランを立て、その実現に向け努めた。具体的な支援、サービス提供内容については下記に記載。

IV. 具体的な事業計画およびその内容

1. 施設入所支援・生活介護事業（入居部門）

(1) 利用者に喜んでいただけるケアを実施し、利用者満足度のアップに取り組む
・各班のミーティングでは、担当の生活支援員が各利用者の現状や課題・ご家族様のご意見を上げ、利用者がどうすれば心地よく、安心して過ごしていただけるかを多職種で協議・連携し、課題に対して評価をしながら進めた。利用者の生活においては、ご家族と積極的に関わり相談を重ねながら、また日頃の様子など手紙を用いて伝達し、利用者・ご家族の安心・満足度向上に努めた。サービス管理責任者は、利用者やご家族様からの意見・要望・不満等の情報を収集し課題を整理するために、相談支援事業所と連携しながら、個別支援計画に沿った適切な支援が実施されているかの協議と、実現に向けた情報共有に努めた。

(2) 不適切ケアに対する理解を高め、利用者が人間としての尊厳を持って暮らせる環境を作る。
・不適切ケアに対しては、研修にて理念の再認識、仕事をするうえでの協調性やマナー・言葉使いを共に学び、生活支援員が今一度原点に立ち返り、接遇マナーの向上に努めた。虐待

防止委員会では、具体的事例を取り上げ検討や周知を図ることで不適切ケア・虐待に対する意識を高めることができた。

(3) リスクマネジメント管理を適切に行い、介護事故を未然に防ぐ

・リスクマネジメント委員会を中心として、事故及びヒヤリハット報告書の内容に応じて原因を除去できるよう他職種からの意見を聴取し再発防止に取り組んだ。また、対応改善策の周知徹底を図ることで同様の事故が起こらないように再発の防止に努めた。今年度、介護時における事故が23件（骨折1件）、ヒヤリハットは55件発生した。骨折については、ユニットに移行した直後に慣れない環境の中居室で転倒され骨折に至ってしまった。次年度も理学療法士による技術研修を行い、生活支援員の介護技術向上を目指す。

(4) 利用者の方々が施設で健康且つ安全に過ごしていただけるサービスを提供する

- ・個別支援計画更新時に他職種で利用者の心身状況を確認し意見交換を行うことで、情報共有ができ早期の対応ができる体制をとることができた。
- ・褥瘡の発生防止に関しては、看護職員と生活支援員が連携し肌疾患に対し、随時報告・早期に対応した。今年度もセラピストによる無圧マットやエアマットの適正利用評価の実施と看護師・栄養士・言語聴覚士のマネジメントによる補助食の提供を行い、褥瘡の悪化を防ぐことが出来た。褥瘡のある方に関しては、看護師の適切な処置と生活支援員との連携・通院等にて悪化を予防することができた。
- ・福祉用具の適切な取り扱いについて、セラピストより実技指導等を受け、生活支援員の腰痛予防や福祉用具への理解を高めることができ、安全に過ごしていただける環境づくりに努めた。
- ・感染症に対する知識と職員の意識向上により、集団感染症を予防することができた。また、今年度は、新型コロナウイルスの影響もあり、入居者・職員の体調管理・マスク着用・手指消毒・加湿などを徹底することで、感染症予防に努めた。今後も職員個々の意識を高めながら、『持ち込まない、広めない』を目指す。

(5) 利用者の方々が施設で有意義に過ごしていただけるサービスを提供する

- ・生活支援員は、利用者からの声に傾聴しサービス提供を行うことが出来た。しかし、ユニットに移行し、1ユニット10名・1フロア20名と単位が小さくなり、より情報共有ができるようになったが、職員数が限られており、ユニット内部で完結できる対応が多くなってしまいユニット間、フロア同士での交流が減った。しかし、そのふれあいや情報共有が難しい中においても、クラブ活動やレクリエーションを中心にフロアを超えて、できる限りコミュニケーションの充実に努めた。

今後は、障害特性の理解不足や経験年数の浅い職員のコミュニケーション能力不足から戸惑いの声をいただくこともあるため、内部研修の実施および個別指導の実施にて有意義に過ごしていただける環境の構築を目指す。

- ・ユニットに移行し、施設入居者全員が参加できるような活動が難しくなってしまったが、来年度はフロア単位で楽しみやふれあいの時間を創出し提供していきたい。

(6) 利用者の療養および居室環境を整備し、安心且つ快適に生活していただく

- ・ユニット移行にあたり、設備環境や空調の充実により、個々の環境に合わせることができ体調不良者が減った。また、入居者全員個室になりプライバシーの確保は充実し安心して過ごしていただいている。この環境を継続して提供していくために、清掃や設備機器の点検や整備に努め、安全で安心を提供し快適に過ごしていけるよう努めていく。また、季節を感じていただけるように行事や装飾を行い笑顔や喜んでいただける姿を拝見できた。
- ・セラピストを中心に、他職種協議を行いながら利用者の心身状況を確認し、積極的に情報提供しながら、必要に応じた福祉機器の提案や導入を行うことができた。

(7) 障害者スポーツ・創作活動・生産活動を実施し、楽しみや生きがいを感じられる時間を提供する

- ・障害者スポーツ（ボッチャ）は理学療法士を中心に定期的に開催し、多数の入居者の方の参加をいただいた。障害の程度に合わせながらどなたでも参加できるようセラピストが工夫し、競技であるため勝ち負けのある実践的な形式で争い、勝った喜びや負けた悔しさを実感できる充実した時間を過ごせた。
- ・創作活動は作業療法士がユニット移行に伴い、各フロアで開催し、小さい単位ながら参加人数も増え、個別で得意分野に没頭し、作品を創造する楽しみや作品が出来上がる喜びを感じられる事ができた。また作成した作品を展示会に出品し、さらなる創作意欲の向上につなげることが出来た。
- ・カラオケ大会や映画上映会を実施し喜んでいただけたが、回数の確保は難しかった。来年度は、各フロアで開催し、多くの利用者が集まり楽しみを共有していただくことを目標としていく。

(8) 利用者の直接の声を聞き、社会参加を進めることで、日常生活における満足度の向上を図る

- ・今年度も外出意向が多数聞かれた。外食や買い物、映画、カラオケ、大衆演劇鑑賞など希望に基づき計画を立案し実行した。外食は特に雰囲気が違う場所で食べられる事でとても満足されている方が多かった。ユニット移行に伴い、家具や身の回りの物の購入などされる方も見えた。今後はユニットの体制となり外出支援は難しくなるが、叶えられる方法を模索し検討していきたい。
- ・地域移行に関する意向確認をサービス管理責任者は相談支援事業所と連携し、利用者およびそのご家族に確認を行った。今年度も地域移行に関するご要望は無かった。

(9) 利用者の身体機能の維持・向上ができ活動的に過ごしていただけるよう努める

- ・セラピスト・理学療法士は、関節可動域訓練や歩行訓練座位保持・集団活動などの理学療法・作業療法士は、創作活動や生産活動などの作業療法・言語聴覚士は、安全に食事できる環境の提供・摂食嚥下評価・コミュニケーション力の向上訓練や歯科医と連携すること

で、楽しみである食事が少しでも長く継続できるよう。口腔内状況の改善・維持・向上に積極的に努めた。

- ・ 予後予測やリスク管理については、多職種連携のもとセラピストを中心に積極的にコミュニケーションを取りながら情報共有し、予後やリスクを鑑み、今できる最善を模索しながら努力した。

(10) 利用者の自律・権利擁護の視点に立ったリハビリテーションの実施に努める

- ・ セラピストを中心に、利用者の声や状態を丁寧に確認しながら、リハビリテーション計画を立案し、実行できるよう努力した。ユニットの生活に沿った形で提供する事が最善の方法と模索し、離床の機会をできるだけ増やそうと集団活動も取り入れた。今まで集団活動に参加される意思を示される事のなかった方が自発的に参加されたことは喜びとなった。
- ・ コミュニケーション機器の充実を支援し、生活の幅を広げていただけるよう提案や生活環境を整備のお手伝いをさせていただき、社会参加の架け橋取られるよう努力した。
- ・ セラピストと管理栄養士が連携し、安全で健康的な生活を長くできるよう積極的な提案や食の楽しみの部分や必要な栄養素について情報共有し維持・改善に努めた。

(11) 職員のケアの質と専門性の向上、利用者・家族などとの良好な関係を築き上げるための教育訓練を実施する

【令和元年度 介護看護入居部門 施設内専門研修】

(12) 職員の意欲が維持向上される環境作りに努める

- ・ 個別の聞き取りについては、満足に行うことができなかった。
- ・ ユニットに移行し、ワンオペレーションが多くなり、環境の整備や業務効率の良い機器の導入、腰痛対策として負担の少ない介助方法・移乗用具の導入の検討や提案が必要になっている。職員の声に対し耳を傾け、不安や不満を丁寧に把握し解消する事で意欲の改善・向上に努めていきたい。また成功体験の共有や実践的な目標を立て、結果を残すことによりやりがいや意欲を絶やさず向上に努めていきたい。
- ・ 様々なハラスメントにおいては、研修を通じ理解を深めた。

(13) 適切な防災計画の策定と、地震、風水害などの緊急時に負傷者の救護ケアの提供が速やかに対応できる体制の構築を目指す

- ・ 年3回の防災訓練を主に新人職員に対して行った。ユニットに移行し手順等を見直しながら新たな防災訓練を構築していく。

(14) 施設安定経営と、適切なサービス提供確保のための施設利用率の確保

- ・ 入居利用者定員満床の確保を目指し、短期入所定員、デイサービス利用者の安定を目指した。

【在宅部門】

1. 事業概要

1) 営業日および利用時間

月曜日～日曜日：午前9時～午後5時

2) 利用定員 15名

3) 利用対象者

現在お住まいの市町村で、自立支援法に基づく支給決定を受けた方を対象。

2. 運営の基本方針および事業目標

鈴鹿聖十字会共通理念である「利用者に最も有利なサービスを提供する」のもと、利用者の日常生活および社会生活がより快適で安心できるものとなるように最大限の支援に努めることを基本方針とし、利用者一人ひとりの生活暦や価値観・個別性を尊重するとともに、心身状況も把握しながら満足度の向上および自律促進を図ることを事業目標とした。

具体的には、アットホームで楽しい雰囲気の中での食事や入浴、排泄サービス、安全で快適な送迎サービスの実施、理学療法士・作業療法士によるリハビリテーションの実践、誰もが参加・活動できるレクリエーションの実施、創作活動・生産活動の機会の提供、季節感を感じられる行事の開催、地域交流や社会参加を促進しご希望を反映させた外出計画の立案・実現等に努めることで、利用者の在宅生活がより充実し自律を目指したものとなるように支援にあたった。

人材育成では職員個々が持っている能力や特性を伸ばすことができるようにサポートするとともに、職員間の情報共有および共通認識を高めることで、より良い対応や施策につなげ、個々のスキルアップだけでなく、チームの支援力の向上を図った。

虐待防止や障害特性の理解等の必要な内部研修を実施するとともに、可能な限り外部研修への参加にも努めた。

3. 具体的な事業計画およびその内容

(1) 個々のニーズに応じたサービス提供を実施し、利用者一人ひとりの満足度・自律促進を高める。

- ・利用者一人ひとりが楽しく快適に過ごすことができるように、その方の声に耳を傾け、想いに共感し、一緒に課題等を乗り越え、利用者自ら意思決定できるように支援に努めてきた。また、意思の疎通が困難な方においては、日頃の様子や状態、言動等からニーズを汲み取りサービスに反映していけるよう努めた。
- ・利用者、ご家族との日常会話から得られる意見や職員の気づき等、口頭や連絡ノート等の書面を通して情報共有を行い、職員全体で具体的改善策を検討・協議することで、個別のニーズに応じたサービス提供につなげられるよう努めた。
- ・個別支援計画書はご利用者、ご家族のご意向を丁寧に確認・反映するだけでなく、その

方の長所や強みに着目し、自律を高めていけるようなプラン作成を心掛けた。また、より良い支援につなげられるよう、モニタリングを行い、記入・評価を行った。

(2) 送迎サービスや介護全般に係るリスクマネジメント管理を適切に実施し、利用者の安全・安心を確保する。

- ・発生した事故や苦情等は、原因・要因や対応改善策を多角的に検討・協議し、その再発防止に努めた。また、対応改善策の継続性を保つために定期的な評価や業務調整・注意喚起を図ることで同様の事故や苦情の発生防止に努めた。
- ・「発生してしまった事故や苦情にどのように対応し是正していくのか」だけでなく、「日々の生活支援のなかで、どのような気づきや危険予測を行なうことができるのか」といった視点のもと、ヒヤリハット報告書を10件挙げ、利用者の安心や安全の確保に努めた。
- ・毎月の法人リスクマネジメント委員会に参加し、全部門で発生した事故や苦情等について検討・協議し、その内容を水平展開することで、同様の出来事を発生させないように周知・注意喚起に努めた。
- ・平成31年度(2019年度)に発生した事故件数は6件(介護事故5件、車両事故1件)、苦情は2件であった。苦情に関しては目標数値以内であったが、事故件数に関しては目標を達成することができなかった(目標は3件)。事故の内、服薬のミスによるものが3件発生しているため、来年度の課題とし再発要望を徹底させる。
- ・車両事故について、7月に、第三者宅の石垣を破損してしまう事故があり、事故発生後に注意喚起を促すために内部研修を行った。
- ・ご利用者にとって安全、安心できる介護技術向上のための内部研修を行った。
- ・職員全員が今年度事業所として取り組むことを理解した上で、支援・サービス提供が行えるように、適時職員個々への指導教育の機会をもてるように努めた。
- ・毎朝のバイタル測定値に留意するとともに、いつもと異なる数値や状態等が見られた際は、看護師およびご家族への報告や状態に応じた適切な対応に努めた。
- ・衛生感染対策委員会からの通達を参照し、インフルエンザや胃腸風邪等の感染症の発症、拡大防止に努めた。今年度においても施設内感染等は見られなかった。

(3) 職員個々のスキルアップを図り、チーム全体の支援力を高める。

- ・職員個々のスキルアップや事業所全体のレベルアップを目的とした内部研修を年6回実施した。個々に抱えている困難ケースや日々の業務において感じている課題や改善点等について、職員全体で検討する取り組み(ケアカンファレンス)を年6回実施した。また、翌月ミーティングにて1ヵ月評価を行い、その後の状況確認および継続性の確保に努めた。
- ・外部研修については職種に応じて参加することができたが、積極的な参加ができなかったため、今後は現場業務に支障を来さない程度に積極的な参加を行っていく。
- ・職員個々に年間目標を設定していただき、その評価を実施。

(4) 介護・看護・リハビリ部門との連携・協力体制を高め、より良いサービス提供に繋げる

- ・毎月実施のミーティングや2ヶ月に1回開催しているケアカンファレンスを通じて使用者が抱えている課題や支援内容を検討、評価し連携を図った。
- ・毎月のミーティングで生活支援員のみならず、理学療法士等にも参加していただき、多職種間での協議を行いより良いサービスの提供に努めた。
- ・職員間での連携や共通認識を高めるため、毎朝の朝礼や、連絡ノートを用いて情報共有を図った。

(5) より安全で快適な生活が送れるように、環境面の向上を図る

- ・自律を促すための取り組みとして、トイレで安全に用を足していただけるよう、クッションベルトを用いて排泄をしていただいたり、椅子への座位が安定するよう、それぞれのお身体に合わせて足置き台を使用していただいた。
- ・冬季など乾燥する時期はステリプロ(次亜塩素系の加湿器)を用いて感染予防に努めた。また、スプレータイプの消毒液も毎日用意し適宜使用してきた。
- ・万が一の災害に備え、法人内で開かれる避難訓練には可能な限り参加をした。

(6) 日中一時支援事業のサービスの質の向上および利用者確保を図る

- ・障害児童に提供しているサービス内容について、どのように関わりを持って支援していくことが適切であるのかを検討し、また、安全で快適な場所の提供につなげていけるように努めた。
- ・障害特性の理解を深める研修を行うことで身体障害のみならず、知的障害および自閉症の方に対する理解も深め、日々の生活支援に活かしていけるように努めた。
- ・学校でのご様子等の情報収集を行なっていくため、特別支援学校の先生との連携を図りながら、職員全体での情報共有・共通認識を図った。

(7) 入居部門との協働・取り組みの機会を増やし、在宅利用者のサービスの質の向上を図る。

- ・ショートステイ利用の方にもデイサービスで行われるレクリエーションへの参加を促し、交流の機会を場を設けた。
- ・令和元年12月より、ユニット型の入居施設が新設されたことにより、デイサービスとショートステイを在宅部門として稼働していくこととなった。ショートステイのみ利用されている方、デイとの併用利用者でデイ利用時以外の時間帯の過ごし方など、入居部門と連携を図り引継ぎを行い情報の共有に努めた。

(8) ご家族や相談機関、他事業所との報告・連絡・相談体制を強化し、地域の福祉ニーズの把握に努める。

- ・ご利用者の担当者会議には可能な限り出席し、各関係機関との連携や他事業所での過ごし方などを共有し、課題解決に向けての取り組みを行った。

- ・特別支援学校の実習生の受け入れを行った。

(9) 理学療法士、作業療法士等の専門職によるリハビリテーションの実施・強化を図る。

また、ご希望や身体状態に応じて生活支援員による機能訓練補助を行う。

- ・リハビリの希望や必要性がある方に関し、理学療法士が計画書を作成し、その計画書に沿ってリハビリを行ってきた。モニタリングを行いながら次のプランへ反映させて機能維持や向上を図った。
- ・理学療法士による主なリハビリ内容は、平行棒・昇降台での立位・歩行訓練、歩行器を使用しての歩行訓練、関節可動域訓練、ストレッチ、マット運動。作業療法士によるリハビリ内容は、作業療法、知的訓練、創作活動など
- ・理学療法士や作業療法士のみならず、補助的な部分で生活支援員も携わり役割を担った。

(10) 作業療法士、クラブ活動の先生、ボランティアの方と協力し、創作活動、生産活動の拡大・充実を図る。

- ・主に実施した活動内容は、折り紙手芸、陶芸、ネット手芸、ちぎり絵、ストロー通し(暖簾づくり)、塗り絵、アロマテラピー、車椅子ダンスを行った。折り紙手芸やストロー通し(暖簾)で完成した物に関しては、数日間デイルームにて飾らせていただいた後、ご持参いただいた。

(11) レクリエーション、日中活動、余暇活動、グループ活動等の拡大・充実を図るとともに、季節行事や外出支援、社会適応訓練等を実施する。

年間行事

【平成31年度(2019年度) 行事内容】

月	主な行事	月	主な行事
4月	花見	10月	ハロウィンパーティー 外出支援
5月	家族交流会 外出支援	11月	運動会 外出支援
6月	外出支援	12月	クリスマス会
7月	七夕イベント	1月	餅つき・新年会・お茶会
8月	納涼会 (夏祭り)	2月	豆まき バレンタインイベント
9月	家族交流会 外出支援	3月	ひな祭り

【平成31年度(2019年度) 外出支援の一例】

買い物	イオンタウン菰野 イオンモール鈴鹿 イオンモール東員
観 光	名古屋港水族館 愛知航空ミュージアム 花見

※外出支援の行先については、利用者からのご要望を取り入れながら、定期的に計画を立て、社会参加や地域交流の機会を提供していただけるように努めた。

4. 内・外部研修について

【平成31年度(2019年度) 参加した外部研修】

6月	<ul style="list-style-type: none"> ・三重県相談支援従事者初任者研修 ・第1回 近障協 QOL 委員会 ・『知的障害を伴った自閉症スペクトラム障害の理解と対応』研修
8月	<ul style="list-style-type: none"> ・第2回 近障協 QOL 委員会 ・三重県相談支援従事者現任研修
10月	<ul style="list-style-type: none"> ・三重県相談支援従事者現任研修 ・第3回 近障協 QOL 委員会
11月	<ul style="list-style-type: none"> ・三重県障害者虐待防止・権利擁護研修
12月	<ul style="list-style-type: none"> ・三重県サービス管理者基礎研修

【平成31年度(2019年度) 実施した内部研修】

4月	<ul style="list-style-type: none"> ・介護職員に求められるスキルとマナーについて
5月	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者に安心・満足いただくためのサービス提供に向けて (ケアカンファレンス)
6月	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の立場に立った安全で安心できる介護技術の向上について
7月	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者に安心・満足いただくためのサービス提供に向けて (ケアカンファレンス)
8月	<ul style="list-style-type: none"> ・ご利用者、ご家族にとってわかりやすい個別支援計画書の作成について
9月	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者に安心・満足いただくためのサービス提供に向けて (ケアカンファレンス)

10月	・不適切ケアについて ～事例検討を通じて～（虐待防止・権利擁護）
11月	・利用者に安心・満足いただくためのサービス提供に向けて （ケアカンファレンス）
12月	・利用者のためのリスクマネジメントについて（接遇マナー・事故防止・苦情対応など）
1月	・利用者に安心・満足いただくためのサービス提供に向けて （ケアカンファレンス）
2月	・障害特性の理解について
3月	・利用者に安心・満足いただくためのサービス提供に向けて （ケアカンファレンス）

5. 月別利用者数

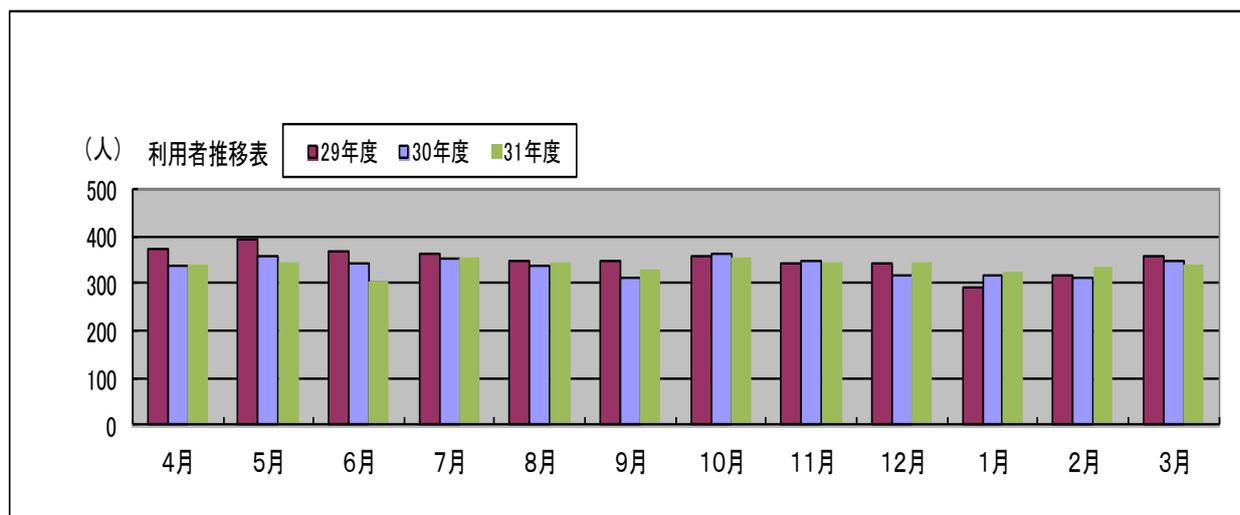
<生活介護事業>

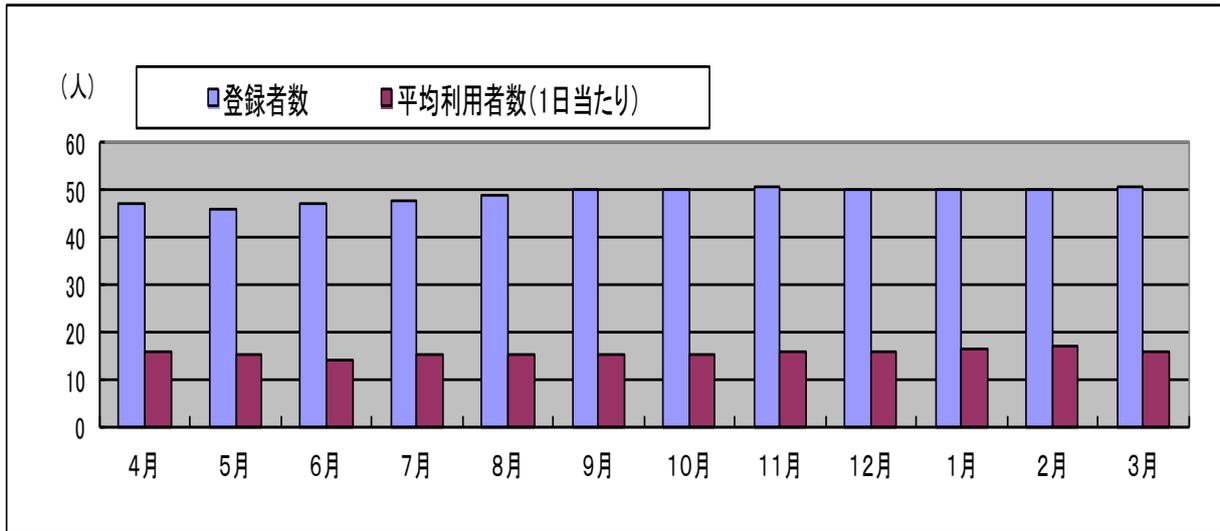
(単

位：人)

生活介護事業

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均
登録者数	47	46	47	48	49	50	50	51	50	50	50	51	490	49.08
平均(1日)	15.5	14.96	13.82	15.35	15.04	15.05	15.43	15.68	15.73	16.2	16.85	15.45	154	15.4
稼働率	103.3	99.7	92.1	102.3	100.3	100.3	102.9	104.5	104.8	108	112.3	103	1028	102.8
31年度 利用者数	341	344	304	353	346	331	355	345	346	324	337	341	4,067	338.9
30年度 利用者数	336	360	343	351	338	312	361	349	317	315	310	346	4,038	336.5
29年度 利用者数	374	391	366	361	350	348	357	341	343	294	315	356	4,196	349.7



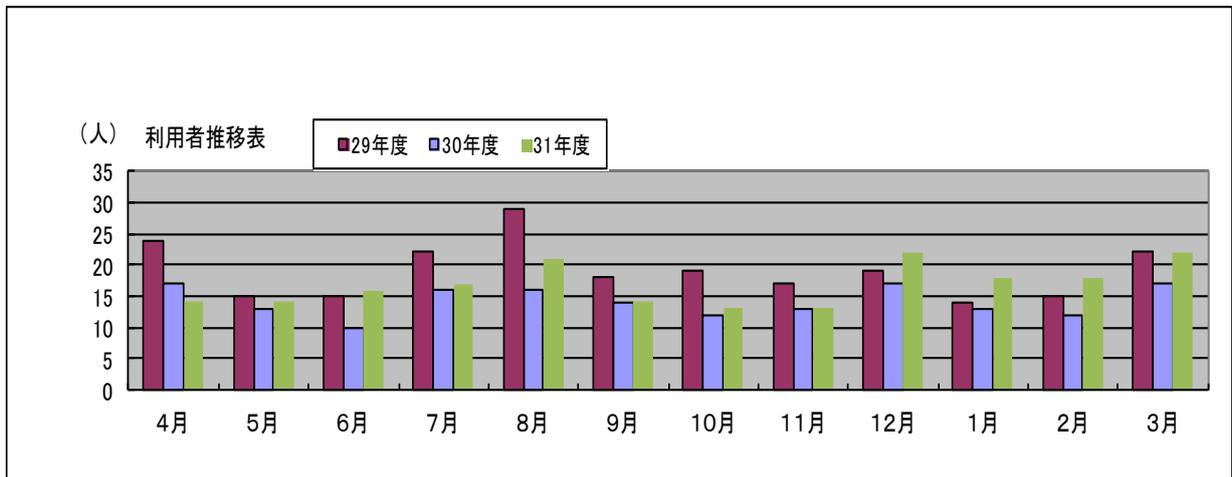


<日中一時支援事業>

(単位：人)

日中一時支援事業

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均
登録者数													X	#####
平均(1日)													X	#####
31年度利用者数	14	14	16	17	21	14	13	13	22	18	18	22	202	16.8
30年度利用者数	17	13	10	16	16	14	12	13	17	13	12	17	170	14.2
29年度利用者数	24	15	15	22	29	18	19	17	19	14	15	22	229	19.1



令和元年度 特別養護老人ホーム 菰野聖十字の家 事業報告書

I. 事業内容

◎2019年11月30日まで

1. 特別養護老人ホーム（介護老人福祉施設） 従来型 定員90名
2. 居宅介護支援事業
3. 老人短期入所事業（短期入所生活介護） 併設型定員7名・空床型

◎2019年12月1日より

1. 特別養護老人ホーム（介護老人福祉施設） ユニット型 定員60名
2. 特別養護老人ホーム（介護老人福祉施設） 従来型 定員30名
3. 居宅介護支援事業
4. 短期入所生活介護事業 併設型定員7名・空床型

①介護老人福祉施設

II. 2019年度の概要

前年度の11月に着工したユニット型施設については、その1年後の2019年11月22日に完成引き渡しを受け、同年12月1日、入居者90名のうち60名の方に既存施設から新施設に引っ越しをしていただき、30名の方、およびショートステイ利用者の方については既存施設の新館部分で生活をしていただく体制となった。

ユニット型施設への移行にあたっては、ご本人・ご家族に対して丁寧に説明を行い、同意をいただいたうえで進めた。

終末期ケアに関して、その方が望む最期を迎えていただけるよう、ご家族とのコミュニケーションに配慮しながら看取り介護を行った。認知症があり混乱や不安になられている方に対しては、その思いに共感し、寄り添い、丁寧な対応を心掛けた。

施設における内部研修については毎月実施し、レポートを提出させることで効果的な学びとすることができた。外部研修にも可能な限り参加し、職員のモチベーションとスキルのアップを目指し、入居者様の満足度向上に貢献できる職員を育成するよう努めた。

III. 具体的な事業報告

1. 【ユニット化に向けての準備を行う】

- (1) 入居者のご家族に対し丁寧な情報提供を行うとともに、ユニット型・従来型の希望聴取を行い、ユニット移行後の混乱の防止と稼働率の維持ができるように気を付けて準備を行った。
- (2) 法人内のユニット型施設に協力依頼をし、職員の施設見学、体験研修を行った。
- (3) 職員個々の適正を見ながら、新体制に向けた人員配置を検討し、実施した。

- (4) 入居者の方の状況に応じたユニット・居室配置を行い、安心して生活していただけるように努めた。
- (5) 介護職員の勤務体制については、12月1日よりユニット化に合わせ、従来の体制（夜勤1回15時間体制）より三交替性（夜勤1回7.5時間体制）に改定した。

2. 【質の高いケアの提供】

特養での生活において、より質の高いケアを提供し、心身ともに健康で穏やかな生活が送れるようなサービスの提供に努めた。

- (1) 言語的・非言語的コミュニケーションを活用し、援助の際は丁寧に声を掛けながら実施するよう努め、毎月のミーティングで丁寧な言葉がけができていたか振り返りを行った。
- (2) 入居者の体調管理については、ケアワーカー・看護師連携のもと日々の観察やコミュニケーションの中から入居者の方の小さな変化を見逃さず、迅速で適切な対応を行うよう心掛けた。
- (3) 生活動作訓練など生活リハビリとして可能な限り体を動かしていただき、残存機能の活用や精神活動性を維持するため様々な活動への参加を促すなど生活機能が向上するよう援助した。
- (4) ADLが低下されている方については、心身の状態や身体的特徴、皮膚の状態、栄養状態などを把握し、適切な時間・方法で体位交換を実施することで安楽な体位を提供し褥瘡予防に努めたが、終末期の過程で栄養状態が思わしくなく1名褥瘡が発生した。褥瘡があった状態で入居された方が2名いたが、現在は完治となっている。

3. 【食事満足】

他職種と連携し食に関する取り組みを充実させ、美味しく、安全に召し上がっていただける食事を提供し利用者満足につなげることができた。併せて給食センターに働きかけ、療養食の提供に取り組んだ。

- (1) 食事満足度向上委員会やチームMで食事形態の見直しや改善、献立について話し合うことで、より美味しく安全な食事を提供することができた。
- (2) 栄養モニタリングの充実を図り、他職種と連携しながら入居者の栄養状態の改善を目指した。また体重測定を毎月実施し体調管理に反映できた。健康管理において、できるだけ口から食べる楽しみの支援を行うため、他職種連携で安全な食の提供に努力した。

4. 【認知症ケア】

認知症ケアについて、認知症から来る混乱や不安、リスクを軽減できるよう以下の(1)～(4)について取り組んだが、場面によっては専門職として不適切なものも見られ、その都度リーダーや主任・副主任によって指摘、修正を繰り返した。

- (1) 丁寧な言葉がけを行い、認知症の方が安心して生活できるよう支援することに努めた。対話や傾聴の重要性をしっかりと認識し、その言動に共感し親身な対応を行うよう努めた。
- (2) 職員は認知症の方の対応で感情のコントロールを意識し、専門職としていつも冷静か

つ温和に対応するよう心掛けた。

- (3) 12月の内部研修で「認知症に関する知識及び認知症ケアに関して」を実施した。
また、認知症委員会を隔月開催し、認知症ケアに関する知識を深め専門性の向上を図った。
- (4) 認知症ケアについて多職種や部署を越えて情報共有し、協力してケアしていくよう努めた。

5. 【看取りケア】

施設での看取りを望まれる入居者・家族の方が安心して終末期を過ごしていただけるようケアの充実を図ることに努めた。

- (1) ターミナルケアを行う際は、入居者の家族に対して看護師・主任・生活相談員等の担当職員から丁寧に状態の説明を行い、ご家族の不安を軽減できるようコミュニケーションを密にした。
- (2) 終末期は入浴ができないことが多い為、整容を基本とし清潔保持に努め、口腔内の保清にも努めた。
- (3) お亡くなりになった後は、デスカンファレンスを通じて、看取りケアを振り返り入居者の方を偲ぶと共に職員の気持ちを整理することに努めた。ターミナルケアを開始する際は、医師、看護職員、ケアワーカー（主に主任、副主任）が状態の説明を丁寧に行い、入居者・家族の方が抱かれている懸念を真摯に受けとめ、今後の対応について話し合いを行った。この取り組みにより、ご家族の不安を軽減し、その方が本当に望まれる最期を迎えていただける援助ができたのではないかと感じている。

6. 【リスクマネジメント】

リスクマネジメントについて、入居者が安全かつ安心して生活できるよう、事故防止、感染症の防止、食中毒の防止に取り組んだ。また精神的苦痛を伴う身体拘束の廃止や虐待の予防にも積極的に取り組んだ。

- (1) 事故、ヒヤリハットが発生した際は迅速に報告書を提出し、情報を共有し再発予防に努めることができた。またリスクマネジメント委員会にてヒヤリハットや事故の報告を行い、対応策等について他部署間で意見交換を行い、再発の防止やリスクの軽減につなげることができた。
- (2) 入居者の食前の手指消毒、食後のテーブル消毒を実施し、感染症の流行する時期は、テーブルや手すり、ドアノブなど人がよく触る箇所の消毒や室内の換気、加湿を徹底的に行った。また疑わしい場合は『院内感染・食中毒予防マニュアル』に沿って迅速に対処したことで、拡大を防御する事ができた。
- (3) 職員が感染症の媒介者とならないよう、手洗い・手指消毒・うがいなどの事故管理の指導を行ったが、数名がインフルエンザに罹患した。その際には感染拡大防止対策として、発病した職員への指導を行った。（入居者の発症は無し）
- (4) 身体拘束を排除する取り組みに努め、やむを得ず行わなければならない場合は、経過

を確実に記録し、毎月リスク委員会及びチームMにて再検討を行った。

- (5) 虐待や不適切ケアにつながる恐れのある言動等については、小さなことでも指導の対象とし、その都度上司により対応修正の声掛けや話し合いを行うことができた。

7. 【環境整備】

入居者の方が安全かつ清潔で快適な空間で、居心地良く過ごせるように環境の整備に力を入れ、利用者満足向上に取り組んだ。

- (1) 毎回入居者の離床後は掛け布団をきちんと畳む、シーツのしわを伸ばす、などベッドメイクを実施、臥床後はシーツや衣類のしわを伸ばす、上着は畳んで車椅子の上に置く、靴は足元に揃えて置く、などを徹底した。特に居室の棚の上は本人にとって大事な物（例えば家族の写真や趣味の作品など）を置くスペースとし、脱いだ上着や膝掛けなどを置かないように努めた。

また離床時には、上着のボタンをとめる、寝癖を直す、眼脂を拭くなど身だしなみを整えることを徹底し、髭剃りにも配慮した。

掃除については、作業職員による居室・廊下・ホールの水拭き、モップ掛け、廊下の掃除機掛け、集合トイレ・個室トイレ・ポータブルトイレの掃除・消毒、居室の棚のダスキンモップ掛け、洗面台の掃除、4月と9月には窓拭き、蜘蛛の巣掃除、中庭の草刈り、フロアマットの交換などを実施した。

臭いについては、居室・トイレ・廊下など清潔な環境になるよう留意し、オムツ交換後など排泄介助後には消臭スプレーを振り、居室には消臭剤を設置し臭いのエチケットについて配慮、入居者や来園者が居心地良くなるよう努めた。

- (2) 温度管理については、定時に温度と湿度をチェックし冷暖房の調整や換気を行った。冬季には加湿器の水が無くならないように努めた。

窓からの明かりが十分な時は部屋の電気を消したり、寝ている入居者の居室は小さな明かりに変えるなど状況に応じて明かりを調整した。

- (3) 事故を未然に防ぐため、各種ミーティング等でそれぞれの入居者に合ったベッドサイドサークルや見守りベッドなど福祉機器を活用し、入居者が安全に生活できるよう協議し、整備した。

8. 【モチベーション向上】

職員の業務に対するモチベーションを上げるとともに、職員一人ひとりが意見の出しやすい職場作りを継続した。

- (1) ケアワーカー、看護師を対象に毎月の内部研修レポート内で施設や入居者様、その他の意見を挙げてもらった。挙げられた意見に関してはリーダーミーティングにて施設長、主任、副主任、リーダーで協議し、どのような内容であっても先送りせず、本人に対し、或いはミーティング議事録にて必ず回答した。

- (2) 職務上の問題や人間関係の悩みを抱えた職員に対して、上司と話をする場を設け、本人の思いを聞き、一緒に解決策を模索した。また個別面談では頑張っている部分、改善して

欲しい部分を率直に伝えて本人に理解してもらい、その上で助言をすることを心がけモチベーションアップに努めた。

- (3) 職員には全員に担当や役割を割り振った。不慣れな役割に当たった職員に対しては、リーダーを中心にフォローをしながら年度の最後まで役割を全うしてもらった。
- (4) リーダー業務だけでなく他職員の業務のフォローなど、特に負担の大きかったリーダー職に対しては、コミュニケーションを密にとり、リーダー本人の思いや状態の把握に努めた。

9. 【教育訓練】

職員のキャリアアップを念頭においた研修を実施した。また質の高い援助を実践するための教育訓練を実施し、ケアの質と専門性の向上をはかった。さらにユニット型特養への配置を念頭にユニットケア研修に取り組んだ。

- (1) 内部研修の実施：法令などで定められている内容や法人の理念の遵守、人権の尊重などの内容の研修を、主任、生活相談員、そして各担当者が講師として資料を作成し、毎月確実に実施し、レポートの提出にて評価を行った。パート職員に対しても資料を共有し、聞き取りにて評価を行った。
- (2) 外部研修の実施：介護職員の生涯学習やスキルアップなどの内容を吟味し、現場を優先しながらも、年間可能な限り研修に参加した。(詳細はVI. 職員研修の実施状況 - 2. 外部研修に記載)
- (3) 新入職員の育成：新人教育におけるノウハウを学ぶため、介護リーダー1名がプリセプター研修に参加した。ユニットの研修に関しては施設長・相談員・介護・栄養調理・事務の各主任を中心に準備委員会を定期的開催し、開設に向けた準備を行った。

10. 【余暇活動の充実】

文化・教養活動の充実を図り、入居者が作られた作品等は広報誌に掲載したり、部署に飾り付けを実施した。

- (1) 職員が実施している朗読クラブ、書道クラブ、映画放映は感染症の流行時期以外はほぼ毎月実施でき、余暇活動の充実を図った。
- (2) ボランティアの利用については、5月「和楽会」、「イロリバタズ」、「かわず会」、9月の交流会では「ダンディーズヨッカイチ」「宮美会」、10月に「大正琴」の方に来園していただき、多くの入居者の方に楽しんでいただいた。
- (3) 聖マリアこども園との交流会は5月「シャボン玉遊び」、7月「納涼会」、10月「ハロウィンパーティー」、12月「クリスマス会」を実施した。毎年恒例で行っているが、毎回多くの笑顔が見られ、喜ばれる企画であった。
- (4) 季節を感じられる催しの食事会を開催し、喜んで頂けた。
- (5) 入居者の方が、興味ややりがいを持ってできるもの(折り紙、ぬり絵)など、余対話を重視した余暇活動を実施した。

11. 【家族との信頼関係の構築】

入居者家族とのコミュニケーションを密にとり良好な関係を構築するよう努めた。

- (1) 来園されたご家族に対して明るい挨拶を心掛け、丁寧な言葉遣いで接し、入居者の近況などを随時報告するよう努めた。また体調不良な入居者に関しては随時電話連絡をし、情報提供に努めた。
- (2) 職員の過失により入居者に不利益が出た際は、正直に迅速且つ丁寧に状況を電話にて報告し、真摯に謝罪した。またご家族が来園された際には、再度謝罪し状態の説明や対応・改善策を伝えた。

12. 【利用率の確保】

施設運営の安定化を図るため、稼働率の維持に注意した。緊急でのショートステイの受け入れ等も行った。

- (1) 人事異動により生活相談員の交替が行われたなかで、稼働率の維持に取り組んだ。
- (2) 空きベッドが生じない管理を徹底し、ベッド稼働率が低下しないよう取り組み、入居・ショートのコスト稼働率 99.0%を目指したところ、結果は 98.8%となった。

IV. 地域との交流

1. 入居者・家族交流会（5月・9月：ご家族との交流）
2. 盆踊り大会（7月：地域住民・子供会・婦人会との交流）
3. 交流運動会（10月：こども園児・地域住民・老人クラブとの交流）
4. 認定こども園との交流会（5、7、10、12月：聖マリア認定こども園児との交流）
5. その他協力校等との連携により、以下のボランティア体験、実習等を実施した。
 - (1) 三重県社協 介護等体験事業（教員免許特例法による介護等体験事業）
 - (2) 聖十字看護専門学校（老年看護学実習）

V. 年間行事

4月	桜のお花見、藤のお花見
5月	家族交流会、こども園との交流会
6月	お楽しみ食事会・防災訓練
7月	盆踊り・かき氷（毎週火曜）・こども園との交流会
8月	かき氷（毎週火曜）
9月	敬老の日家族交流会・お楽しみ食事会・かき氷（毎週火曜）
10月	運動会・コスモス見学・こども園との交流会
11月	お楽しみ食事会（焼き芋→中止）・防災訓練
12月	クリスマスイヴ礼拝・クリスマス会・こども園との交流会
1月	入居者新年会・餅つき（こども園のみ開催）
2月	節分（豆まき）・初釜
3月	お楽しみ食事会

その他、ボランティアを含め、施設内・外の行事を多数実施した。

VI. 職員研修の実施状況

1. 内部研修

(1) 専門職研修

対象者：介護・看護職員

講師：施設長・主任・生活相談員・栄養士・リスクマネジメント委員等

- 4月 高齢者虐待防止について
- 5月 介護職員が実施する吸痰について
- 6月 身体的拘束等の排除のための取組みに関して
- 7月 医療に関する知識・褥瘡予防のケアについて
- 8月 高齢者の権利擁護について
- 9月 利用者等のプライバシーの保護の取組みについて
- 10月 24時間連絡体制について
- 11月 「感染症の発生及び食中毒」の予防及びまん延の防止に関して
- 12月 認知症に関する知識及び認知症ケアに関して
- 1月 事故の発生予防・事故の発生等緊急時の対応について
- 2月 看取りについて、身体拘束適正化について
- 3月 ハラスメントについて

2. 外部研修

(1) 三重県社会福祉協議会主催：社会福祉施設職員研修

①中堅職員研修Ⅲ（実施月7月）

②キャリアパス生涯研修 中堅職員コース（実施月9、10月）

③キャリアパス生涯研修 チームリーダーコース（実施月9月）

VII. 資料

(1) 月別入居者数 (2019 年度)

①特別養護老人ホーム (12月からはユニット型・従来型合算)

区分	月別	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
	月初人数	89	90	88	90	90	90	90	90	89	90	89	88	-
	入居	3	0	2	5	0	0	2	2	2	5	2	1	24
退 所	死亡	2	2	2	3	0	0	1	2	1	6	3	0	22
	入院	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	2
	他施設	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

(2) 年齢別男女入居者数

2020年3月31日現在

	64歳以下	65歳～ 69歳	70歳～ 79歳	80歳～ 89歳	90歳～ 99歳	100歳 以上	合計
男性	0	2	3	11	4	0	20
女性	1	1	11	29	24	3	69
合計	1	3	14	40	28	3	89

※平均年齢 85.6 歳

(3) 要介護度別男女入居者数

2020年3月31日現在

	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	合計
男性	0	2	3	11	4	20
女性	0	1	13	24	31	69
合計	0	3	16	35	35	89

※平均要介護度 4.1

(4) 入居期間の状況

2020年3月31日現在

	1年未満	1年～	5年～	10年～	15年～	合計
男性	4	14	1	1	0	20
女性	14	33	16	4	2	69
合計	18	47	17	5	2	89

(5) 保険者別入居者数

2020年3月31日現在

保 険 者 名	入居者数
菰野町	39
四日市市	35
鈴鹿亀山広域連合	9
いなべ市	3
津市	1
松阪市	1
名古屋市 (港区)	1
合 計	89

② 居宅介護支援事業

I. 居宅介護支援事業の充実を図り、他事業所との連携を強化することで利用者様・ご家族様の望まれる生活を支援することを目標に取り組んだ。

- (1) 地域包括支援センターや他事業所との連携を深める取り組みを行ったことにより、利用件数(給付管理を行った利用者数)は、要支援の方(地域包括支援センターからの委託)を含めると、延べ809件、月平均67.4件となり、前年度を延べ69件、月平均6.3件上回った。
- (2) 利用者数増加に伴い、利用者や業務に関する情報の共有、介護支援専門員間の連携が課題となったため、1月より介護支援専門員及び管理者が出席して週に1回定例会議を開催、困難ケースをはじめとして普段抱えている課題について協議したり、情報交換を行うなどした。

居宅介護支援実績推移表 (2019年度)

(単位:人)

介護度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
要支援1	5	5	7	7	7	7	7	7	8	8	5	5
要支援2	7	5	4	4	4	4	3	4	3	3	5	5
要介護1	25	29	30	31	33	30	32	32	34	29	35	33
要介護2	18	15	15	14	13	13	14	11	10	10	11	9
要介護3	7	7	6	6	5	6	7	7	7	7	7	10
要介護4	6	6	6	7	6	8	6	5	4	8	4	4
要介護5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
総合計	68	67	68	69	68	68	69	66	66	65	68	67

③短期入所生活介護事業・介護予防短期入所生活介護事業

I. 運営の基本方針および事業目標

今年度も介護予防短期入所生活介護利用者はほとんどなかった。しかし地域包括ケアの一端として地域になくなくてはならない短期入所事業所としての役割を果たすため、行政や他の事業所と連携し緊急利用の依頼には可能な限り対応する姿勢で運営を行った。また、その方の望む生活を維持するために、通常のサービスに加え、お話の傾聴、疼痛緩和、ご家族への連絡調整等を状況に合わせ実施し、できる限り在宅での生活の内容や環境を施設内で作りながら、より安心していただける関係を作り出すことに努めた。また医療、介護、リハビリテーションの提供など、短期入所に伴う施設の様々な機能を利用させていただくことにより、心身機能の向上と在宅での安心できる生活を継続できるよう支援した。その他のサービス提供の面では介護老人福祉施設の本事業に準じて、区別なく提供できた。

II. 具体的な事業報告およびその内容

1. 在宅での生活状況に合わせた個別サービスの提供

- (1) 事前面接訪問・居宅ケアプラン等による情報の収集により利用者一人ひとりの障害の状況や在宅での生活状況（ベッドの位置や介護用品等）に合わせて、ご家庭での生活を維持継続していく形を基本として、施設での生活環境を作り出した。また、趣味や教養娯楽活動についても、施設にある既存の活動内容だけでなく、ご自宅で実施されていた趣味的活動を可能な限り施設でも続けていただけるよう支援した。さらに、食事、入浴、排泄等介護サービス内容についても、利用者ご本人の意思や嗜好を十分に把握し、希望に沿ったサービスを提供した。
- (2) 初回利用の方や継続的に当施設の短期入所生活介護を利用されている方のサービス担当者会議には積極的に参加し、他事業所の意見、ご家族の現在のお気持ち等モニタリングを行うことにより、サービスの向上を目指した。

2. 地域との連携を強化し、利用者を支えるトータルな在宅ケアの提供

- (1) 菰野町社会福祉協議会にて行われる、事業者会議及び地域ケア会議に毎月参加した。
- (2) 地域福祉の現状や課題を知ることで、在宅におられる利用者へのサービス提供や利用者・ご家族との相談をスムーズに進めることができた。
- (3) 近隣福祉施設との交流を図ることで、在宅の福祉サービス困難者を地域で助けあい、援助させていただくことができた。

3. ご家族と密接にコミュニケーションを図り、ニーズの把握、効果的なサービス提供に努める。また、ショートステイ利用者の重度化に対応できる体制を整える

- (1) ケアマネジャーやご家族様に定期的な訪問や電話を行い、要望や注意事項などを伺った。それにより、個別のサービス提供の満足度向上につなげることができた。
- (2) ご希望に応じて理学療法士による専門的なリハビリも提供した。
- (3) 利用者様の重度化に伴い増加している、ショートステイ中の体調不良やショートス

テイ中の死亡に対応できるようご家族様とのコミュニケーションを密にした。具体的には利用者様やご家族様の意向を確実に把握し、また主治医の往診、死亡診断ができる体勢をとることができた。

4. 柔軟にショートステイを受けられる体制を作る

- (1) ご家族に送迎いただければ、朝食時からの受け入れ又は夕食後までの受け入れに対応した。またご家族様からの様々な送迎時間の要望にできる限り対応した。
- (2) 障害者支援施設の相談員との連携を図り、障害者の方と保護者（ご高齢の要介護者等）が同時に安心して利用できる体制を整えた。また在宅での介護者の急な体調不良などで緊急にショートステイ利用を希望される場合はできる限り受け入れるようにした。

5. 持ち物の紛失・忘れ物の防止

- (1) 持ち物の紛失・忘れ物に全職員が責任を持てるようにした。具体的には紛失・忘れ物等の謝罪の電話は必ず担当職員が行い、忘れ物の場合は基本的に当日中に担当職員がご自宅に届ける体制とした。退去時の職員間の声出し確認を徹底し、忘れ物の防止に努める事ができた。また忘れ物で特に多い口腔ケアセット（歯ブラシ、コップ、歯磨き粉等）、薬に関して「利用者所有物管理書」を改訂し送迎担当職員が最終チェックを行うようにすることで、退去チェックと最終チェックのダブルチェックが出来た。これらにより一人ひとりの職員に責任を持たすことができた。

6. 最終排便日、体調等を確実に把握し、ショートステイ中適切な対応ができるようにする。

- (1) ショートステイお迎え時に職員は「ショートステイ利用者 入居時個別確認表」を用い、ご家族様からお伝えいただく「利用期間」「利用申込書の有無」「指示薬の有無」「最終排便日」「体調」「その他特記事項」の聞き忘れを防止した。また便秘時はご家族と連絡を行ない、ご家庭での対応方法の再確認をし対応する事ができた。バイタル測定、入浴サービスの提供を忘れないよう「ショートステイ利用者 入居時個別確認表」を用いチェックした。それにより入居時のバイタル測定、入浴サービスの提供の忘れを防止することができた。

7. その他

その他は特別養護老人ホームの併設事業であるため、本事業に準じている。

Ⅲ. 月別利用実績

月別短期入所生活介護利用人数(延べ)

介護度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
要支援1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
要支援2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要介護1	18	0	2	2	13	0	0	0	0	0	0	0	35
要介護2	40	47	22	13	53	30	31	21	0	0	0	0	257
要介護3	22	29	25	19	31	56	65	30	40	62	62	93	534
要介護4	55	75	97	81	70	60	54	98	105	62	58	62	877
要介護5	15	26	20	19	17	27	31	40	51	38	32	27	343
合計	150	177	166	134	185	173	181	189	196	162	152	182	2047
平均利用者 (1日)	5.0	5.7	5.5	4.3	5.9	5.7	5.8	6.3	6.3	5.2	5.2	5.8	5.5

稼働率の推移

	定員	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
入居	90	98.9	99.7	98.3	99.8	100.0	98.4	98.3	98.4	99.6	98.7	99.1	99.6	99.0
短期入所	7	83.3	90.0	82.9	71.4	92.2	85.2	81.6	93.3	88.4	80.6	78.8	88.0	84.3
合計	97	97.8	99.0	97.2	97.7	99.4	97.5	97.1	98.1	98.8	97.4	97.6	98.7	98.0

注) 上記表の「入居」欄のうち12月以降はユニット・従来型を合算した数値。

※2019年度の年間入居稼働率は98.0%となり、99%の目標が未達成となった。原因としてはショートステイ利用人数の低下が上げられる。

※近年、高齢者施設（サービス付き高齢者住宅、有料老人ホーム、特養など）が近隣で複数開設されており、入居待機者、ショートステイ利用者が減少傾向にある。また、ショートステイ利用者に関しては、利用者の平均要介護度が低下している。これは要介護度が重くなり介護量が増加すると、ショートステイやデイサービスを利用して在宅で介護をするのではなく、サービス付き高齢者住宅、有料老人ホーム等に入居されるケースの増加が原因ではないかと考えられる（サービス付き高齢者住宅、有料老人ホーム等は特養や老健に比べ比較的空きがあり入居しやすい）。

当施設としても、稼働率を維持して運営を安定化させるため、近隣の病院や他事業所と今よりも密に連携していくことが必要である。

令和元年度 介護老人保健施設 聖十字ハイッ 事業報告書

I. 事業内容

【介護保険施設サービス事業】

介護保険施設サービス事業（入居）

短期入所療養介護事業・介護予防短期入所療養介護事業

： 定員 100 名

【通所リハビリテーション事業】

通所リハビリテーション事業・介護予防通所リハビリテーション事業

： 定員 18 人

II. 基本方針及び事業目標

医療と介護の役割分担と連携強化を図り、重度の要介護者や認知症の方々に医療・介護サービスを切れ目なく提供し、介護予防・重度化予防に取り組むとともに、地域の要介護者の中核拠点として、通所リハビリテーション・ショートステイ・入居等でリハビリテーションサービスを包括的に提供し、高齢者ができる限り住み慣れた地域で日常生活が営むことができるような支援を行うことを目標とし、以下の取り組みを実施した。

III. 令和元年度の主な取り組み内容

<介護保険施設サービス事業（入居）部門>

1. 【内部体制の整理と多職種連携の下での利用者サービスの提供】

- (1) 現在の当施設の在宅復帰・在宅療養支援機能に対する評価および報酬体系は「基準型」であるため、今後の在宅復帰の推進、回転率のアップに向けて、相談支援体制や医療、リハビリ実施体制の変更についての協議を進め、令和2年10月からの「加算型」への移行をめざし、各種準備を進めていった。
- (2) 多職種で構成される委員会を継続して開催した。内容としてはリスクマネジメント委員会・感染症委員会・褥瘡委員会・食事委員会・身体拘束廃止委員会について、毎月最終金曜日に報告検討会議を行った。
- (3) 施設長・看護長（師長・副師長）・総主任による会議を定期的に行う。看護師の確保、利用者へのより良い看護の提供等に関し、話し合いを行った。また、看護職員一人一人と面談を行い、現状の思いや改善点を聞く場とした。

(4) 老健所属のケアマネジャーと総主任による介護支援専門員会議（ケアマネミーティング）を定期的実施し、今後の在宅復帰・在宅療養支援機能のアップに向けて、現場での具体的な取り組みを進めていった。

(4) 入居検討会議を毎月開催。スムーズな入居調整について話し合うとともに、入居者の要介護度についても検討。上記ケアマネミーティングとの連動により適切な要介護度をさぐることができるようになり、安定した施設運営の一助とした。

2. 【安心され満足されるサービスの実施と残存機能を維持向上させる取り組み】

(1) 認知症ケアでは「利用者の話をじっくり聞く」取り組みを進め、日常の中での生活感覚を呼び起こす取り組みとして、園芸・学習療法等を実施した。

(2) 理学療法士・作業療法士・言語聴覚士を中心に分析・評価を行い利用者一人ひとりの状態や希望に沿ったリハビリテーションを実施し、ADLの向上を目指した。

基本動作訓練の内容・・・寝返り訓練・起き上がり訓練・座位訓練・立ち上がり訓練・立位・バランス訓練・移動・移乗時訓練・歩行訓練

治療中訓練内容　・・・基本動作訓練・呼吸・排痰訓練・疼痛に対する訓練・失行・失認に対する訓練・耐久力増強訓練・関節可動域訓練・筋力増強訓練

(3) 音楽療法士（MT）を昨年に引き続き導入し、音楽を用いたより専門的なリハビリテーション活動を実施した。

(4) 作業療法士・看護、介護職員・ボランティアと連携しながら、認知症の方へのグループワーク・レクリエーション活動・リトミック等の音楽活動を行い、利用者一人に対してアプローチを深めた。

(5) 嗜好調査を実施し利用者の食事形態・食事量を分析し、3ヶ月毎に利用者一人ひとりに合った栄養ケア計画を作成した。また、季節感を取り入れた食事提供と週1回以上の選択食を献立に取り入れ、食事の充実に努めた。

(6) リスクマネジメント委員会を毎月開催し、その中で事故事例に分析・検討を行い、事故の原因及び再発防止策を明示し、具体的な対応方法の周知徹底を図った。また、前年度の発生事故を分析し、結果を主任・リーダーと共有した。

4. 【教育・研修】

研修計画を全体的に見直し、その計画に沿って研修を実施・参加した。

(1) 内部研修

内部研修については月ごとの開催リストを整理し、年間の研修計画として打ち出した。平成 30 年度は 8 種・計 10 回の内部研修を開催。参加対象者を区分 A（全職員対象）と区分 B（リーダー対象）とに分け、より効果的な研修となるように進めた。

(2) 外部研修

積極的に外部研修を計画し、より多くの職員の参加を促した。リーダーシップの向上やスタッフ確保・スタッフ育成を主軸においた様々な研修に主任やリーダーを参加させるとともに、国の推進する介護職員のキャリアパス構築に向け、対象となる研修に初任者・中堅・チームリーダーを参加させた。

・職員研修の実施状況

資料 1：＜令和元年度 介護看護入居部門 **施設内専門研修**＞

実施日	参加職員	内容
4 月	全職種 (区分 B)	ターミナルケア
5 月	全職種 (区分 A)	感染症予防
6 月	全職種 (区分 B)	認知症ケア研修
7 月	全職種 (区分 B)	身体拘束廃止研修
8 月	全職種 (区分 B)	土砂災害対応研修
10 月	全職種 (区分 A)	インフルエンザ予防研修・ ターミナルケア・疥癬予防
11 月	全職種 (区分 A)	褥瘡予防研修
12 月	全職種 (区分 A)	感染症予防研修
3 月	全職種 (区分 A)	腰痛予防研修・身体拘束廃止研修

資料 2： <令和元年度 介護看護入居部門 施設外専門研修>

実施日	参加職員	内容
6月5・6日	介護職員	キャリアパス対応生涯研修（リーダーコース）
9月14日	看護職員	「高齢者の心疾患に対する予防救急」としての救急講演会
10月2・3日	介護職員	キャリアパス対応生涯研修（中堅職員コース）
10月4日	介護職員	介護リーダーに必要な業務改善のための4つの力
11月19日	介護職員	介護リーダーに必要な業務改善のための4つの力
11月14日	介護支援専門員	専門研修課程Ⅱ
12月5日	看護職員他	まだ間に合う！流行期の感染症対策
1月14日	理学療法士	臨床実習指導者会議

5. 快適な施設環境の維持

1) 利用者満足度アンケートを8月に実施した。利用者様により満足していただける施設を目指し、施設サービス改善の一環として「第13回ご家族様へのアンケート」を実施。満足度を確認した。

このアンケートの結果は、施設利用者・ご家族・職員が閲覧できるよう、敬老会に合わせて聖十字ハイツ1Fに掲示した（約3ヶ月間）。

また、利用者・ご家族の要望・苦情に関しては1Fに掲示するとともに、改善計画を作成し早急な対応に取り組んだ。

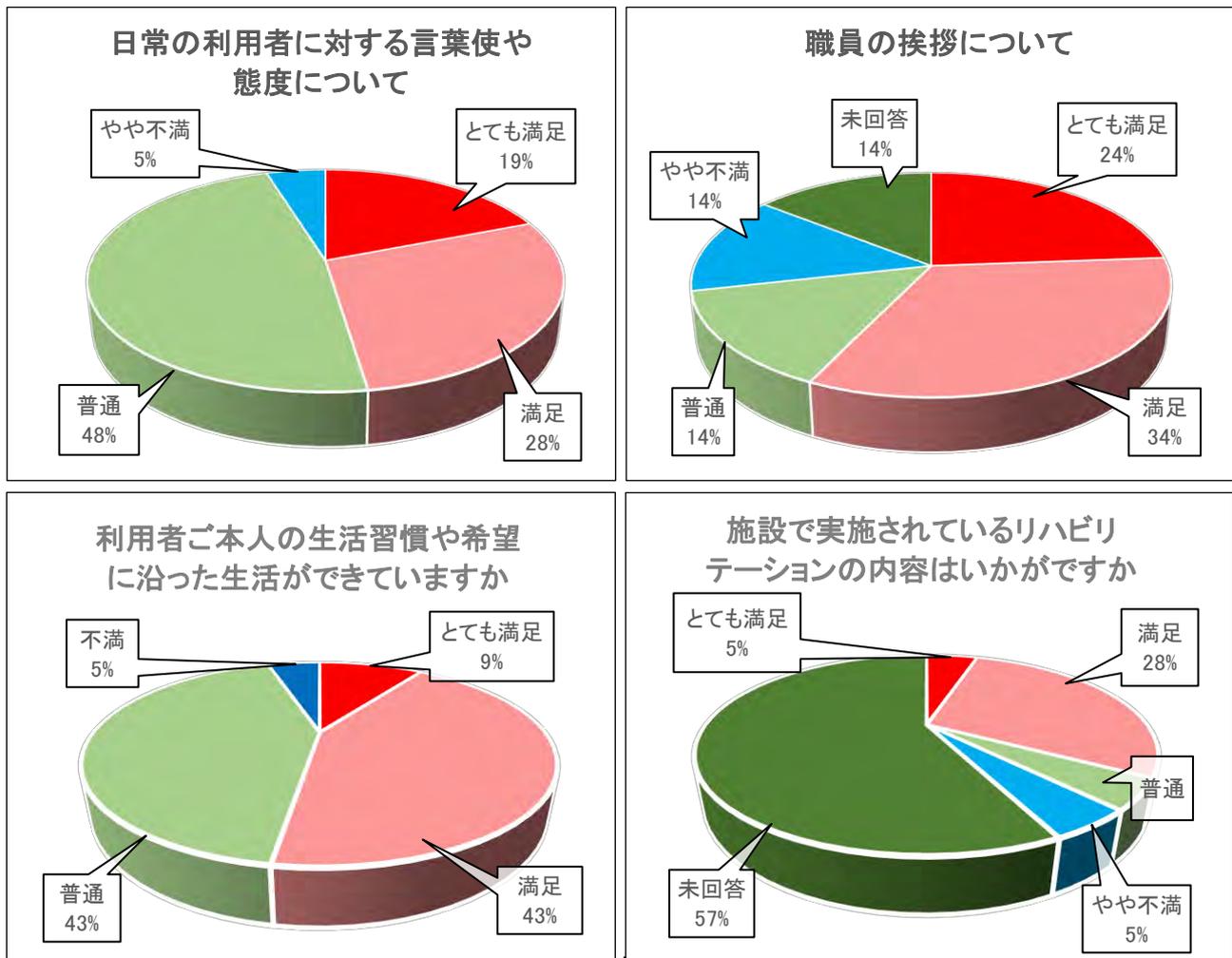
2) また、インフラストラクチャーチェック・防災避難設備の自主チェックを毎月実施し、施設の老朽部分の保守・修理を行った。

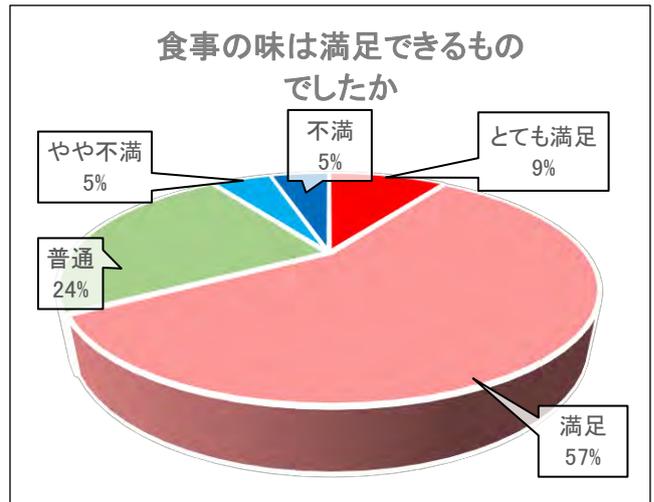
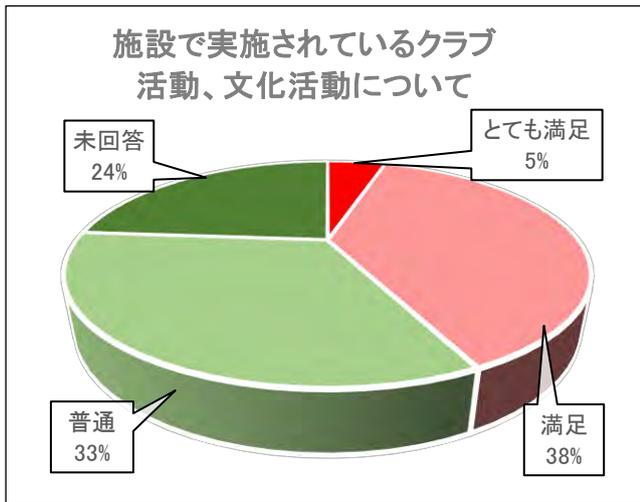
【アンケートについて】

ご利用者様及び、ご利用者のご家族様に対してアンケートを送付。統計を取った。

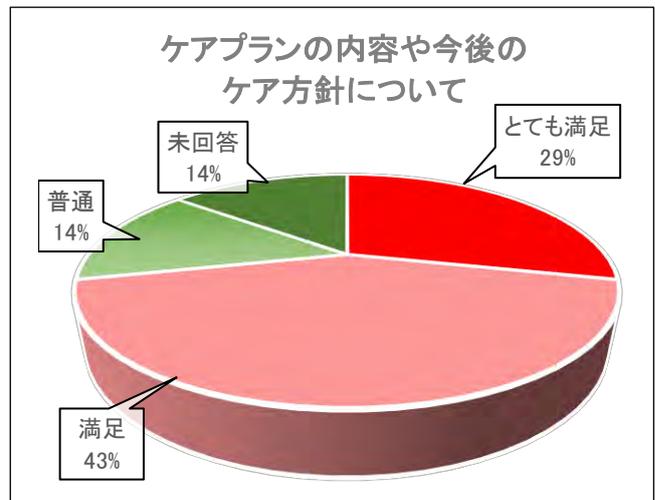
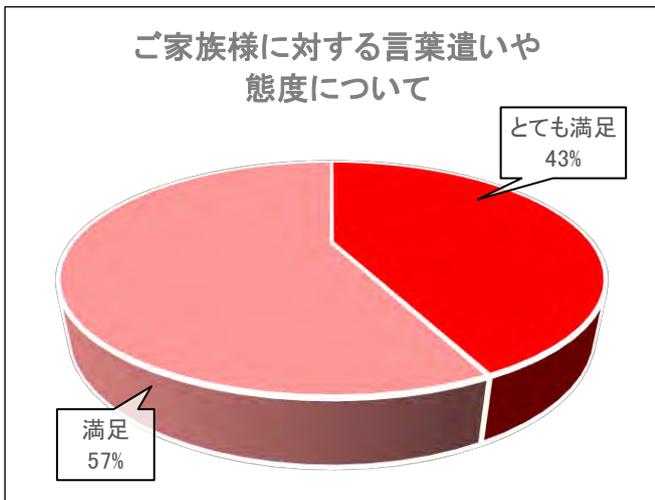
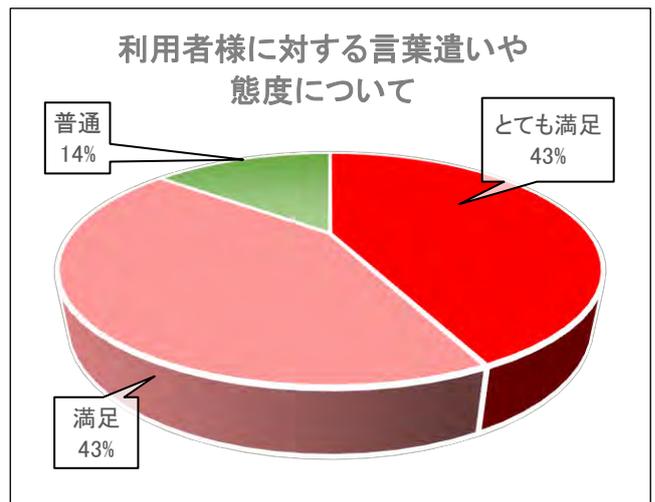
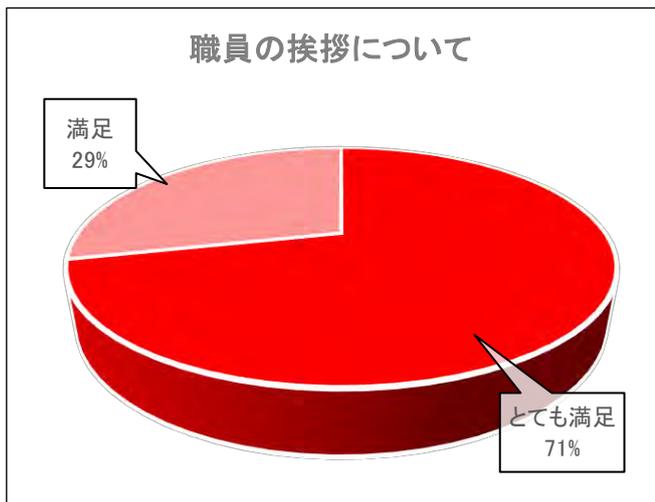
1. 対象者：利用者ご本人様、平成 30 年 9 月 1 日以降にあらたに入居された利用者様のご家族様、通所リハビリテーションのご利用者様、ご家族様
2. 回答者数
利用者様：21名/98名（聞き取り調査が可能であった方）
家族様：7名/14名（平成30年9月以降に入居された方のご家族様）
通所リハビリご利用者・ご家族様：29名/41名
3. 実施日：令和元年7月～8月
4. ご利用者様⇒「職員の態度や言葉遣いについて」といった10区分・計43項目について、「とても満足」「満足」「普通」「やや不満」「不満」の5段階評価（及び「未回答」の計6項目）での採点と、その他の聞き取りを行った。
5. ご家族様⇒「スタッフについて」といった4区分・計18項目について、「とても満足」「満足」「普通」「やや不満」「不満」の5段階評価（及び「未回答」の計6項目）での採点と、その他の聞き取りを行った。

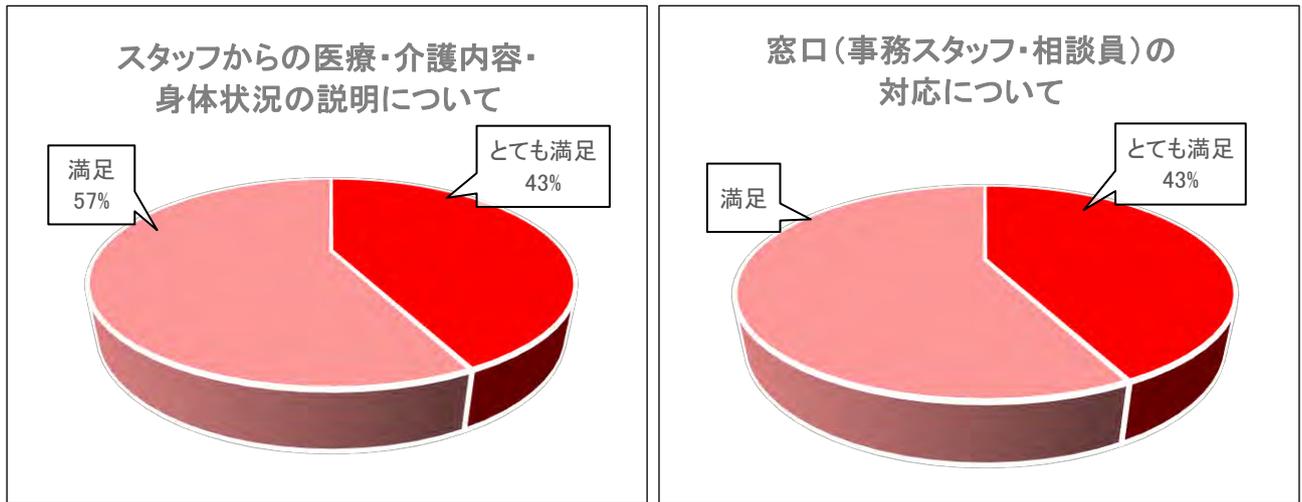
アンケート結果（施設入居者21名・主要な項目のみ掲載）





アンケート結果（ご家族7名・主要な項目のみ掲載）





6. 地域との交流

地域交流やボランティア体験・実習を以下のように実施した。

1. 運動会（10月：園児・地域住民・老人会との交流）
2. 聖十字看護専門学校（6月：老年看護学実習）
3. 敬老祝賀会（9月：家族との交流）
4. 西日野学園（3月：職業体験実習）

7. 年間行事

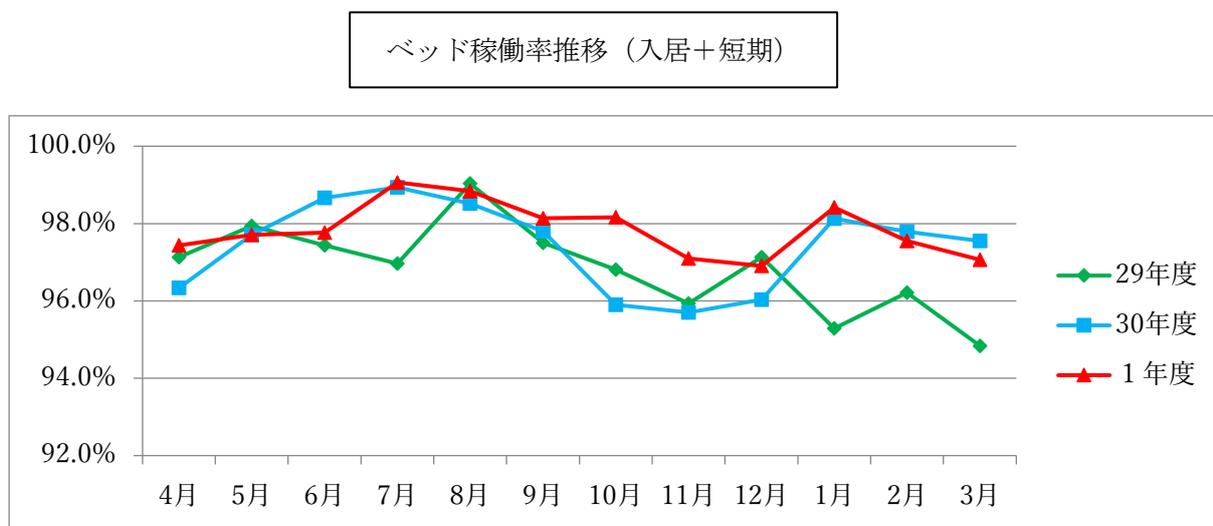
実施月	内容
4月	入居者お花見
5月	菖蒲湯
7月	七夕・天王祭・盆踊り
8月	納涼会
9月	子供園との交流会
10月	運動会・コスモス見学
12月	柚子湯・入居者忘年会
1月	餅つき大会・新春カラオケ大会
2月	節分・初釜

8. 広報活動

利用者に聖十字ハイツの理解を深めていただけるよう、施設での行事やレクリエーション風景や職員紹介を写真やイラストを取り入れながら機関誌「もみの木」を年3回（5月・9月・1月）に発行した。

9. 介護老人保健施設ベッド稼働率、介護報酬の推移について

入居・ショートステイ合計100床のベッド稼働率については、平成30年度97.4%に対し、令和元年度は97.9%と、0.5%上昇した。また介護保険収入については、対前年比2.5%（1117万円）増という状況になった。



<短期入所療養介護事業・介護予防短期入所療養介護事業>

聖十字ハイツでは入居100床中、2床をショート用ベッドとして設定している。
（入居98床+ショートステイ2床 ※空床利用あり）

1. 【ケアマネジャー、ご家族様との緊密な連携】

自宅で自立した生活を送るための支援を目的として、ご利用者様の心身状態が悪化し、医療的なニーズが高まったときや、専門職によるリハビリテーション上の機能訓練が必要になったとき、また介護者の介護負担軽減が必要になったときや、介護者の体調不良や入院などの緊急事態への対応が必要なときなど、迅速かつ計画的に必要な支援を提供した。特に、ケアマネジャーや家族との連携を密にし、効果的なサービス提供に努めた。

2. 【切れ目ないリハビリテーションの提供】

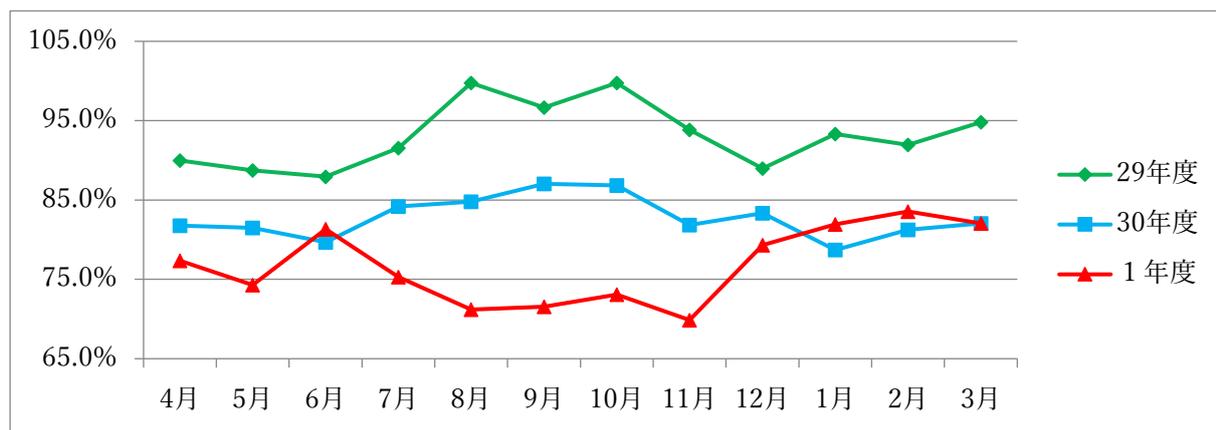
居宅ケアプランに沿ったリハビリテーションを継続的に提供するとともに、当施設の通所リハビリテーションと併用されている利用者については、通所利用中に担当している理学療法士がショートステイ中にも切れ目なくリハビリをすることで、より満足度の高いサービスにつなげている。

<通所リハビリテーション事業・介護予防通所リハビリテーション事業>

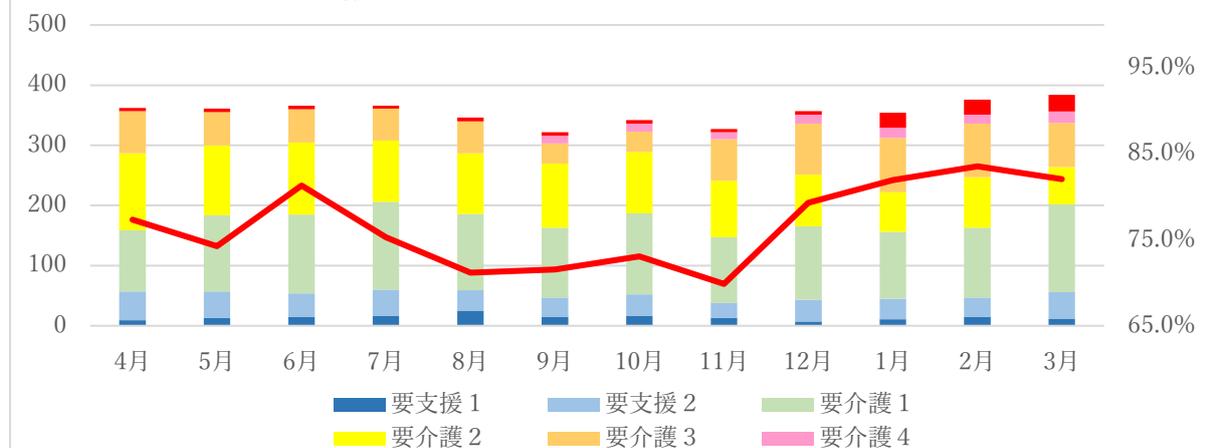
通所リハビリテーションについては、今年度当初より利用人数が減少し、10月までの稼働率が74.2%（平均利用者数13.3人）となった。各居宅介護支援事業所に、利用の案内を行うとともに、四日市市桜地区での利用者拡大を目指して、近隣の医療機関、ケアマネジャーに広報活動を行った。さらに、これまでの介護を中心とした位置づけをより専門的リハビリテーションを提供できる事業所として位置づけ、職員の配置転換や新たな機能訓練等の実施を開始し、12月から令和2年3月の4ヶ月間の稼働率は81.7%（平均利用者数14.7人）となり、数字上は昨年度と同時期の稼働率を上回る状況となった。

しかしながら、年間の介護報酬は6.9%（328万円）減少した。今後は新たなサービスの内容や、より喜んでいただけるリハ内容を構築するとともに、地域の医療機関、地域包括支援センター、居宅介護支援事業所とも緊密に連携を取り、要介護度が高い利用者の確保に努めるとともに、通所リハビリ利用時だけではなく、ショートステイ利用時や、在宅での生活時の身体状況へも深くかかわり、継続的な地域での専門的リハビリテーションの提供による生活機能の向上に寄与していく。

稼働率推移（通所リハ）



要介護度別利用者数・稼働率推移（令和元年度）



令和元年度 ケアハウス 白百合ハイツ 事業報告書

I 施設方針に対する取り組み

入居者の方々の意思及び人格を尊重すると共に、常にその方の立場に立ち、人間性に満たした必要なサービスを提供するよう努めた。また高齢化に伴うケアハウスとしての介護、支援の在り方の変化に対応できるよう、各個人のニーズに沿う援助をどのように提供するかを職員全員が共有し、利用者が安心して生き生きと明るく生活していただくことを念頭に運営した。

II 事業計画に対する具体的内容

1. 入居者の特性に配慮した生活空間を提供していく

壁面の劣化による浸水で滑りやすくなっている箇所の迅速な修繕、駐車場横の階段付近の照明の設置など利用者の方に安心していただける生活空間を提供させていただいた。

また共有スペースを余暇活動に利用していただけるように、認知症予防のけん玉愛好会などの趣味活動の支援をさせていただいた。それにより心地よいコミュニティを築くことができた。

2. 入居者の方々の健康状態を把握する

日常生活において入居者の方々の状況をしっかりと観察し、状態の変化を見逃すことなく早期受診につなげ、重症化することを防ぐよう努めた。また緊急時におけるスムーズな情報提供を可能とするために入居者の緊急時情報提供書を整備し、薬剤情報の収集にも努めた。

3. 感染症・食中毒予防対策の強化

食中毒及び感染症対策委員会での内容を情報共有し、特に梅雨時の食中毒や冬季の感染症の予防に努めた。

他施設で感染症が発生した場合も、拡大防止のため入居者の方々へ情報を迅速に提供させていただいた。また9月には感染症に関する内部職員研修を実施し予防に努めた。

特に令和元年度は後半に新型コロナウイルスの蔓延が国内外で懸念されたため、職員に対し検温や手洗いうがいを徹底させるとともに、入居者への指導を実施した。またアルコール、ステリプロを活用し徹底した除菌に努めた。

4. 入居者との意見交換会を実施し適切な情報提供を行う

日常生活の中で必要な情報のやりとりをするため、2月に各階ごとに意見交換会を実施した。そこでの意見について対応可能なものについては迅速に実施し、不可能なものについては丁寧に説明させていただいた。意見交換会に参加できなかった方へは個別に対応・説明を行い適切に情報提供させていただくことができた。

5. 自立生活を継続していくためにできることを提案していく

入居者の方々が抱えている病気や介護への不安を軽減できるよう生活相談員を中心に親身になって支援させていただいた。できる限り白百合ハイツでの生活が継続できるよう介護支援専門員、各サービス事業者との連絡・調整をしながら利用者援助を実施した。

6. 職員資質の向上を図る

年初に年間の研修計画を確実に作成し、「事故防止」や「感染症の予防」「権利擁護」などの施設内研修を実施した。各研修はレポートの提出により効果も確認しながら進めることができた。また接遇など有効な外部研修にも積極的に参加することで、職員一人一人のスキルアップを図ることができた。

7. ボランティア活動を積極的に受け入れていく

入居者の方々が特に喜ばれる音楽関係のボランティア活動をたくさんお招きできた。(トリオミッチ様、風のかなで様、パラレルムーン様、鈴鹿マンドリンクラブ様など)
またそれらの様子をホームページにアップさせていただくことで施設のアピールにつながったと感じている。

8. 経営安定のため、稼働率の向上を図る

上半期のスタート時が94%の稼働率であったため、時間はかかるが施設の評判を口コミで高めることが重要と考え、ホームページのお便りを頻回にアップしたり、花壇などの環境整備、丁寧な入居者様対応などに職員一同で取り組んだ。上半期においては入居申し込みをいただくものの、入居時期はもう少し後にしたいと言われる方ばかりだったので、広範囲にわたる在宅介護支援センターなどに訪問し営業活動を実施するも入居調整が難航した。通年では5名退居で6名入居となり96%弱程度の稼働率で終了となった。

Ⅲ 入居者の生きがい、仲間づくり

(1) リハビリ訓練（実施時期：毎週土曜日）

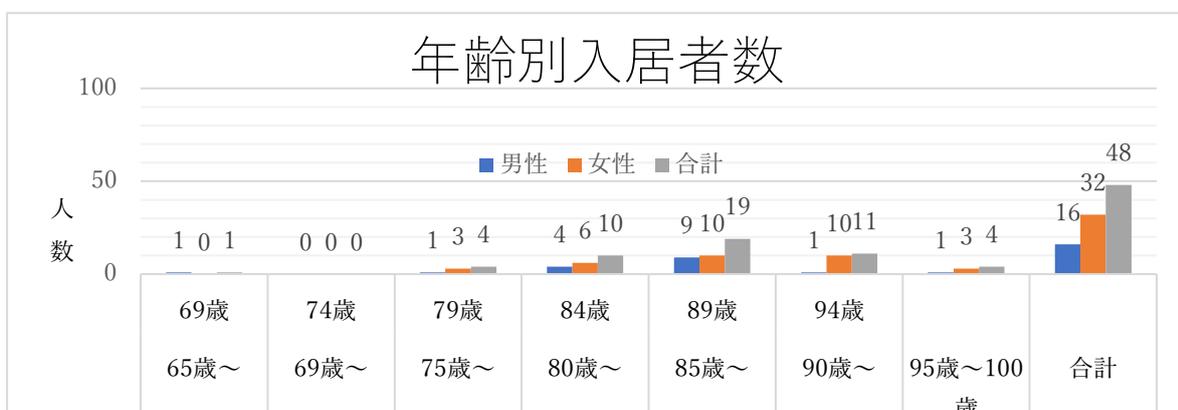
利用者の身体機能の低下を防止することで、より安心して生き生きと明るく生活できるようにするため、PT指導のもとリラックス運動やゴム・竹などを使った「リハビリ訓練」を実施した。

(2) 喫茶・歌おう会・映画放映（実施時期：毎週1回～適宜実施）

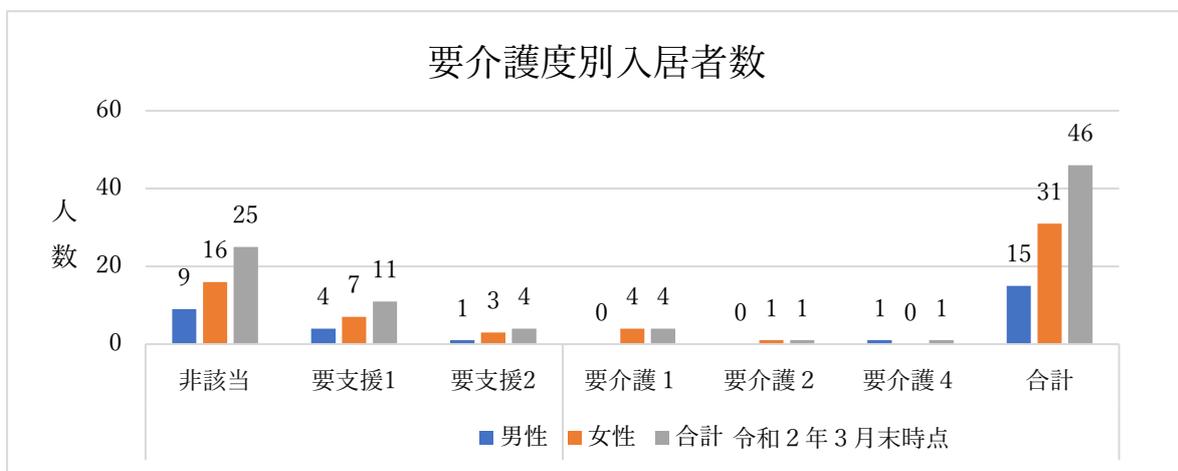
利用者間の交流機会を食事以外で設けることで、居室の閉じこもりを防ぐ効果があり、入居者様の潜在能力を引き出すこともできたが、年度の終わりごろは新型コロナウイルスの蔓延により開催が中止となった。しかしそれまでは生活の質の向上のために利用者の方の要望に応じたボランティアの受け入れをすることができた。

IV 入居者データ

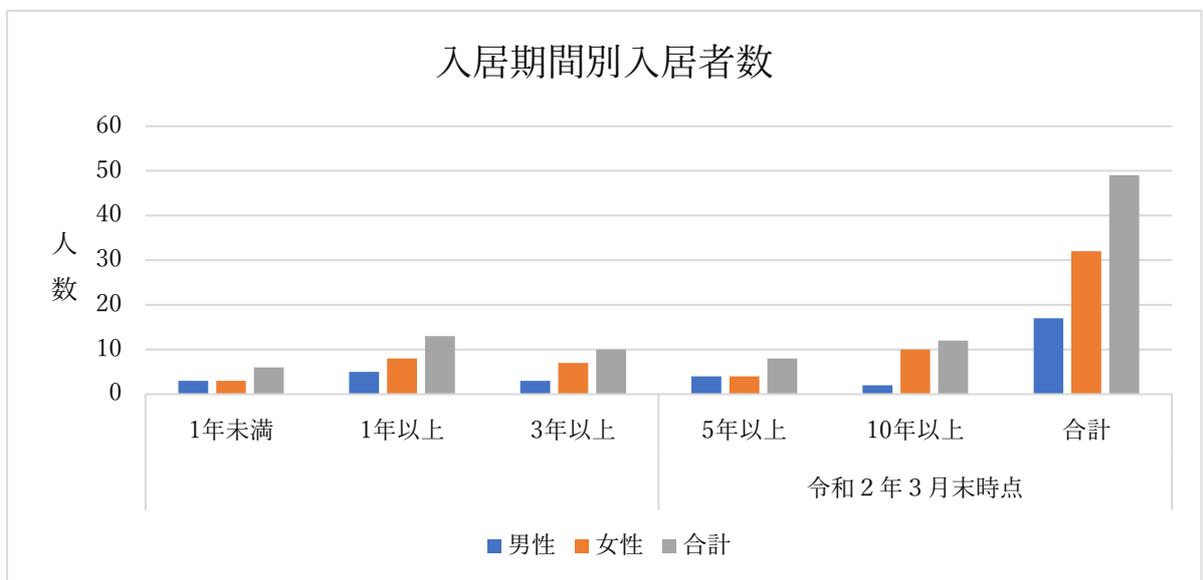
年齢別入居者数				令和2年3月末時点				
	65歳～	69歳～	75歳～	80歳～	85歳～	90歳～	95歳～	合計
	69歳	74歳	79歳	84歳	89歳	94歳	100歳	
男性	1	0	1	4	9	1	1	16
女性	0	0	3	6	10	10	3	32
合計	1	0	4	10	19	11	4	48



要介護度別入居者数				令和2年3月末時点			
	非該当	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護4	合計
男性	9	4	1	0	0	1	15
女性	16	7	3	4	1	0	31
合計	25	11	4	4	1	1	46

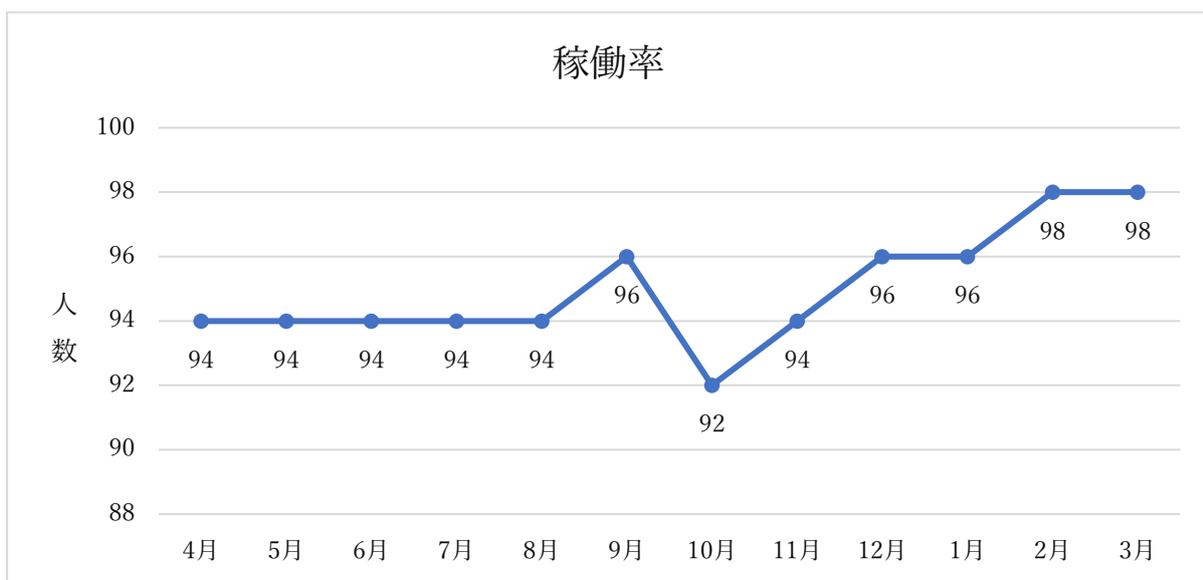


入居期間の状況				令和2年3月末時点		
	1年未満	1年以上	3年以上	5年以上	10年以上	合計
男性	3	5	3	4	2	17
女性	3	8	7	4	10	32
合計	6	13	10	8	12	49



令和元年度 年間稼働率表

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
稼働率	94	94	94	94	94	96	92	94	96	96	98	98
人数	47	47	47	47	47	48	46	47	48	48	49	49



令和元年度 聖マリアこども園 事業報告書

I. 事業内容

1. 保育園（保育標準・短時間認定…保育に欠ける子ども対象） 80名
2. 幼稚園（教育標準時間認定保育…保育に欠けない子ども対象） 15名
3. 子育て支援
4. 病後児保育

*保育園と幼稚園を一体化させた幼児施設であり、子育て相談や親子の集いの場を提供する子育て支援を行うために、子育て支援室、病後児保育などの事業活動を含め、在園児及び未入園児も含め、地域の保護者の子育てと就労の両立を支援するとともに幼児の健全な育成（保育・教育）に努めました。

*7：30～19：00まで利用可能とし、今後も未入園児の一時預かりなど、在園児並びに未入園児の子どもと保護者のニーズに幅広く今後も対応していきます。

*保護者の方の親としての成長を支援し、子育てや子どもの成長に喜びや生きがいを感じられるような働きかけを行いました。

*発達支援の必要な子どもについては、個別の支援計画と職員配置をし、在園する全ての子どもたちの困り感を軽減するように努めました。

II. 運営の基本理念

*神さまによって与えられた命、一人ひとりの思いを尊重しながら、豊かな人格の基礎を作るために恵まれた環境を整え、心身ともに健やかな成長を今後も見守り、援助していきます。

III. 基本方針

*家庭的な雰囲気の中で一人ひとりを大切にし、安心して過ごせる環境と質の高い保育・教育により子どもたちの育ちを保障させていただきました。

IV. 事業目標

*小学校就学前の子どもに対する教育及び保育並びに保護者に対する子育て支援を総合的に提供することによって、地域において子どもたちが健やかに育成される環境を整えるといった地域の幅広いニーズに応えていく努力をしました。

V. 年間目標・教育保育のねらい

- 「生きる喜びを感じ、分かち合い、心身ともに健やかにのびる子どもを見守る」
- めざすこどもの姿
- ・健康で安全な生活が出来なんでも食べる丈夫な子
 - ・優しい思いやりのある子

- ・いろいろな体験を通して何にでも挑戦する子
 - ・自分の考えが言え友だちの考えも聞ける子
- めぞすこども園の姿
- ・子どもの最善の利益を守り、子どもたちを心身ともに健やかに育てる。
 - ・「生きる力」を育て、ともに育ち合えるように援助する。
 - ・一人ひとりの発達を大切にし、あそびを通して教育的機能を行き届かせ人間形成の基礎を培う。

以上の年間目標・教育保育のねらいを達成するために職員共通意識のもと業務いたしました。

行事計画

こども園

月	事業内容 (行事)	行事目標 (経験したこと)	結果・効果 (子どもの育ち)
4月	<ul style="list-style-type: none"> ・入園式 ・新しいお友だちとあそぼう会 ・内科検診 ・緊急連絡網(絆ネット)テスト配信 	<ul style="list-style-type: none"> ・入園や進級を喜び、明るく元気に登園し園生活が楽しいと感じることで集団生活の楽しさを感じた。 ・異年齢の子どもたちと関わり楽しくあそんだ。 ・日常生活に必要な基本的生活習慣を身につけた。 ・テスト配信を行い緊急時の緊急連絡が確実に保護者に配信されたことの確認ができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・友だちとの関わりの中で、相手の存在や立場を理解し思いやりある優しい心を育った。 ・自分の体や病気について関心を持ち、健康な生活に興味を持つきっかけになった。 ・災害時に子どもたちの安全を確保し、安心安全な引き渡しが受けられるような意識を高めた。
5月	<ul style="list-style-type: none"> ・野菜の植付け ・自然の中であそぶ ・個人懇談会 ・尿、蟻虫検査 ・保育参観 	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な植物を知り、親しみ土に触れて野菜の苗付けや収穫を楽しんだ。 ・身体や病気について関心を持ち、健康な生活に必要な基本的生活習慣を身に付けるきっかけとなった。 ・保護者の人と一緒にこども園で楽しいひと時を過ごした。 	<ul style="list-style-type: none"> ・春の自然に気づき関心を持って見たり触れたり植物の不思議さに気づき豊かな心情を育てるのに役立った。 ・園での生活を保護者に見てもらおう中で、楽しく過ごす中にもがんばる気持ちが持てた。
6月	<ul style="list-style-type: none"> ・花の日(聖十字の家訪問) ・温泉水プールあそび ・歯科検診 	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な入居者の方と関わり、信頼感や愛情感じることができた。 ・水あそびやプールあそびでのルールを確認し、健康で安全に気持ちを開放しながら水あそびを楽しんだ。 ・進んで検診を受け、自分の健康に関心を持ちうがいや歯みがきなど予防に必要な活動を進んで行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・人や花に対する愛情を持ち、人とのふれあいをする中でつながりを大切にする心の育ちとなった。 ・積極的にあそぶ中で、運動機能の発達を促した。 ・自分の体や病気について関心を持ち、健康な生活に必要な基本的生活習慣を身につけることの継続的な指導につなげた。

7月	<ul style="list-style-type: none"> 七夕会 どろんこあそび 温泉水プールあそび 納涼会 (聖十字の家交流会) 特別保育自由参観 	<ul style="list-style-type: none"> 感じたことや思ったこと、想像したことなど色々な方法で自由に表現する。お話の世界を楽しんだ。 水あそびやプールあそびでのルールを確認し、健康で安全に気持ちを開放しながら水あそびを楽しんだ。 家族や友だちと一緒に行事に参加し、地域の方と触れ合い地域交流や施設交流を楽しんだ。 	<ul style="list-style-type: none"> 七夕伝説に関心をもち様々な体験を通して豊かな感性の育ちに繋がった。 周りの友だちに対する親しみを深め、集団の中で自己主張し、人の立場を考えながら行動する大切さを学んだ。 積極的にあそぶ中で、運動機能の発達を図った。 地域社会の中で安心できる居場所を感じた。
8月	<ul style="list-style-type: none"> 温泉水プールあそび どろんこまつり 年長組お泊り保育 	<ul style="list-style-type: none"> 水あそびやプールあそびでのルールを確認し、健康で安全に気持ちを開放しながら水あそびを楽しんだ。 泥にまみれながらダイナミックにあそんだ。 自立自立に向けて子どものみで寝食を経験し、花火や夜のお散歩など夜のこども園を楽しんだ。 	<ul style="list-style-type: none"> 興味や関心、応力に応じて全身を使って活動することにより身体を動かす楽しさを味わい、安全についての構えを身に付けた。 園に泊まった喜びや自信、やり遂げた達成感を味わうことができた。
9月	<ul style="list-style-type: none"> 防災訓練 敬老の日 (聖十字の家訪問) 奉仕作業(土曜日を利用して) 	<ul style="list-style-type: none"> 火事や地震、不審者対策をなぜ繰り返し行っていくかを聞き、その重要性を感じた。 自分たちとの生活との関係に気づき生活経験を広めた。 	<ul style="list-style-type: none"> 実際に起こった時のことを考え正しく行動する姿に繋がった。 高齢者との関わりの中で信頼感や愛情、優しさを持ち、人権を大切にすることが育った。
10月	<ul style="list-style-type: none"> 秋の遠足 ハロウィンパーティー(聖十字の家交流会) 運動会 内科検診 	<ul style="list-style-type: none"> 身近な社会や自然の環境と触れ合う中で発見を楽しみ、美しさや不思議さを感じるた 身近な人と関わり信頼感や愛情を持って生活する機会になった。 運動会や日々の園庭でのあそびを充実させた。 進んで検診を受け、自分の健康に関心を持ち健康で安全な生活に必要な習慣や態度を身に付ける経験となった。 	<ul style="list-style-type: none"> 秋の自然に関心を持ち、豊かな心情を育てた。 人との関わりの中で信頼感や愛情を持ち、人権を大切にすることが育った。 保護者や祖父母の方が多くさん応援してくれている喜びから愛されていることを実感した。 積極的に運動する中で、運動機能の発達を図るとともに親や祖父母の愛情に気づきそれらの人々を大切にしようとする気持ちを育てた。 自分の身体や、病気について関心を持ち、健康な生活に必要な基本的な生活習慣を身に付けることができた。

11月	<ul style="list-style-type: none"> ・秋のこどもまつり 人形劇鑑賞会 ・収穫感謝祭 さつまいもクッキング ・自然の中であそぶ ・ふれあいまつり (5才児作品) 	<ul style="list-style-type: none"> ・幅広い経験することによって想像性と創造性を伸ばし色々な人の働きを受け止め生活経験を広めることができた。 ・自然との触れ合いの中で発見や感動、驚きながら季節の移り変わりの様子や美しさに気づいた。 ・地域の方と触れ合いながら、まつりを楽しんだ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な体験を通して、豊かな感性が育った。 ・身近な社会や自然事象への関心が高まり、様々なものの面白さ、不思議さ、美しさなどに感動した。 ・体験を通して、大自然の中にいる自分に気付けたようだった。 ・地域の方との交流をし、温かさや地元愛を感じ行事を楽しんだ。
12月	<ul style="list-style-type: none"> ・クリスマス会 	<ul style="list-style-type: none"> ・クリスマスの本来の意味を知ることができた。 ・様々な表現活動を通して、想像性と創造性を伸ばすきっかけになった。 ・それぞれの場面を担当しこども園の伝統行事を引き継いでいく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な社会や自然事象への関心を深め、美しさ、やさしさ、尊さに対する感覚を豊かにした。 ・みんなでちからを合わせ1つのことを作り上げる喜びを培った。
1月	<ul style="list-style-type: none"> ・新年のご挨拶 (聖十字の家訪問) ・お正月あそび ・もちつき大会 ・給食自由参観 	<ul style="list-style-type: none"> ・年末年始の伝統的な行事に関心が持てた。 ・身近な言葉やあそびに親しみ、それに合わせた体の動きを楽しめた。 ・普段の給食風景を保護者の人に見てもらい楽しいひと時を過ごすことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生活の中で言葉への興味や関心が育った。 ・人との関わりの中でいろいろな人たちにお世話になっていることを知ることができた。 ・身の回りに様々な人がいることを知り関わり大切さ、楽しさを味わうことができた。 ・食べ物に興味や関心を持ち、進んで食べようとする気持ちが育ち、食育に対する意識を深め、生きる力を養う機会にもなった。
2月	<ul style="list-style-type: none"> ・節分会 ・冬の自然を見て歩く ・保育参観 ・特別保育自由参観 ・交通安全指導 	<ul style="list-style-type: none"> ・節分や鬼に関する絵本や話を見たり聞いたりし、異年齢で楽しい豆まきに参加した。 ・早春に向かう自然の変化に気づくことができた。 ・講師の先生から専門分野でのレッスンを受け、興味関心を広げた。 ・日常生活に必要な交通安全やチャイルドシートの必要性など、基本的な習慣や態度を養った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・話を聞いたり見たり、触れたりして興味・関心が広がった。 ・冬から春への季節の変化に気づき自然の恵みを感じた。 ・何事にも興味を持って取り組み、知識・意欲・態度を育てた。 ・交通安全に必要な基本的な習慣、態度を身につけそのわけを知って行動する機会に保護者の方も含めてよい機会となった。

3 月	<ul style="list-style-type: none"> ・特別保育自由参観 ・ひなまつり会 ・年長組社会見学 (町内5歳児とともに 鳥羽水族館) ・お別れ遠足 ・お別れ会 ・春の自然を探して 遊ぶ ・個人懇談会 ・終了式 ・卒園式 	<ul style="list-style-type: none"> ・講師の先生から専門分野での レッスンを受け、興味関心を 広げた。 ・共に過ごしてきた保育者や友 だちとの愛情や信頼関係を分 かち合った。 ・身近な社会や自然事象への関 心を高め、様々なものの面白 さ、不思議さ、美しさなどに 感動した。 ・進学、進級の期待感や、家庭 や保育者間の丁寧な連携の中 で安心して卒園・進級に繋が った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・何事にも興味を持って取り 組み知識・意欲・態度が育つ た。 ・一人ひとりを活かした集団 を形成しながら人と関わる 力が育った。 ・集団生活の楽しさを味わい、 仲間と協力する態度を身に つけた。 ・自信を持って毎日の生活を 過ごしながら新しい生活に 対する期待感を持った。
--------	---	--	---

★誕生会 …… 毎月第3木曜日

★礼拝 …… 毎月第1、3月曜日

★避難訓練 …… 毎月末月曜日（地震・火災・不審者・土砂災害など）
消火訓練は毎月行い災害に備えた。

★身体計測 …… 身長（4，7，10，1月） 体重（毎月） 頭囲（7，1月）視力（2
月3才児以上）測定を行った。

★交通安全日…… 毎月10日
2月には、四日市西警察署主催で交通安全教室を行った。

★その他……………5才児 — 毎月調理実習及び、講師による特別保育として、
英語・リトミック（40回程度）陶芸（1月）
お茶会（3月）などの体験をした。

4才児 — 年5回程度調理実習及び、講師による特別保育

令和元年度 聖マリアこども園 子育て支援事業報告

目的 : 子育て相談や親子の集いの場を提供し、保護者への支援を通して子育て力の向上を支援する。

実施内容 : 毎週火曜日・木曜日 9:45~11:30 子育て支援保育(あそびプログラム作成)
月~金曜日 午前中 園庭開放
夏季温泉水あそび 10:00~11:00 子育て支援保育
(7月初旬~8月中旬お盆前まで土日除く平日)

活動内容 : 4月~3月 火曜日・木曜日 あそびプログラム
毎月:誕生会(誕生児は手形か足形をとり手作りカード渡す)

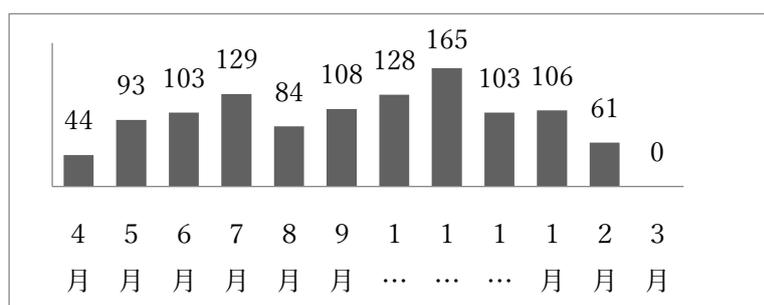
あそびプログラム内容

- ・玩具・季節制作、身体測定、手・触れ合いあそび、体あそび、在園児とあそぼう、誕生会、園行事参加

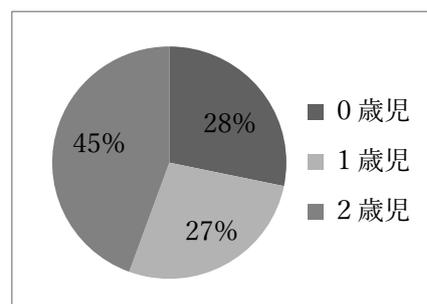
*はらぺこあおむし*かえるじゃんぷ*紙こつぶヨット*ふうせんくじら*虹色望遠鏡
*タヌキときつねのバック*トナカイのオーナメント*ぽつとん落とし*牛乳パックヨーヨー
*各月カレンダー作り

- ◎親子クッキング(6・8・12・1・3月)・フラワーアレンジメント教室(9月)
- 消しゴムはんこで小物作り(5月)・(1月)紙すき年賀状作り(11月)
- おもちゃあそび(11月) 入園グッズ作り(2月)

◎月別参加者人数



◎年齢別参加者



- ◎今年度も「在園児とあそぼう会」を取り入れ、0~5歳児までの各クラスと年間を通して交流し、異年齢とふれあう事を目的としたあそびの場を設けた。
- ◎年3回親子リトミック開催。(講師 廣瀬ふさえ先生) (10・11・12月)
- ◎支援室保育だけでなく、園舎周辺への園外保育を取り入れ実施。
- ◎今年度も、『子育てカフェ』を春夏秋冬に open し、こども園の給食を楽しんでいただきながら食育支援を実施。(5・7・9・2月)
- ◎親子クッキングを通して季節を感じる食育体験を実施。

- ◎園医による健診・発育相談（すくすく広場）を実施。（10月）
- ◎今年度も誕生会には手作りのお祝いおやつを提供。
- ◎活動日のおやつは基本、季節の野菜や果物での対応に変更。
- ◎体験入園の実施。（2月）
- ◎紙すき・ポーセラーツ・入園グッズ作りは講師を招いての体験活動の実施

令和元年度 聖マリアこども園 病後児保育事業報告

目 的

病気の回復期または怪我の回復期と判断された児童・幼児（1才～小学3年生まで）を保護者が何らかの理由（勤務、疾病、出産、家族の介護など）で保育をすることが困難な場合、保護者に代わり病後児保育室で保育する。

利用日：月曜日～金曜日（土、日、祭日及び12月29日～1日3日を除く）
開園時間：午前8時30分～午後5時30分（保護者の希望により変更有）
利用期間；1回の利用につき7日間まで
利用料金：一人につき1日1,000円（給食費別¥300徴収）

令和元年度「病後児保育事業委託契約」について

平成31年4月に、菰野町子ども家庭課と聖マリアこども園の小山の両者にて「病後児保育事業委託契約書」を交わす。

* 令和元年度

登録者数

4月	10名	10月	0名
5月	4名	11月	1名
6月	0名	12月	2名
7月	0名	1月	6名
8月	0名	2月	2名
9月	2名	3月	2名
合 計			29名

利用者数

4月	4名	10月	0名
5月	0名	11月	0名
6月	0名	12月	0名
7月	1名	1月	4名
8月	0名	2月	1名
9月	3名	3月	0名
合 計			13名

*今年度も一定数の利用があり、13名の利用であった。

*入園時や園見学希望者に対し、病後児保育のことも一緒に説明することで登録数も少しではあるが増えた。今後もそのような機会を利用し、周知や登録者数増を促していきたい。

*今年度は協議の結果、浜口看護師をこども園所属とし病後児担当職員とした。浜口看護師の都合がつかないときは老健看護師を手配することになった。

*来年度は担当職員が変わるので引き継ぎを丁寧に行う。

令和元年度 聖十字四日市老人福祉施設 事業報告書

特別養護老人ホーム（地域密着型介護老人福祉施設）	定員 29名
短期入所生活介護	定員 10名
通所介護／介護予防・日常生活支援総合事業	定員 25名
居宅介護支援事業	
在宅介護支援センター 四日市市委託事業	
訪問給食 四日市市委託事業	

地域密着型介護老人福祉施設

I. 事業内容

平成26年11月に開設したユニット型特別養護老人ホームで、地域に密着した小規模の施設となっている。

全室個室で、トイレ、洗面台を完備し、ご自宅での生活同様にくつろぎのプライベート空間となるよう配慮し、ユニットは9名～10名ごとに分け、スタッフも担当制として、少人数で家庭的な雰囲気でのんびりある環境の下で、ご要望や心身の状況に応じたサービスを提供した。

II. 基本方針

「利用者の皆様が安全に、安心して、楽しく生活をしていただけるサービスを提供し、地域の福祉に貢献する」という方針を実現するため、以下のことを実施してきた。

- ① 定期的なミーティング等を行い、各利用者の現状を踏まえたニーズを検討することで、日々のサービスを見直し、実行した。
- ② 感染症委員会を開催し、予防対策やマニュアルを整備することで、本年度は感染症に罹患される利用者様は皆無であった。
歯科、協力病院の医師と密に連携し、口腔ケアや早期対応を行い、重症化する前に往診を可能とし、ご家族に対しても安心を提供できた。
身体拘束については、新たに1件発生したが、関係各所と連携しながら対応し、90日以内での拘束解除を目標に現在も引き続き対応している。
- ③ 各ユニットでの個別的な、家庭的な介助を行うよう取り組み、月に1度ユニット間でそれぞれの取り組みを話し合い、全体で共有しながら実施することができた。
- ④ それぞれの利用者に適した食事形態を随時見直し提供、また毎月の行事食や喫茶を開催し、その際に誕生日(その月の方)のプレゼントをお渡しし、楽しんでいただいた。
施設周辺の散策や、近隣の小学校やこども園との交流を楽しむ機会を提供できた。

行事食

4月	イースター（青豆おこわ）	10月	松茸ごはん
5月	こどもの日（ちらし寿司）	12月	クリスマス（ちらし寿司）
6月	水無月井	1月	お正月（おせち料理）
7月	七夕（和菓子）	2月	節分（うな散らし）
8月	葉月寿司	3月	ひな祭り（ちらし寿司）
9月	敬老の日（ちらし寿司）		

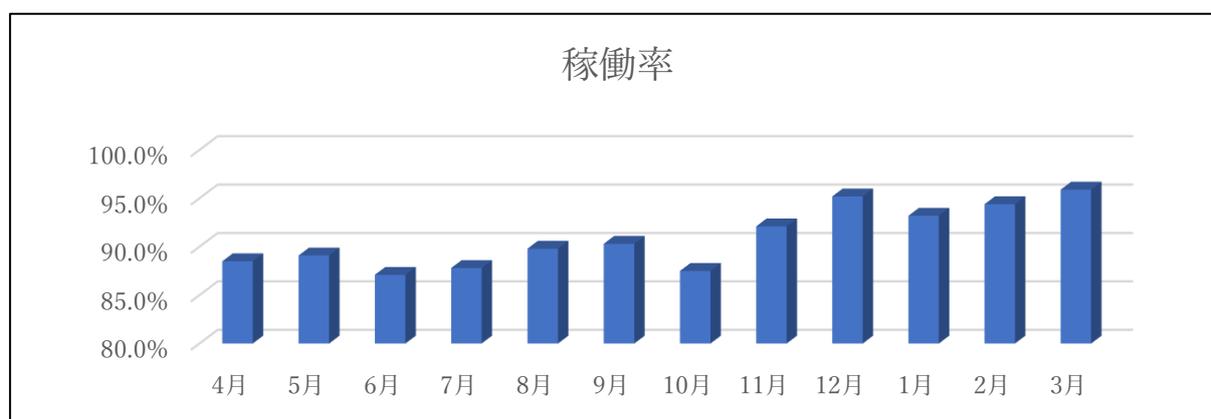
行事

4月	花見	10月	コスモス見学
6月	紫陽花見学	12月	カラオケ
7月	お化粧、マニキュア体験		クリスマス会
9月	敬老の日	3月	すき焼き大会

Ⅲ. 運営上の目標達成状況

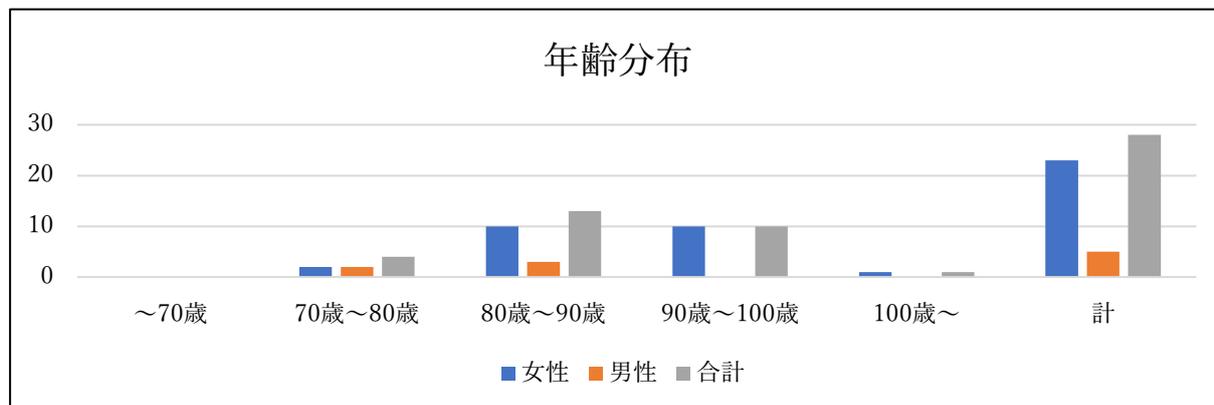
- ① 年間の稼働率目標 98%
年間の実働稼働率 90.9%

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
稼働率 (%)	88.5	89.1	87.1	87.8	89.8	90.3	87.5	92.1	95.2	93.2	94.4	95.9



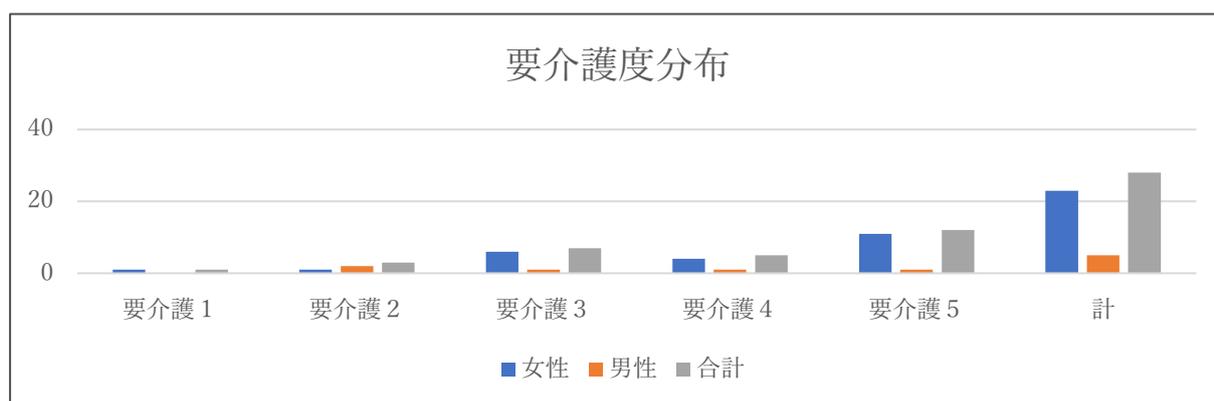
年齢分布（於令和2年3月31日）

	～70歳	70歳～80歳	80歳～90歳	90歳～100歳	100歳以上	計
女性	0	2	10	10	1	23
男性	0	2	3	0	0	5
合計	0	4	13	9	1	28



要介護度分布（於令和2年3月31日）

	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	計
女性	1	1	6	4	11	23
男性	0	2	1	1	1	5
合計	0	3	7	5	12	28



- ② キャリア段位制度の導入に関しては、昨年度にアセッサー資格を取得した職員の異動に伴い、各職員への周知、展開を予定通りに実施することが出来ず、目標とする結果が得られなかった。

③ 研修の取り組み

外部研修

算定基礎届事務講習会	6月21日	じばさん三重
健保協会・年金機構届出事務	7月3日	四日市市文化会館
地域権利擁護支援研修	7月23日	三重県総合文化センター
ユニットリーダー研修	9月3日～6日	地域密着型特養 あおい
地域権利擁護推進員要請研修	10月28日	三重県社会福祉会館
	11月25日	
	1月20日	
感染症対策研修会	11月15日	四日市総合会館

内部研修

食中毒について	7月
高齢者虐待防止	11月
ハラスメントについて	11月
身体拘束について	1月

④ 経費の削減

人員配置の見直し等を行い、残業費を40%と大幅に見直すことができ、また、事務消耗品を細かく確認することで、消費税は上昇したにも関わらずに13%の削減を可能とした。

IV. 各部署の事業計画実施状況

ユニット

【さるびあ】

2カ月に1度のユニット会議の実施、半年に1度の認知症ケア研修を行った。
感染症予防、環境整備は随時行い、安心して過ごせる生活環境を整備した。
年3回、季節に合わせたレク（花見やかき氷など）を行った。

【くすのき】

ユニット会議、同時にリーダーが提案した研修テーマに沿っての勉強会を2カ月に1度開催した。
また、ユニット内での行事（クリスマス会やすき焼きなど）を年4回実施した。

【ほこすぎ】

2カ月に1度ユニット会議を開催した。
また、月に1度の頻度でカラオケや音楽鑑賞、出前などの行事を行った。

生活相談員

利用率は目標を下回り、予定していた定期での活動実施とはいかなかったが、随時関係各所への資料配布等を行い入居やショートステイ利用に結びつけることができた。

ご家族からの要望は随時聞き取り、その都度対応したため、敢えて実施日を決めて相談会などを行うことはなかった。

各職員との面談は実施できず、一部の職員の相談にとどまった。

施設内外の環境整備、清掃には随時配慮した。

月1回の建物点検等、安全面において配慮できた。

2カ月に1度、運営推進会議を開催した。

介護支援専門員

他事業所やケアマネとの連携、施設内でのミーティングに参加し、ケアプランの作成、変更を行った。

看護師

配薬については1件の事故報告があった。朝食後薬が夕食後薬にセットされていたというもので、すぐにチェック機構を見直し、朝、昼、夕の配薬をわかりやすくするよう色分け等を行い、その1件に留まっている。

バイタル測定は毎日行い、体調不良者に関しては医師と連携して早期の対応を行うことができた。

各員会に参加し、意見交換することで、窒息、誤嚥等の事故もなく、予防を図ることができた。

栄養・調理

異物混入や食中毒は0件であった。

行事食は別表の通りである。

外部研修、喫茶開催時の手作りお菓子の提供は、人員不足のため実施できなかった。

他職種とミーティング等で意見交換し、食事形態や内容を検討、改善した。

事務

喫茶の開催やユニットのヘルプ等、利用者サービスの支援は予定通り実施した。

外部研修にも2回参加し、知識を深めることができた。

感染症予防委員会

6/13 11/6 2/12 の3回実施。

7月には、研修として全職員に啓発し、レポートを提出することで買い確認を促した。

2月以降はコロナウィルスの影響で、随時対応策やマニュアルを更新し、周知徹底した。

結果、入居者、職員ともに感染症等による体調不良者は皆無であった。

事故防止検討委員会

5/8 10/8 1/8 3/24 の4回実施。

事故報告数 27件 ヒヤリハット報告数 25件

前年度比でヒヤリハット数は殆ど変化ないが、事故数は半減している。

それについては、適切な報告がその都度なされているかの確認が再度必要とされるため、単に事故数の減少と捉えずに慎重に指示、通達を行っていく必要性があると感じられた。

身体拘束廃止委員会

5/8 10/8 1/8 の3回実施。

1月に研修として全職員に行い、レポート提出をすることで再確認した。

本年度は1件の身体拘束があり、ご家族と協議しながら対応をすすめ、今現在も継続している。

褥瘡予防対策委員会

6/13 11/6 2/12 の3回実施。

褥瘡の処置を行った利用者：入居者2名 ショートステイ利用者1名

入居者2名は比較的軽微あり、早期の回復が可能であった。

ショートステイ利用の方は、途中から入居へ移行し、引き続き治療している。

入居者数29人に対して10床のエアーマット利用を行っており、リスクは決して低くはないため、日頃からの観察が必要であり、医務、介護ともに協働して注意していく。

短期入所生活介護

I. 事業内容

平成26年11月に開設したユニット型特別養護老人ホームに併設された短期入所生活介護施設である。

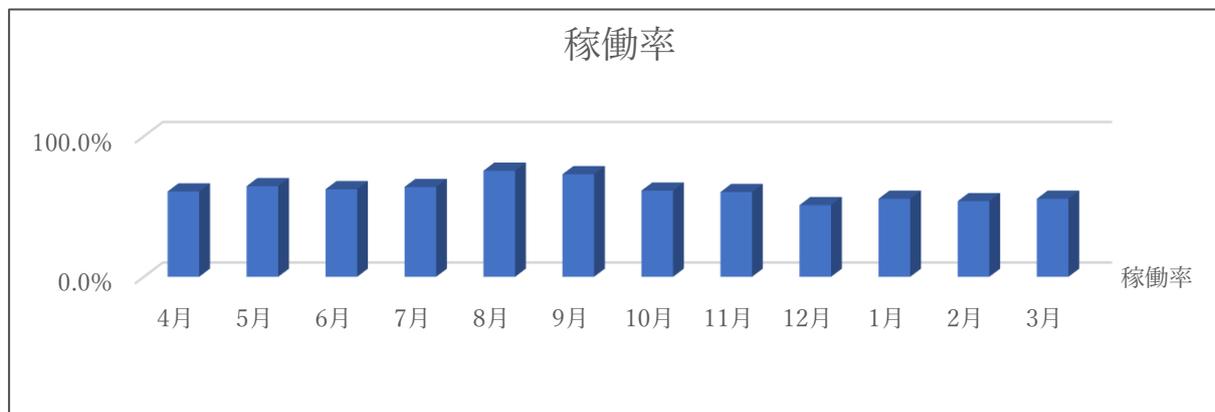
ショートステイ専用10名のユニットは、担当スタッフによる、少数で家庭的な雰囲気でのなじみのある環境の下でご要望や心身の状況に応じたサービスを提供できるよう配慮した。

稼働率は目標を下回り、改善の余地を大きく残す結果となった。

年間の稼働率目標 90%

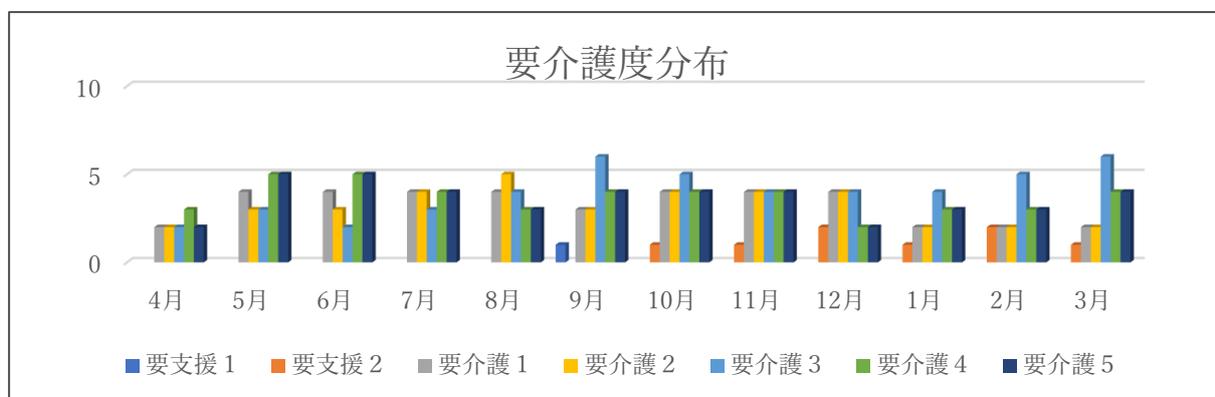
年間の実働稼働率 61.4%

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
稼働率 (%)	60.7	64.5	62.3	63.9	75.5	73.0	61.3	60.3	51.0	55.5	53.8	55.5



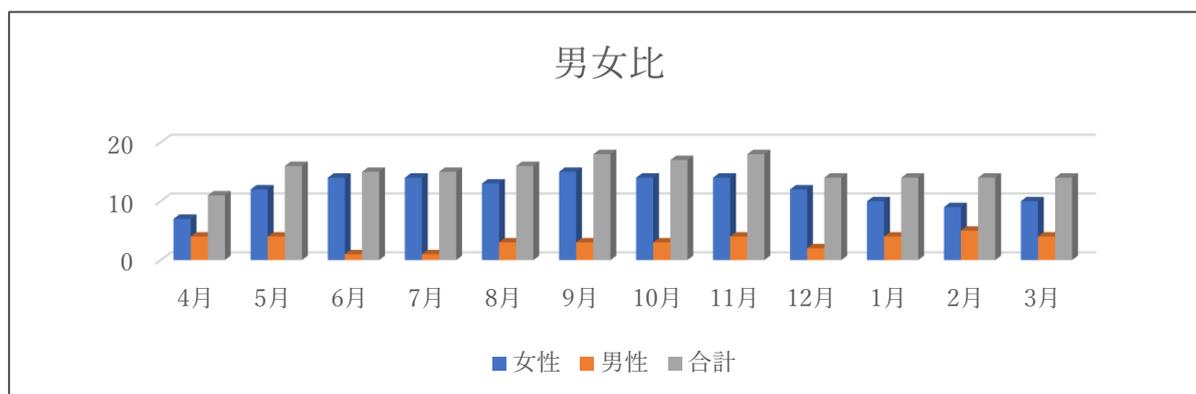
要介護度分布

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
要支援1						1						
要支援2							1	1	2	1	2	1
要介護1	2	4	4	4	4	3	4	4	4	2	2	2
要介護2	2	3	3	4	5	3	3	4	2	3	1	1
要介護3	2	3	2	3	4	6	5	4	4	4	5	6
要介護4	3	5	5	4	3	4	4	4	2	3	3	4
要介護5	2	1	1					1		2		
合計	11	16	15	15	16	16	17	18	14	15	13	14



男女比

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
女性	7	12	14	14	13	15	14	14	12	10	9	10
男性	4	4	1	1	3	3	3	4	2	4	5	4
合計	11	16	15	15	16	18	17	18	14	14	14	14



II. 事業計画実施状況

【はなしょうぶ】

2カ月に1度のユニットミーティングを開催した。

同施設のデイサービス利用者を受け入れ、デイの行事等と連携してサービスを提供する予定であったが、事業所間のサービスの共有は実施できなかった。

しかし、サービス担当者会議の参加し、必要な援助を実施できるよう他業種との連携は図ることができた。

通所介護／介護予防・日常生活支援総合事業

I. 事業内容

施設を利用していただく地域の高齢者の皆様・介護されるご家族の方々が、安心して在宅生活を維持していただけるよう、質の高いサービスの提供を行い、地域の福祉に貢献するとともに、運営の安定化を図るよう心掛けた。

サービス内容

送迎 健康管理 入浴 排泄 食事 おやつ リハビリ体操
レクリエーション 理髪（月1回）

レクリエーション活動

毎日実施するレクリエーションでは、下記のレギュラーメニューを毎日アレンジして計画的に実施した。

- ・脳トレ・缶転がし・ボールゲーム・シートでポン・ローラー大作戦
 - ・魚つり・タオル投げ・輪取り・ボールすくい・カーリング・輪投げ
 - ・ボーリング・ピンポン・ゴルフ・おにぎりの中身は?・ビー玉すくい
- また、新たな取り組みとして、伊勢型紙、組み紐を実施した。

ボランティア

下記の内容のボランティアの受け入れを行い、利用者サービスの向上にご協力をいただいた。

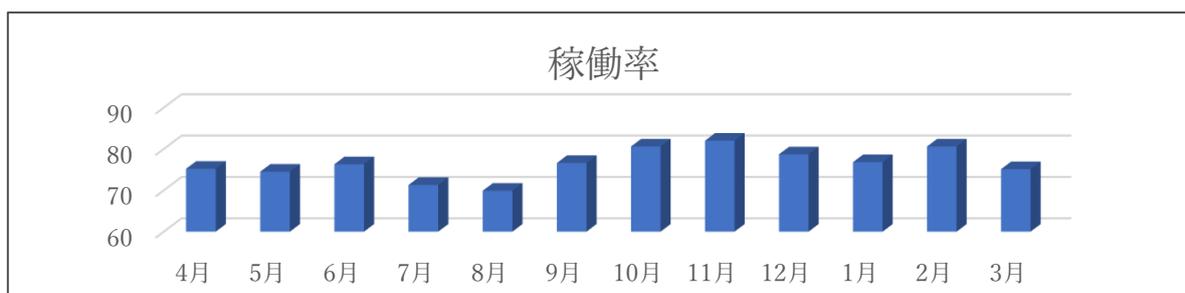
- ・楽器演奏・歌・体操…地域住民を招待（リズムメイトの会：四日市ボランティア）
- ・ダンス・交流（保々地区民生委員有志ボランティア）
- ・訪問（保々小学校3年生生徒）
- ・千羽鶴贈呈（保々地区社会福祉協議会・保々小学校3年生児童）
- ・朝明高校訪問（朝明高校生徒との交流会）

行事

4月	花見	10月	ドライブ
5月	ピクニック	11月	置物作り
6月	色紙作り	12月	クリスマス会
7月	買い物ツアー	1月	初詣
8月	夏祭り：白玉ぜんざい	2月	豆まき
9月	ミニ運動会	3月	ひな祭り

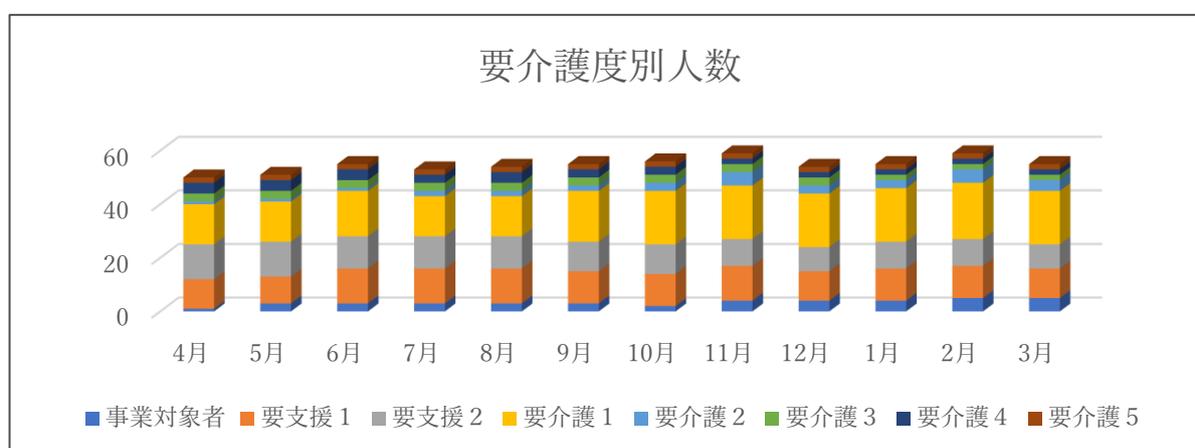
稼働率

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
稼働率 (%)	75.2	74.5	76.3	71.3	69.9	76.6	80.6	82.0	78.7	76.8	80.6	75.1



要介護度分布（利用者人数）

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
事業対象	1	3	3	3	3	3	2	4	4	4	5	5
要支援1	11	10	13	13	13	12	12	13	11	12	12	11
要支援2	13	13	12	12	12	11	11	10	9	10	10	9
要介護1	15	15	17	15	15	19	20	20	20	20	21	20
要介護2	1	1	1	2	2	2	3	5	3	3	5	4
要介護3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	2	2	2
要介護4	4	4	4	3	4	3	3	2	2	2	2	2
要介護5	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
合計	50	51	55	53	54	55	56	59	54	55	59	55



事業計画実施状況

レクリエーション活動は、利用者の意見を取り入れ、昨年度とは何点か違った取り組みを実施し、好評を得た。

ボランティア活動にも力を入れ、伊勢型紙や組み紐など、新たな試みは利用者の興味を引くことができ、継続して実施してゆくつもりである。

ミーティングは定期的（1回/月）に行い、当月の反省と見直しを行っている。

地域住民の方にも体操等に参加していただき、その後にお茶会を催しながら皆様の意見を聞くことができ、地域の方々のご意見を聞かせていただく一助となった。

研修に関しては、職員数の関係から思うように参加する機会を設定できず、また、要介護度の高い方の利用を促すことも目標には遠く、次年度の課題とする。

聖十字保々在宅介護サービスセンター

居宅介護支援事業

I. 事業内容

高齢者が在宅にて自立した生活を送ることができるよう、行政・医療・施設・居宅サービス事業者・地域包括支援センター・地域の資源の活用も含め、その方にとって最も有利なサービスが受けられように、常に利用者の立場に立って、居宅サービス計画書の作成、介護保険の相談業務を行った。

利用者数

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
事業対象	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1
要支援1	7	7	11	12	13	12	13	16	14	14	14	13
要支援2	3	3	3	4	4	4	4	3	3	2	4	4
要介護1	15	16	17	18	17	17	19	18	17	17	17	16
要介護2	6	4	4	4	3	3	4	5	4	4	4	3
要介護3	6	6	6	5	7	6	6	6	7	6	6	7
要介護4	4	3	3	2	3	3	2	2	2	2	2	2
要介護5	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	2
合計	44	42	47	48	50	48	51	53	51	49	51	48

研修実施状況

認知症ケアと倫理	6月21日	富洲原地区市民センター
認知症診察の限界	7月5日	富洲原地区市民センター
北地域主任ケアマネ部会	7月16日	富田浜病院
居宅介護支援部会	7月19日	総合会館

主な相談内容

居宅ケアプラン作成について	8月17日	東員町保健センター
介護予防ケアマネジメント研修	10月7日	社会福祉会館
北地域勉強会	1月21日	あさけプラザ
北地域主任ケアマネ部会	2月12日	羽津老健
居宅介護支援部会	2月21日	総合会館

事業計画実施状況

チェックシートを活用しての業務チェックは不十分であったが、定期的な(1回/月)会議の開催や、部署内、関係部署との情報共有を行いながら業務を遂行した。

また、在宅復帰や施設入所、介護サービス導入を、医師等関係スタッフと連絡を密に行い、スムーズな生活移行を行った。

地域包括や、他事業所との研修会やミーティングでの交流から、意見交換や情報収集を行うことで、困難ケースやサービス組み立てに役立てることができた。

在宅介護支援センター 四日市市委託事業

訪問給食 四日市市委託事業

I. 事業内容

四日市市の委託を受け、地域の福祉相談窓口として、訪問・電話による相談業務を実施した。また、地域の高齢者の実態把握に努めるとともに、地域の1人暮らし高齢者の方々の見守りをするため訪問給食を実施した。

相談件数

高齢者関係

	本人	家族	その他	合計
来所	15件	47件	8件	70件
訪問	107件	35件	2件	144件
電話	18件	84件	106件	208件
合計	140件	166件	116件	422件

障害者関係

(精神障害)	本人	(身体障害)	本人
来所	0件	来所	0件
訪問	2件	訪問	0件
電話	1件	電話	1件
合計	2件	合計	1件

〈おもな相談内容〉

- ・介護保険認定申請
- ・福祉用具購入
- ・施設入居について
- ・デイサービスの利用方法について
- ・訪問給食利用について
- ・居宅介護支援事業所の紹介
- ・入院中の方の在宅復帰に向けての相談
- ・認知症専門医のいる病院の紹介
- ・自動車免許の返納について
- ・住宅改修工事（介護保険）について

令和元年度 在介職員 研修等

令和元年度 第4回 四日市市北地域 勉強会

日時：令和2年1月21日（火） 13：30～15：30

場所：あさけプラザ 2階 第4・第5展示会議室

内容：「生活困窮者の自立相談支援について」共に創ろうネットワーク

講師：四日市市役所 保護課 課長補佐 小西陽司 氏

講師：四日市市社会福祉協議会 生活支援室室長 原田塩子 氏

令和元年度 人権研修

日時：令和元年3月17日 17時00分～17時50分

場所：聖十字保々在宅介護サービスセンター 1階フロア

参加者：大賀崇宏・丹羽隆児・日比野和彦・牧早苗・加藤陽子・稲垣真智子・舟木精一

講師：人権プラザ小牧 館長 坂倉健吾 氏

テーマ：「わたしとあなたと人権」

令和元年度 認知症サポーター養成講座

福祉委員研修会

日時：令和元年6月7日 19：45～21：00

場所：保々地区市民センター

参加者：民生委員児童委員、福祉委員、保々地区福祉協議会 （55名）

講師：舟木精一

令和元年度保々地区地域ケア会議

日時：令和元年10月16日 19：30～20：40

場所：聖十字保々在宅介護サービスセンター 2階 大会議室

<出席者>

田中實氏（連合自治会長）、齊藤俊彦氏（連合老人会会長）、出口文彦氏（地区社協会長）
市川久氏（民生委員会会長）、国保千秋氏（民生委員副会長）、坂倉健吾氏（人権プラザ小牧館長）
稲垣博文氏（地区市民センター館長）、齊藤本治氏（地域マネージャー）山内加奈江氏（高齢福祉課）
後藤貴喜氏（高齢福祉課）、土田仁美氏（北地域包括支援センター）、藤田弥生氏（北地域包括支援センター）、植松裕子氏（北地域包括支援センター）、前納一輝氏（四日市社会福祉協議会）、石橋一幸氏（聖十字保々在宅介護サービスセンターセンター長）、鈴木理恵氏（聖十字保々在宅介護支援センター医療職）、稲垣真智子氏（介護支援専門員）、舟木精一（聖十字保々在宅介護支援センター福祉職）

〈検討内容〉①救急医療情報キットについて

②認知症カフェについて

保々小学校 3 年生向け 認知症キッズサポーター養成講座

日時：令和元年 12 月 13 日 10：40～12：20

場所：保々小学校 視聴覚室

参加者：保々小学校 3 年生 58 名

講師：石橋一幸

令和元年度聖十字保々在宅介護支援センター運営協議会

日時：令和元年 10 月 16 日 19：00～19：30

場所：聖十字保々在宅介護サービスセンター 2 階 大会議室

<出席者>

田中實氏（連合自治会長）、齊藤俊彦氏（連合老人会会長）、出口文彦氏（地区社協会長）
市川久氏（民生委員会会長）、国保千秋氏（民生委員副会長）、坂倉健吾氏（人権プラザ小牧館長）
稲垣博文氏（地区市民センター館長）、齊藤本治氏（地域マネージャー）山内加奈江氏（高齢福祉課）
後藤貴喜氏（高齢福祉課）、土田仁美氏（北地域包括支援センター）、藤田弥生氏（北地域包括支援センター）、植松裕子氏（北地域包括支援センター）、前納一輝氏（四日市社会福祉協議会）、石橋一幸氏（聖十字保々在宅介護サービスセンターセンター長）、鈴木理恵氏（聖十字保々在宅介護支援センター医療職）、稲垣真智子氏（介護支援専門員）、舟木精一（聖十字保々在宅介護支援センター福祉職）

〈協議事項〉

①平成 30 年度事業報告書

②令和元年度事業計画

地域関係団体支援

令和元年度人権プラザ小牧文化祭（主催：人権プラザ小牧）

日時：令和元年 10 月 27 日 11：30～15：00

場所：小牧町西第 2 公会所

内容：模擬店出店（豚汁販売）

参加者：舟木・丹羽

80 歳以上の高齢者の方とひとり暮らしの方の集い（主催：民生児童委員）

日時：10 月 28 日 11：30～15：00

場所：ふれあい会館

令和元年度保々地区文化祭（主催：保々地区各種団体）

日時：令和元年 11 月 3 日 10：00～15：00

場所：ふれあい会館

内容：聖十字保々在宅介護サービスセンターデイサービス利用者 作品展
在介職員による健康相談

地域連携・協力体制構築

民生・児童委員定例会議

日時：毎月第 1 木曜日 19：30～（年間 12 回 出席）

場所：保々地区市民センター

内容：各地区の担当者と要援護者について情報の共有

保々地区まちづくり構想策定委員会

場所：保々地区市民センター

日時：第 1 回→令和 2 年 1 月 14 日 第 2 回→令和 2 年 2 月 25 日

人権プラザ小牧運営委員会

日時：第 1 回→令和元年 5 月 13 日

第 2 回→令和元年 9 月 30 日（年間 2 回 出席）

場所：人権プラザ小牧 2 階 会議室

（第 3 回（3 月開催予定）の会議はコロナウィルスの影響で急遽中止となる）

給食利用者数

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
昼食	261	276	243	294	282	262	286	272	260	251	257	251
夕食	172	179	137	132	136	136	150	146	139	131	142	134
合計	433	455	380	426	418	398	436	418	399	382	399	385

令和元年度地域介護予防普及啓発事業（保々地区）

事業計画実施状況

予定していた会議、協議会、催し等は参加、開催し、随時意見交換ができた。

高齢者詐欺や虐待の対応については事例がなく、引き続き留意していくこととする。

日常生活自立支援事業や成年後見制度の利用に結び付く事案もなく、引き続き研修会や勉強会、会議等で啓発していく。

エンディングノートの作成、利用、救急隊情報提供カードを普及啓発することは、他事案を優先する結果となったことから、実施できなかった。

訪問給食に関しては、安否確認を兼ねて継続実施できており、施設入所等で利用数が減少してはいるが、引き続き地域密着事業として行う必要がある。

	実施日	実施時間	実施場所	講義内容	参加人数
1	6/18（火）	10:00～11:00	西村町上条公会所	食生活について	28名
2	8/7（水）	10:00～11:00	やすらぎ荘	食生活について	10名
3	9/11（水）	10:00～11:00	西村町農営センター	食生活について	19名
4	9/23（月）	14:00～15:00	市場町公民館	食生活について	28名
5	9/28（土）	9:30～10:30	西村町新田公会所	食生活について	32名
6	10/17（木）	9:45～10:45	西村町農営センター	食生活について	28名
7	10/27（日）	10:00～11:00	高見ヒルズ会館	食生活について	27名
8	11/11（月）	14:00～15:10	小牧町北公会所	食生活について	18名
9	11/18（月）	10:00～10:40	小牧町南公会所	食生活について	43名
10	11/28（木）	9:30～10:40	西村町新田公会所	食生活について	30名
11	12/15（木）	10:00～11:00	圓覚寺(小牧町 2420)	食生活について	17名

令和元年度 菰野聖十字の家診療所 事業報告書

I. 事業内容

外来診療：内科、精神科、心療内科
法人内施設利用者の健康管理
法人職員の健康管理・健康相談

II. 令和元年度の主な取り組み

1. 施設利用者の診療、健康管理の充実

併設の特別養護老人ホーム、障害者支援施設、介護老人保健施設、ケアハウスの利用者の方々に、適切な医療サービスを提供し、治療および健康管理の増進に努めた。

2. 医療・福祉の連携強化

各施設の看護職員、介護職員とも緊密に連携し、医師の診察・治療に加え、日常の健康指導やリハビリ、生活指導を積極的に実施し、より効果的かつ継続的な福祉医療サービスの提供に努めた

3. 感染症予防への積極的取り組み

施設内利用者、さらには職員に対し、インフルエンザ等の予防接種を実施し、感染症予防に努めた。

4. 医療報酬制度に即した医療体制の確立を図る

診療報酬の改定による制度の変化に対して、常に情報を収集し、柔軟かつ敏感に対応できるよう努めた。

5. 医療体制の強化

常勤医師（精神科）、非常勤医師（脳神経外科）の2名体制により多岐にわたる専門的診療体制を整備した。